



SD11 取扱説明書

ソフトウェアバージョン 1.0.426+、マニュアルバージョン A

SD11 Operation Manual

0.1 安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人々への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容をよく理解してから本文をお読みにになり、記載事項をお守りください。また、お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してください。

●注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

警告	この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
注意	この表示内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

警告

- コンソール及び電源ユニットは、機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。バランスが崩れて落下すると、けがの原因となります。
- 電源ケーブルの上に重いものをのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。
- 電源ケーブルが傷んだときは（断線・芯線の露出等）、販売店に交換をご依頼ください。
- 雷が鳴り出したら、金属部分や電源プラグには触れないでください。感電の恐れがあります。
- 機器の上に水の入った容器や金属片などを置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると火災や感電の原因となります。
- 万一コンソールを破損した場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。
- そのまま使用すると火災の原因になることがあります。
- 必ず専用の電源ユニットを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり大変危険です。
- AC100V、50Hz/60Hz の電源で使用してください。異なる電源で使用する火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 雷が鳴り出したら電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
- 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

注意

- コンソール及び電源ユニットを移動する際は、背中や腰を痛めないように、重量に十分注意してください。必要に応じて、何人かで協力して作業を行ってください。
- 万一、落したり破損が生じたりした場合は、そのまま使用せずに修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。
- 以下のような場所には設置しないでください。
直射日光の当たる場所/ 極度の低温又は高温の場所/
湿気の多い場所/ ほこりの多い場所/ 振動の多い場所/
風通しの悪い場所
- 配線は電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 電源を入れる前や音声ケーブルの接続時には、各ボリュームを最小にしてください。
- 突然大きな音が出て聴覚障害などの原因になることがあります。
- ヒューズ及びモジュールを交換する際は、専任のサービス要員にお問い合わせください。正しく取り付けられていないと感電や火災の原因となります。
- ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 廃棄は専門業者に依頼してください。燃やすと化学物質などで健康を損ねたり火災などの原因となります。
- ヘッドホンは大きなボリュームで使用しないでください。耳を痛めることがあります。

0.2 使用上のご注意

取り扱いおよび移動について

コンソール及び電源ユニットは堅牢に仕上げられておりますが、次の事に注意していただくと、性能・耐久性をより長く維持することができます。

- 正しい内寸に作られた頑丈なフライトケースに入れて移動してください。
- フライトケースから出して移動する場合は、各ツマミやコネクタ部に衝撃を与えないように十分注意してください。
- 全ての配線を取り外してから、移動してください。
- コンソール及び電源ユニットの外装を、ペンジンやシンナーなどでふかないでください。変質や塗料がはげる原因になることがあります。外装のお手入れには、乾いた柔らかい布をご使用ください。

0.3 設置について

- 高電圧送電ケーブル、ブラウン管、テープレコーダー等の強電磁界付近への設置は避けてください。外部からの誘導電界は、音声回路に悪影響を与えます。コンソール本体と電源ユニットも、できるだけ離して設置してください。
- 放熱が良い環境で使用してください。フライトケース等に収納して使用する場合は、通気スペースを充分に取ってください。その際、吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。
- 電源ユニットーコンソール間の DC ケーブルを延長しないでください。本来の性能が維持できなくなるだけでなく、故障の原因になります。

0.4 信号レベルについて

各入出力信号の仕様をご確認の上、以下の点に注意して接続を行ってください。

- コンソールへ接続する入力信号が、適切なレベルのものかどうか確認してください。S/N 比等の特性を悪化させる原因となります。
- バランス入力に同相信号や高周波信号を入力しないでください。また、出力コネクタに信号を入力することも避けてください。
- アンバランス型マイクロホンや、電源内蔵のコンデンサ型マイクロホン、ダイレクトボックスをマイク入力に接続して 48V ファンタム電源を入れしないでください。モジュールのみならず、マイク本体や外部機器を破損する危険があります。

0.5 保証書について

- 保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より1年間は保証期間です。保証書の記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名/所在地」が正しく記入されていない場合は保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- 改造など通常の使用範囲を超えた取り扱いによる、設計・製造以外の要因で起きた故障や不具合は、期間内であっても保証の対象外となります。

0.5.1 故障かな？と思われる症状が出たときには

この取扱説明書をもう一度よくお読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときは、お買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

0.6 目次

0.1 安全上のご注意	2
0.2 使用上のご注意	2
0.3 設置について	2
0.4 信号レベルについて	2
0.5 保証書について	3
0.5.1 故障かな?と思われる症状が出たときには	3
0.6 目次	4

第1章 はじめに

1.1 はじめに	7
1.2 取扱説明書の概要	7
1.3 ご使用前に	8
1.3.1 サーフェスのレイアウト	8
1.3.2 スクリーンの割り当て	8
1.3.3 チャンネルバンク	8
1.3.4 コンソールを使用する	9
1.3.5 チャンネルの選択	9
1.3.6 マスターフェーダー	10
1.3.7 その他の機能	11
1.3.8 チャンネルタイプ	12
1.4 ハードウェア構成	13
1.4.1 接続	13
1.4.2 Audio I/O パネル	13
1.5 セッションを構成する	16
1.5.1 セッションの構造	16
1.5.2 フェーダーをコンソールに割り当てる	17
1.6 セッションの保存/読み込み	18
1.6.1 新規ファイルとして保存	18
1.6.2 セッションの保存	19
1.6.3 セッションの読み込み	19
1.7 音声の同期	19
1.8 ルーティングの基本	20
1.8.1 入出力の選択	20
1.8.2 リップル・チャンネル	21
1.9 プリセット	22
1.10 チャンネルとバスの名称をつける	23
1.11 チャンネルプロセッシング	24
1.11.1 イコライザー	24
1.11.2 ダイナミクス	24
1.11.3 AUX	25
1.12 マトリクス	26
1.13 コントロールグループ	26
1.14 ソロ設定	27

第2章 チャンネルタイプと機能

2.1 チャンネルタイプ	30
2.2 チャンネル入力設定 - 共通の項目	30
2.2.1 入力チャンネルストリップセクション	30
2.2.2 チャンネル名	30
2.2.3 チャンネルセーフ	30
2.2.4 チャンネル設定	31
2.2.5 チャンネル・ソロ	33
2.3 チャンネル出力およびインサート - 共通の項目	33
2.3.1 チャンネルストリップ出力エリア	33
2.3.2 チャンネルストリップ・インサート・エリア	34
2.3.3 コンソール出力およびインサートのルーティング	35
2.3.4 FX プリセットの作成と構成	35
2.4 入力チャンネル独自の機能	37
2.4.1 トリムおよびトラック	37
2.4.2 入力ルーティング	37
2.4.3 入力の構成	37
2.4.4 出力ルーティング	38
2.4.5 AUX バスおよびアサインابل・コントロール	38
2.4.6 グループ出力	39
2.4.7 ダイレクト出力	40
2.5 グループチャンネルの独自機能	41

2.6 AUX チャンネル独自の機能	41
2.7 マトリクスチャンネル独自の機能	42
2.8 チャンネル信号処理	42
2.8.1 チャンネル・フィルター	42
2.8.2 チャンネルイコライザー	42
2.8.3 チャンネル・ダイナミクス	44
2.9 LCD スイッチ	46
2.9.1 LCD スイッチについて	46
2.9.2 ソロ	46
2.9.3 SOLO CHOICE	46
2.9.4 GANG	46
2.9.5 JOIN CG	47
2.9.6 フェーダーの割り当て	48
2.9.7 Unassign Faders	49
2.9.8 Copy Bank From	49
2.9.9 Copy Bank To	50
2.9.10 Clear Bank	50

第3章 マスターディスプレイ

3.1 System メニュー	52
3.1.1 Diagnostics	52
3.1.2 Oscillator	52
3.1.3 Security	52
3.1.4 Clear Over Indicators	54
3.1.5 Overview Clear Screen	54
3.1.6 Keyboard Help	54
3.1.7 F10: Reset FX	54
3.1.8 F11: Reset Engine	54
3.1.9 F12: Reset Surfaces	54
3.1.10 Set Date & Time	54
3.1.11 Shut Down	54
3.2 Files メニュー	55
3.2.1 セッションの構造	55
3.2.2 セッションの読み込み	56
3.2.3 セッションの保存	57
3.2.4 新規セッションとして保存	57
3.2.5 Load Presets	58
3.2.6 Save Presets	58
3.2.7 Global Set To Default	59
3.2.8 Session Notes	59
3.2.9 Session Report	59
3.3 Layout メニュー	61
3.3.1 Fader Banks	61
3.3.2 Channel List	62
3.3.3 Transport Control	63
3.4 Snapshots メニュー	63
3.4.1 スナップショットの保存	64
3.4.2 スナップショットの呼び出し	64
3.4.3 スナップショットの置き換え	64
3.4.4 複数のスナップショットを一括で編集	64
3.4.5 スナップショットの移動	65
3.4.6 スナップショットの名称変更	65
3.4.7 スナップショットの番号を付け直す	65
3.4.8 スナップショットを削除する	65
3.4.9 スナップショットの取り消し	65
3.4.10 Snapshot Notes	66
3.4.11 スナップショット・グループ	66
3.4.12 Global Recall Scope	68
3.4.13 個別の Snapshot Recall Scope	68
3.4.14 Snapshot Crossfades	69
3.4.15 Snapshot Recall Times	70
3.4.16 スナップショットと MIDI	70
3.4.17 MIDI デバイス	71
3.4.18 MIDI Program および MIDI List	72
3.4.19 スナップショットと GPO	73
3.4.20 スナップショットと MTC	73

3.5 Options メニュー.....	74	3.9.9 Audio Sync.....	88
3.5.1 Surface.....	74	3.9.10 Timecode & Transport.....	88
3.5.2 Faders.....	75	3.9.11 Macros.....	88
3.5.3 Solo.....	75	3.9.12 Macro Editor.....	89
3.5.4 Disable.....	76	3.9.13 トークバック.....	90
3.5.5 Brightness.....	76	3.9.14 AUX パスへのトークバック出力.....	91
3.5.6 Meters.....	77		
3.5.7 Session.....	77	第4章 ネットワーク/ミラーリング.....	92
3.5.8 Status.....	78	4.1 ネットワークとミラーリング.....	93
3.6 Matrix メニュー.....	79	4.1.1 ネットワーク構成.....	93
3.6.1 Matrix パネル.....	79	4.1.2 ミラーリングを初めて行う場合.....	93
3.7 グラフィックイコライザーメニュー.....	80	4.2 マルチコンソール設定.....	94
3.7.1 Graphic EQ パネル.....	80	4.2.1 FOH コンソールとモニターコンソールでステージラックを共有する (MADI).....	94
3.7.2 グラフィックイコライザーのギャング.....	80		
3.7.3 Graphic EQ ALL スイッチ.....	81	第5章 トラブルシューティング.....	97
3.7.4 グラフィックイコライザープリセット.....	81	5.1 トラブルシューティング.....	98
3.8 Solos メニュー.....	82	5.1.1 コンソールを立ち上げる.....	98
3.8.1 Solo パネル.....	82	5.1.2 音声を通らないチャンネルがある.....	98
3.8.2 No Solo Setup ディスプレイ.....	83	5.1.3 希望のスナップショットが呼び出せない.....	98
3.8.3 ソロバスをコンソール上の操作に割り当てる.....	83	5.1.4 スナップショットが希望通りにインサートされない.....	98
3.8.4 ソロ出力のルーティング.....	83	5.1.5 コンソール上の制御を割り当てる.....	98
3.8.5 ヘッドホン出力.....	84	5.1.6 コンソールにチャンネルが表示されない.....	99
3.9 Setup メニュー.....	84	5.1.7 ソロバスから信号がこない.....	99
3.9.1 Audio I/O.....	84	5.1.8 ソロに設定していないのにソロバスから信号が出力される.....	99
3.9.2 ポートの選択.....	85	5.1.9 外部キーボード.....	99
3.9.3 ポート・ハードウェア構成.....	85	5.1.10 コンソールをリセットする.....	99
3.9.4 ポートのコントロール.....	86	5.1.11 トークバック.....	99
3.9.5 Socket ディスプレイ.....	86	5.1.12 メーター.....	99
3.9.6 端子の一致.....	87	5.1.13 コンソールのライティング調整.....	99
3.9.7 グループおよび端子名.....	87	5.1.14 診断(Diagnostics).....	99
3.9.8 ソケットオプション.....	87		

DiGiCo SD11 操作マニュアル

第 1 章 はじめに

1.1 はじめに

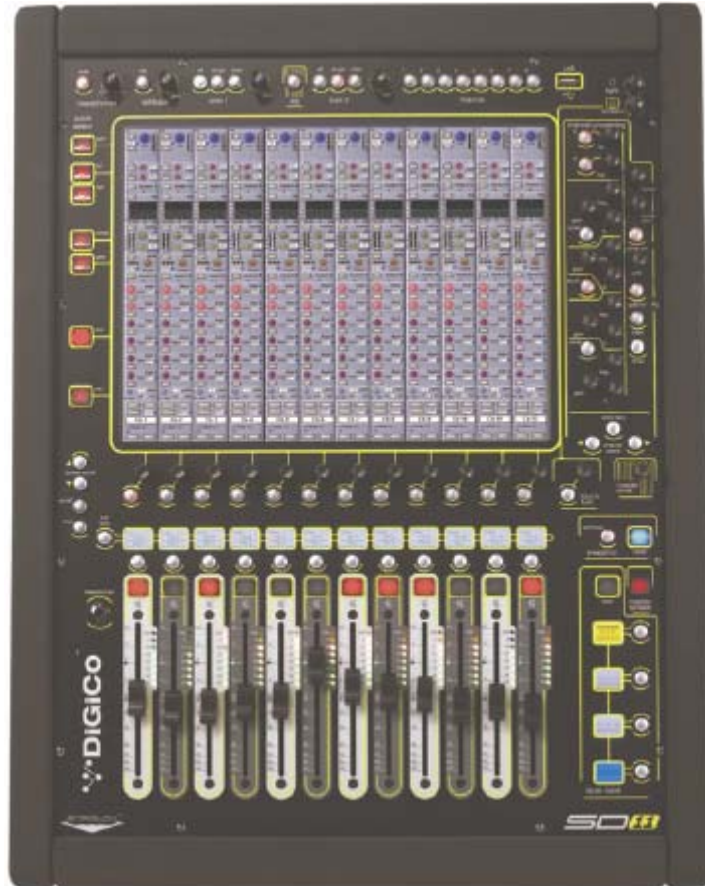
Digico SD11 は、音声エンジンおよび各種のオンボード入出力を持つラックマウント可能なワークサーフェイスです。コンソールは全ての音声入出力信号を伝送する CAT5 ケーブルまたは MADI リンクを介して、複数の入出力ラックと接続可能です。

コンソールは 32 入力チャンネル (8 つはステレオ可能)、VCA × 8、モノラルもしくはステレオバス × 12、マトリクス入出力 × 8、グラフィックイコライザー × 12、ステレオエフェクト × 4 のセクションで構成しています。

コンソールに向かって左右のセクションは 12 本のフェーダーと 12 セットの割り当て可能な調整つまみを搭載し、どちらのセクションも中央のタッチスクリーンに割り当て可能です。

SD11 は複数のコンソールおよびラックを使用したネットワークシステムを構築することで多様な音響システムに柔軟に対応します

- ・ ステージラックおよびゲイントラックを共有したフロントオブハウス (FOH) およびモニタリング
- ・ 他のコンソールあるいはノートパソコンから別のコンソールをリモートコントロール
- ・ ワークサーフェイスの拡大の為にオーディオエンジンのリダンダンシー用に 2 つのコンソールのミラー (描写) など



1.2 取扱説明書の概要

本取扱説明書は以下の構成で SD11 の機能について記載しています。

- ・ 第 1 章 コンソールの概要および、基本的な操作方法
- ・ 第 2 章 異なるチャンネル形式の機能
- ・ 第 3 章 マスターセクションのタッチディスプレイで設定を行う各種メニュー
- ・ 第 4 章 ネットワーク、ミラーリングおよびマルチコンソール設定
- ・ 第 5 章 トラブルシューティング

本文内、太字で記載している項目はコンソール上およびディスプレイ上で実際に記載されたラベル名を表します。

[>] はスイッチを押す順序を表します。例えば、Layout > Fader Banks は、Layout スイッチを押した後、Fader Banks スイッチを押すことを表します。

SD11 Operation Manual

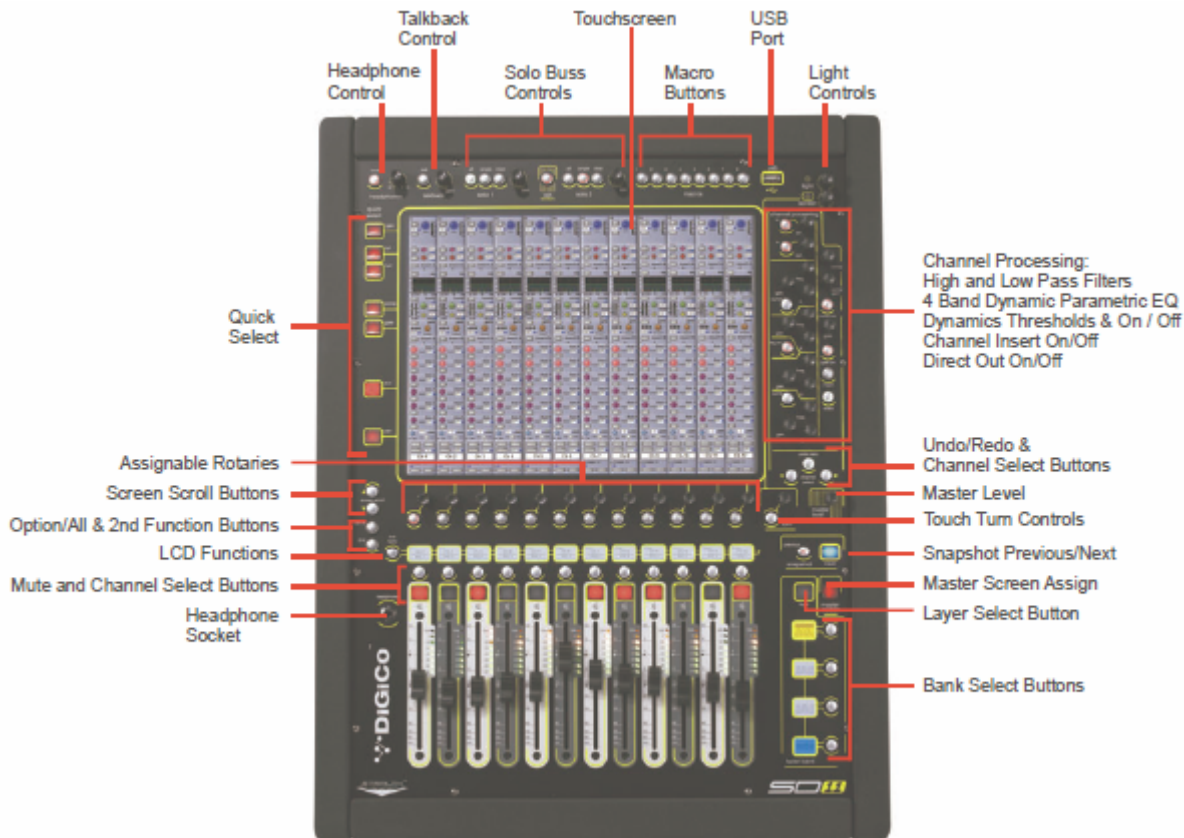
(P1-4)

第 1 章 はじめに

1.3 ご使用の前に

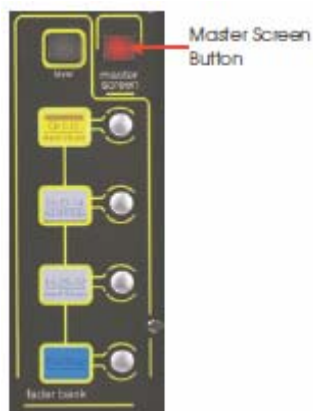
この章では SD11 の基本的な情報を記載します。この章をお読みいただき、十分に理解された上で以降の章に進んでください。

1.3.1 サーフエスのレイアウト



1.3.2 スクリーンの割り当て

SD11 は中央のタッチスクリーンを使用してコンソールの様々な機能を呼び出します。選択されたフェーダーバンク用のインチャンネルコントロールがマスターメニューかどうか表示します。タッチスクリーン右下にはマスタースクリーンを呼び出す master スイッチがあります。マスタースクリーンはチャンネル設定ではなく、システム設定などコンソール全般の設定を行います。



1.3.3 チャンネルバンク

SD11 のコンソールはバンクに分かれて構成しています。SD11 は 2 つのレイヤーを持ち、12 フェーダーの 4 つのバンクで構成されています。アクティブなレイヤーは、master screen ボタンの左にあるレイヤーボタンを使用して選択し、チャンネルのバンクはコントロールサーフェイス上で現在アクティブになり、それらの下にある fader bank ボタンを使用の定義をします。(上記図参照)

各バンクは、Layout > Fader Banks パネルに属しています。初期設定では入力チャンネルは Layer1 の最初の 3 つのバンクに割り当てられ、その他の出力チャンネルはコントロールグループやマスターフェーダーとともに Layer1 のバンク 4 に割り当てられ、異なる

出力チャンネルは Layer2 へ割り当てられます。バンクの割り当て設定はユーザーが自由にカスタマイズでき、いつでもセッションとして保存可能です。

(P1-5)

1.3.4 コンソールを使用する

SD11 の各機能呼び出すには、主に 2 つの方法があります。

- ①キーボードやマウス、タッチディスプレイを使用する
- ②コンソール上のエンコーダーやフェーダー、スイッチを使用する

※タッチディスプレイを使用する場合、スクリーンに傷が付かないように指で操作するもしくは、スタイラスペンのようなタッチディスプレイ専用の器具のみを使用してください。また、ディスプレイを強く押さないように注意してください。

機能の呼び出し方法は様々な異なる方法があり、ユーザーは好みのインターフェースを使用して操作を行えます。この取扱説明書では、マウス等を使用せずディスプレイに直接タッチして機能にアクセスする方法を説明します。

マスターセクションの物理的な操作は全て、取扱説明書内の該当する項目で説明しています。マスタースクリーン下部には、各種の構成メニューを呼び出すための灰色のスイッチが一行に配置され、スイッチを押すとドロップダウンメニューあるいはポップアップボックスが表示されます。ドロップダウンメニューを開いた場合、メニュー内のいずれかの項目を押すとポップアップ・ディスプレイが開き、スイッチが点灯します。

ポップアップ内のスイッチは機能が停止している場合灰色になり、機能が有効になると、濃淡の薄い背景に切り替わります。テキストボックスを押すとキーボードが開き、ディスプレイもしくは外部キーボードを使用して入力が可能です。

ポップアップボックスを閉じる場合は、CLOSE または CANCEL マークのついた右上のコーナーにあるボックスをタッチする、もしくはキーパッドの CAN を押してください。

スクリーン右下には Touch-Turn（写真下）と書かれたエンコーダーがあります。これはマスタースクリーン内に表示されたロータリーポットにアクセスするつまみです。調整を行うポットをタッチすると、スクリーン内のポットの周囲に色付きのリングが表れ、Touch-Turn エンコーダーに割り当てられていることを示します。その後 Touch-Turn エンコーダー回すと選択したポットの調整が行えます。



1.3.5 チャンネルの選択

チャンネルストリップ・ディスプレイ内で金色にライトアップされたチャンネルは現在選択中であることを表し、以下に記載するような細かい調整が可能です。

チャンネルの選択はチャンネルストリップ・ディスプレイ内の希望のチャンネルの AUX SEND 部以外のエリアをタッチしてください。

チャンネルの選択を行うと、チャンネルのパラメーター全てを調整可能になります。入出力ルーティングやダイナミクス設定など、ディスプレイ内のチャンネルストリップ上にも表示されていないパラメーターはストリップ内をタッチすることで表れるポップアップボックスを使用して設定できます。

コンソール上に配置された実際のロータリー・エンコーダーはディスプレイ内のポットを任意で割り当てられます。どの機能が割り当てられているかを明確にするため、ディスプレイ内のポット周囲に色付きのリングが表示されます。

スクリーン真下の 12 個のロータリー・エンコーダーおよびスイッチは、ディスプレイ内の同列のチャンネルに対応しています。



スクリーン左の Quick Select スイッチの 1 つを押すと、該当する機能が選択しているチャンネルに割り当てられます。6 系統の AUX センドはチャンネルストリップパネルに一度に表示できます。7 つ以上の AUX センドを作成した場合は、ディスプレイ左下にある scroll スイッチで残りの AUX を表示可能です。

チャンネルストリップ・ディスプレイの右側にあるエンコーダーおよびスイッチ（下図）は選択したチャンネルの調整を行います。



1.3.6 マスターフェーダー

下側 2 本のマスターフェーダーは touch turn エンコーダーの隣にある master level を使用してデフォルトで一番低いステレオ・グループ出力となるマスター・グループ出力に割り当てられます。加えてマスター・グループ出力の Solos パネルを使用してマスターフェーダーをソロバス出力に割り当てても可能です。



1.3.7 その他の機能

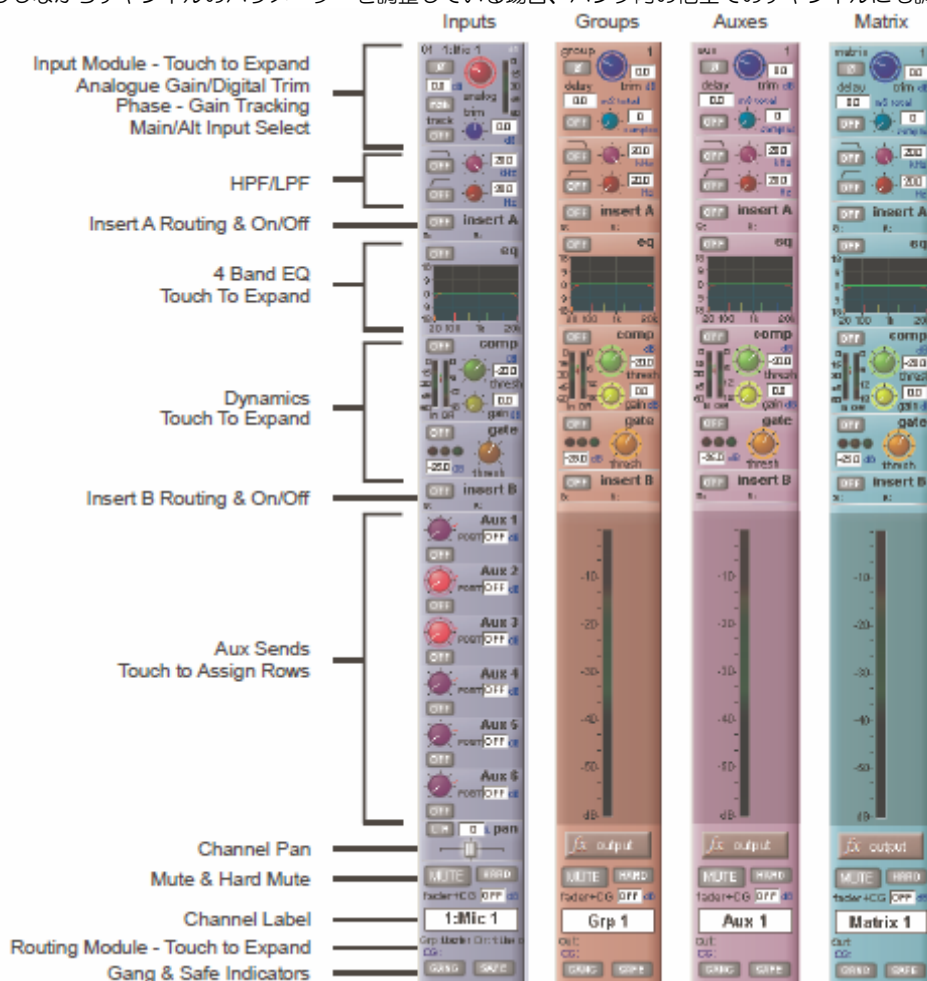


スクリーン左の 2nd Function スイッチを押すと通常の操作とは異なる 2 次的な機能の設定が行えます。

- ①ステレオ AUX パンおよびプリ/ポスト切り替え
- ②チャンネルのハードミュート
- ③出力チャンネルディレイの微調整

Option all スイッチは主に以下の 2 つの機能があります。

- ①スイッチを瞬間的に押した場合(モメンタリー動作)、ギャングメンバーに割り当てたチャンネルを一時的にギャングメンバーから外します。
- ②スイッチを長押ししながらチャンネルのパラメーターを調整している場合、バンク内の他全てのチャンネルにも調整が適用されます。



(P1-7)

1.3.8 チャンネルタイプ

SD11 の信号の流れは以下に記す 4 つのチャンネルタイプに分かれています。各チャンネルには全てのチャンネル機能を使用でき、それぞれ以下の特徴があります。

- ・入力チャンネルはコンソールに信号を入力し、ミックスや AUX、グループバスに送ります。
- ・AUX チャンネルは入力チャンネルを多様にミックスし、AUX 出力に送ります。主にモニターミックスやエフェクトセンドに使用します。
- ・グループチャンネルは入力チャンネルをグループとしてミックスし、バス出力やマトリクス出力に送ります。
- ・マトリクスチャンネルはマトリクス出力をコンソールのメイン出力に送ります(オプション)。

グループ、AUX、マトリクスチャンネルは出力チャンネルです。AUX、マトリクスチャンネルは出力にルーティングされるチャンネルタイプで、4 つのタイプ全てダイレクトに出力ヘルパーティング可能です。

TB チャンネルは自身のチャンネルタイプを持っています。マニュアルの Master Screen の項目にて述べています。

チャンネルはコンソール上の 12 個のバンクで配置され、入力チャンネルは水色、グループチャンネルは赤色、AUX チャンネルは紫、マトリクスチャンネルは青緑色のそれぞれ異なる色で色分けされます。

初期設定では入力チャンネルは Layer1 のバンク (Control Group と共に) に割り当てられます。出力チャンネル (グループ、AUX およびマトリクス) は Layer2 のバンクに割り当てられます。

各出力チャンネルタイプの制御項目は同じですが、入力チャンネルタイプは複数の追加機能を搭載しています。

(P1-8)

1.4 ハードウェア構成

1.4.1 接続

多様な音響システムの接続についての詳細な情報は各章ごとに記載しています。本章ではコンソール 1 台、ラック 1 台のシンプルな接続構成について記載します。

コンソールおよびラックの電源を入れる前に、全ての接続を完了してください。

コンソールとラックはそれぞれリダンダントの予備電源を搭載しており、常時切り替えが可能です。コンソールの電源を入れるとソフトウェアが自動的に立ち上がり、最後にシャットダウンした時と同じコンソールの設定になります。シャットダウンする場合は System>Shut Down スイッチを押し、電源を安全に落とすことができることを示すメッセージが表示されるまでお待ちください。

SD11 コンソールの背面パネルには 16 系統のアナログ入力、8 系統のアナログ出力および 1 系統の AES 入出力があります。さらにリモートの D ラックは 32 系統のアナログ入力および 8 系統のアナログ出力を標準で搭載しています。コンソールと D ラック間は、1 本の 75M SSTP CAT5e ケーブルで接続を行い、D ラックをもう 1 台拡張する場合も同様です。

また、SD11 は標準的な BNC コネクタを採用した MADI IN & OUT を搭載し、75 Ω 同軸ケーブルを使用して DiGiCo 製 DiGiRack や SDRack、MaDiRack、MiNiRack または MADI 接続に対応した外部レコーダーなどを接続可能です。

MADI ポートは MADI が装備されたレコーダーへ接続され使用することができます。



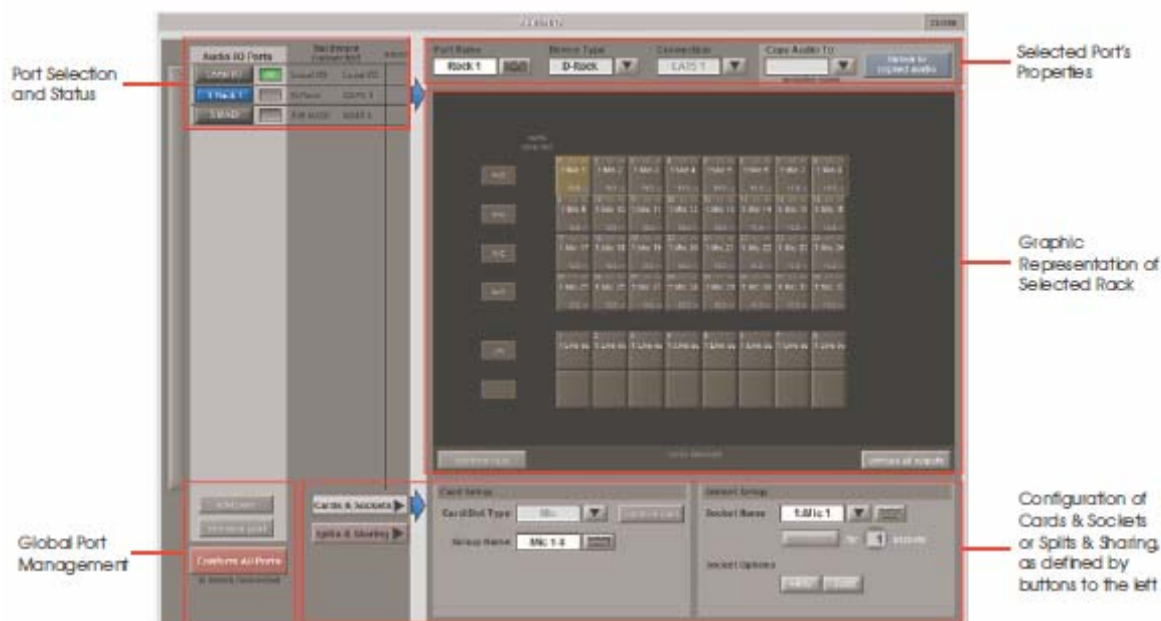
1.4.2 Audio I/O パネル

Audio I/O ウィンドウでラックに実装したカードの端子構成や名称設定、パッドやファンタム電源の設定など、SD11 に接続している物理的な入出力の設定を行います。

Local I/O: コンソール背面に実装したローカル I/O を利用できます。ローカル I/O は接続しているラックとは独立して動作します。

SD11 の Audio I/O ウィンドウは、マスターディスプレイで Setup > Audio I/O の順に選択して呼び出します。

Audio I/O ウィンドウは下記の項目へ割り当てられ開きます：



一番左側のセクションにはポートを表示します。各ポートは利用可能な物理的音声接続（ローカル I/O、MADI ポートあるいは D ラックポート）に対応しています。ポートはウィンドウの左下にあるボタンで追加や削除が可能です。

右隣のセクションはポートに関する設定です。ポートを選択すると、選択したポートのステータスを反映してこのセクションの項目が変化し、必要に応じて変更できるようになります。

(P1-9)

右上のセクションは選択したポートに接続しているラック構成を視覚的に表示します。選択したポートに応じてグラフィックが変化し、利用可能な物理的な入出力を図示します。図内の「四角」は物理的な音声接続または端子を表わしており、ラックの I/O カードまたはコンソール背面のローカル I/O を列または行で表示します。

右下のセクションでは各チャンネルの名称設定、ファンタム電源の ON/OFF、パッド選択、カードまたはスロット、端子の構成が行えます。Cards&Sockets と Splits& Sharing ボタンはどの要素が構成で表示されるかを定義します。

ローカル I/O 構成は固定のためハードウェアの変更は行えません。しかし、Port Name（ポート名）、（各物理的なカードの名称に関係する）Group Name（グループ名）、および Socket Name（端子名、カード上の物理的なコネクタの名称）の変更は可能です。

ラックの接続

Audio I/O ウィンドウ、一番左のポート選択リストでラックを選択した場合、ラックに実装されたカードに応じて以下の画像のように表示が変化します。この画像では、6 個のカード/ スロット（4 入力、2 出力）を実装し、利用可能であることを表します。

※ D ラックで変更可能なスロットはアナログもしくは AES 出力にできる 2 番目の出力スロットのみです。



ラックを使用するためには、ディスプレイに表示されたラックの情報がラックに実装しているカードと一致している必要があります。ラック構成の確認は以下の 2 つの手順で行えます。

手動によるラックの確認:

各カード（列）を選択し、ウィンドウの下側にある Card/Slot Type ドロップダウンメニューから手動で適切なカードを選択します。正しいカードタイプを選択すると選択したカードの一番下にあるラベルが緑色に変わり、実装しているカードと一致していることを示します。カードタイプ名称が赤くなっている場合は不一致のため、正しいカードタイプを再度選択してください。

自動によるラックの確認:

下記は自動確認の 3 つのレベルです：

全体的に、ウィンドウの左下にある赤い Conform All Ports ボタンを使用します。

ラックごとに、ウィンドウのラックを見る項目の下にある **conform rack** というボタンを使用します。

カードごとに、ウィンドウの下項目にある Card/Slot タイプのボタン選択の隣にある **conform card** を使用します。（選択されるべき Cards&Sockets ボタンは左下にあります）

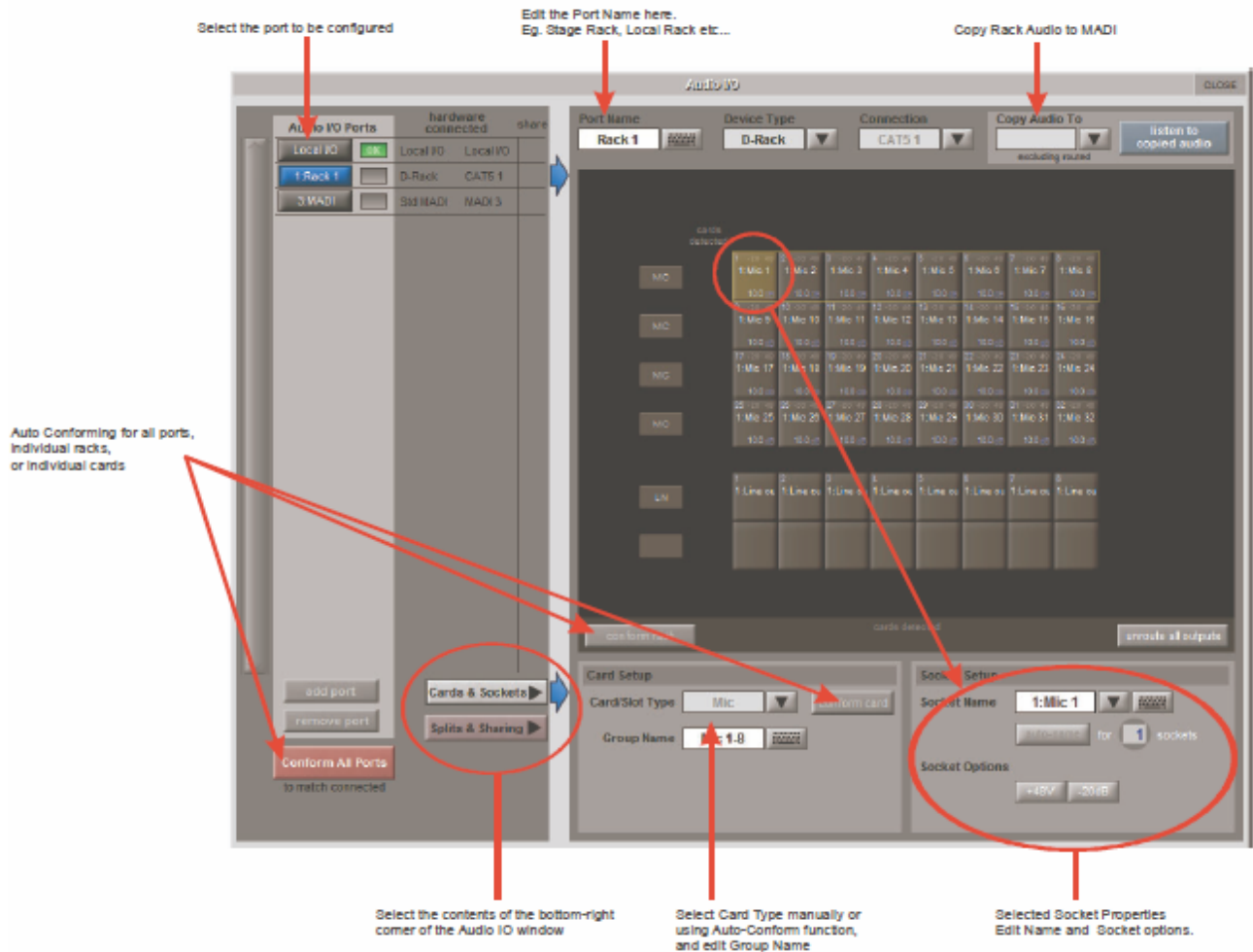
それらのボタンを押すとカードタイプを正しく選択します。一旦完了すると、全てのカードレベルの下各スロットは緑色に変わります。

音声をコピーし、コピーした音声を聴く（MADI レコーダー設定）

1 つの D Rack からの信号を MADI Port Output にコピーする場合は、ports リストから入力ポートを選択し、Copy Audio To ドロップダウンメニューを使用します。例えば、D Rack1 の音声入力を Port に接続した MADI 対応レコーダーにコピーする場合、ports リストで Rack 1 を選択した上で Copy Audio To ドロップダウンメニューから Port を選択してください。これで Rack 1 の 32 入力が SD11 MADI 出力にコピーされ、必要に応じて録音が可能です。

さらにレコーダーの MADI Output をコンソールの SD11 MADI Input に接続することで、元のソースと同じチャンネルで再生をモニタリングできます。Listen To Copied Audio スイッチを押して再生をモニターし、再度同じスイッチを押すことでラックからのライブ・ソースのモニタリングに戻ります。

(P1-10)



標準的な MADI 接続

DiGiCo 製ラック以外の機器で SD11 と標準的な MADI 接続を行っている場合、通常のラック・スタイルの名称ではなく MADI 1、MADI 2 のような総称的な信号名で表示できます(最大 MADI 56 まで)。この名称をつけることで信号に影響を与えずルーティングが簡単に行えます。

コンソールからコンソールへのルーティング

2 台の DiGiCo コンソールを MADI を使用して接続している場合、音声を一括でルーティングできます。ポートは標準的な MADI 接続で 2 台目のコンソールと接続します。

全てのアウトプットのアンルーティング

選択されたポートへ全ての出力が、カードグラフィックの下での **unroute all outputs** ボタンを押すことで一旦アンルートされ、yes を選択すると警告ポップアップが現れます。

注意：この作業はチャンネルスクリーン内で全てのルーティング作成をキャンセルし、できなくなります。

Splits & Sharing

ラックを MADI で接続して 2 台の DiGiCo コンソール間で共有するなど、複数のコンソールを使用したシステムの場合、ゲイン、ファンタム電源、パッドの制御は、片方のコンソールのみが行います。この設定状態を回避する場合は、各 SD11 を個別に 3 種類の運転モードのいずれかに設定してください。

Splits&Sharing ボタンが選択されている時、共有がウィンドウの右下で構成されます。



これらの運転モードは、ラックごとに個別に設定することも共有するラック全体に対してグローバルに設定することも可能です。

- ・Isolate SD11 コンソールは、ラックと通信を行わないため、入力ゲインや+48V スイッチの調整は、ラック設定に影響を与えません。
- ・Receive Only SD11 コンソールは、ラックの既存の設定を受信しますが、ラックのゲイン等のコントロールは行いません。
- ・Full Control : SD11 はラックへ設定しそれらを適宜に変更します。

(P1-11)

1.5 セッションを構成する

SD11 は、新規ユーザーがこの段階でコンソールの構成を行わなくてもすむように、デフォルト設定を持っていますが、セッションをまとめる上で異なったディスプレイをどのように利用するのかを簡単に記載します。

Setup > Audio IO ウィンドウを使用して、ラックに実装したカードの端子構成・名称変更、およびパッドやファンタム電源の設定を含む、SD11 に物理的に接続されている入出力を設定します（前のセクションを参照）。

File > Session Structure ウィンドウを使用して、チャンネルタイプごとの DSP チャンネルの割り当て、およびチャンネルの形式をどこで定義するのかを設定します。

Session Structure ウィンドウではチャンネルの割り当てを自動的に行えます。**Layout > Channel List** ウィンドウを使用して、手動でチャンネルを追加することも可能です。

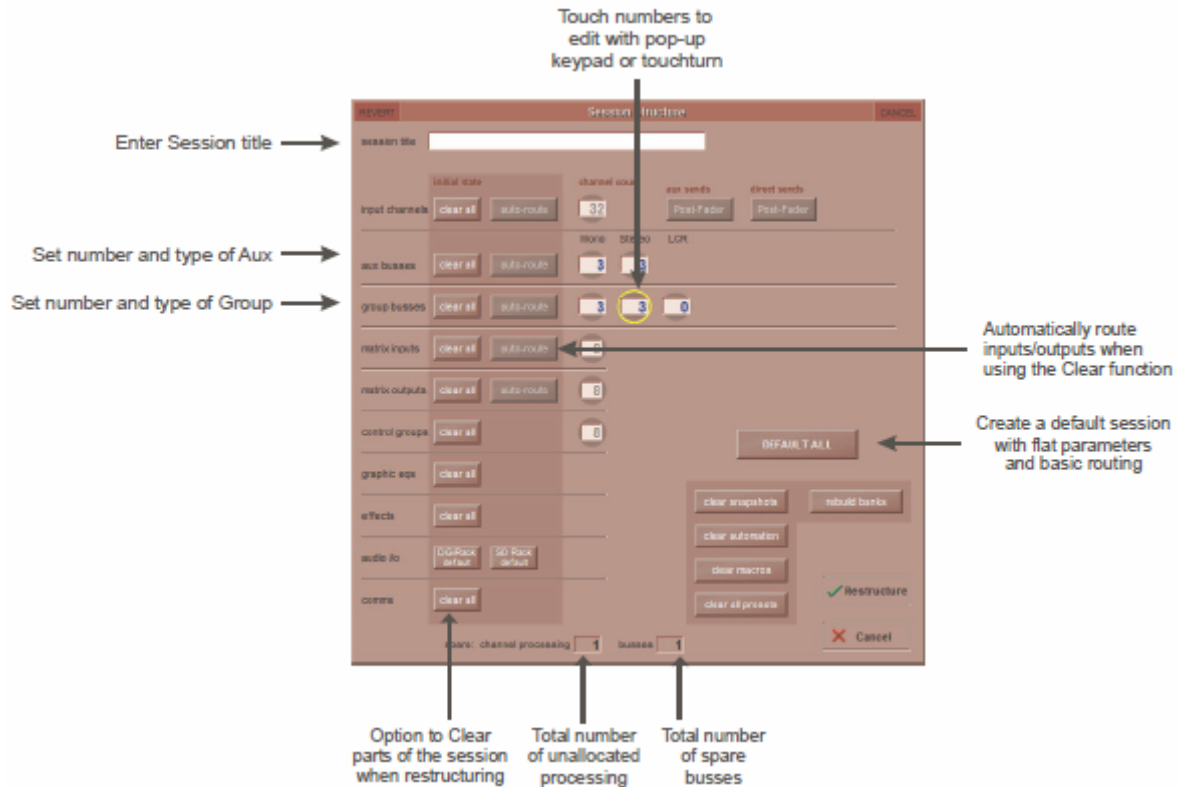
1.5.1 セッションの構造

新しいセッションを構成する前に、各バスのタイプがいくつ必要になるのかをあらかじめ決めてください。セッション構造の変更はセッションの開始後も可能ですが、基本的なパラメーターを、セッション構成前に設定することが適切なシステム設計を行う上で重要です。チャンネル割り当ての変更は対応するチャンネル・カウント・ボックスにタッチし、ポップアップ数字キーパッドから数字を入力するもしくは Touch-Turn エンコーダーを使用して行えます。セッション構造は AUX、グループタイプのバス数や新しいセッションのどの部分を解除、リセットするか等の設定、削除を選択したチャンネルタイプの入出力の自動ルーティングに関する設定を行います。SD11 は合計 12 モノラル/ステレオの AUX、グループが設定できます。

※ Restructure スイッチの後に DEFAULT ALL スイッチを押すと新規セッションが以下の構成に変更されます。ラックの最初の 32 入力が入力チャンネル 1 ~ 32、マスターバスがローカル出力 1-2 と Rack 1 出力 1-2、全入力チャンネルがマスターバスにルーティングされ、ソロバス送りが無いときはマスターバスがヘッドホンに送られます。

デフォルトの構成は以下の通りです:

- ・モノラルもしくはステレオ入力チャンネル× 32(固定)
- ・モノラル AUX × 3、ステレオ AUX × 3 (調整可能)
- ・モノラルグループ× 3、ステレオグループ× 3 (調整可能)
- ・マトリクス入力× 8、マトリクス出力× 8(固定)
- ・コントロールグループ× 8(固定)
- ・ステレオもしくは LCR マスターバス× 1
- ・2 モノラルもしくはステレオソロバス (固定)



(P1-12)

Clear All スイッチ: ルーティングを変更する場合、セッションのチャンネルからデフォルトでないルーティングまたはプロセッシング（イコライザー、ダイナミクスなど）をクリアできます。既存のセッションを再構成して新しいセッションにする場合に特に便利です。clear snapshots、clear automation および clear macro's も同様の動作になります。

Rebuild Banks: セッション構造を変更する場合は、2 通りの方法があります。バンクを再構成せずにセッションを再構成する場合、割り当てた追加チャンネルはコンソール上に「配置」されず、手動でフェーダーに割り当てる必要があります。ただし、Rebuild Banks を有効にした状態でセッションを再構成する場合、コンソールはそのコンソール上で利用可能な全てのチャンネルで構成されます。

Aux Sends and Direct Sends: Input Channels セクションの Aux Sends および Direct Sends スイッチの状態を切り替えることで、AUX センドとダイレクト・センドのデフォルト動作を「Post Fader」、「Pre Fader」、「Pre Mute」で変更します。

Auto-Route: Auto-route 機能は入力チャンネルに対して連続した入力、およびバスに対して連続した出力をそれぞれ自動的にルーティングします。例えば 32 系統の入力を自動ルーティングした場合、最初の物理的入力（例、1: Mic 1）を入力チャンネル 1 に、2 番目の物理的な入力（1: Mic 2）を入力チャンネル 2 にといった順で、ルーティングできる入力またはチャンネルがなくなるまでこの動作を行います。自動ルーティングで行う項目は以下の通りです。

- ・物理的入力に対する入力チャンネルの自動ルーティング
- ・物理的出力に対する AUX、グループ、およびマトリクスチャンネルの自動ルーティング
- ・グループ出力に対するマトリクス入力の自動ルーティング

※ Auto-Route および Aux Send and Direct Sends は「Clear All」スイッチと連動してのみ使用できます。

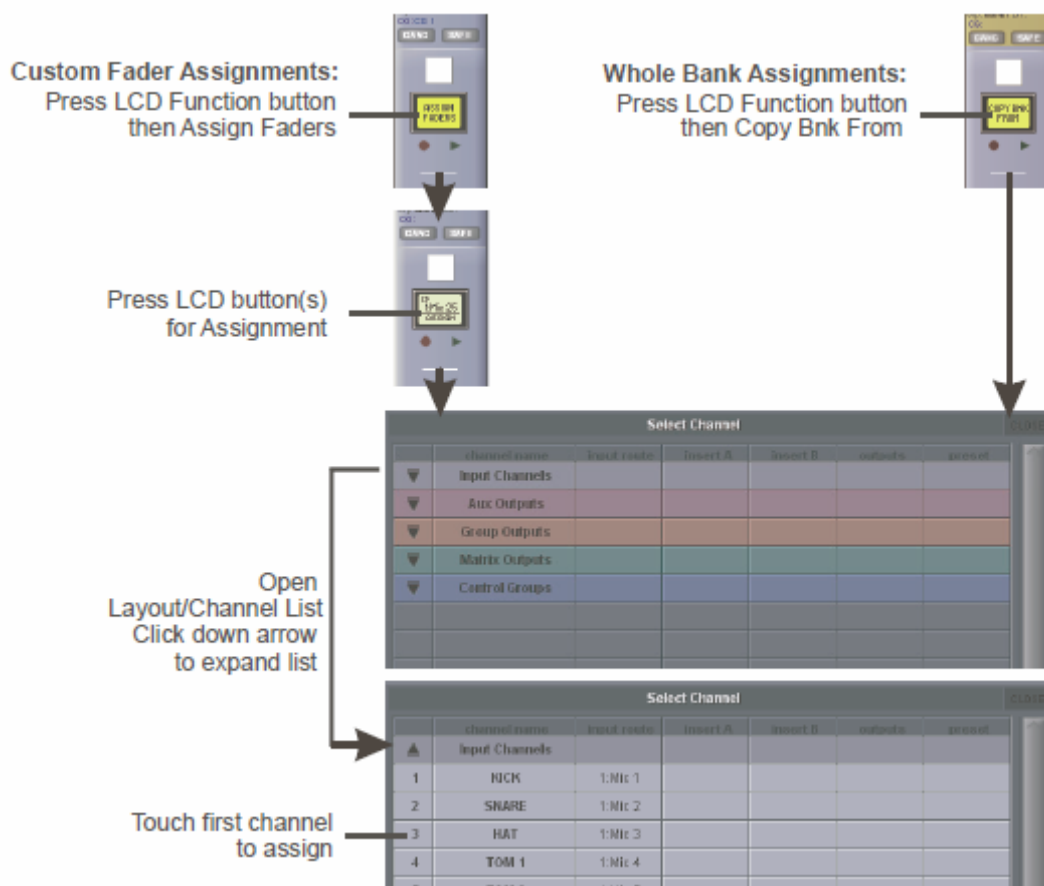
1.5.2 フェーダーをコンソールに割り当てる

Rebuild Bank スイッチを押さないでセッションの再構成後、新たに作成したチャンネルがコンソール上に表示されない場合、マスターディスプレイの **Layout/Channel List** パネルを開いて、セッションに存在する全ての入出力チャンネルのリストを表示してください。チャンネルをコンソールに割り当てるには、バンクを選択して LCD Function スイッチを押します。

コンプリートバンクを作成するためには、押し割り当てられたフェーダー上の LCD ボタンにより Assign Faders と名称の付けられた表示の下 Channel Select スイッチを押してください。（もしくは連続するチャンネルを割り当てる為複数のフェーダーを選択します）カスタムバンクを作成するためには、Copy Bank Form と名称の付けられた Channel Select スイッチを押してください。

次に Copy Bank Form と名称の付けられた Channel Select スイッチを押して設定モードを開きます。

マスターディスプレイの Layout/Channel List で、割り当てる最初のチャンネルを押します。選択したバンク内のチャンネルの各 LCD スイッチについて、連続したチャンネルがコンソールに対して割り当てられます。再度 LCD Function スイッチを押した後に Solo と記載された LCD スイッチを押して、設定モードを終了します。



(P1-13)

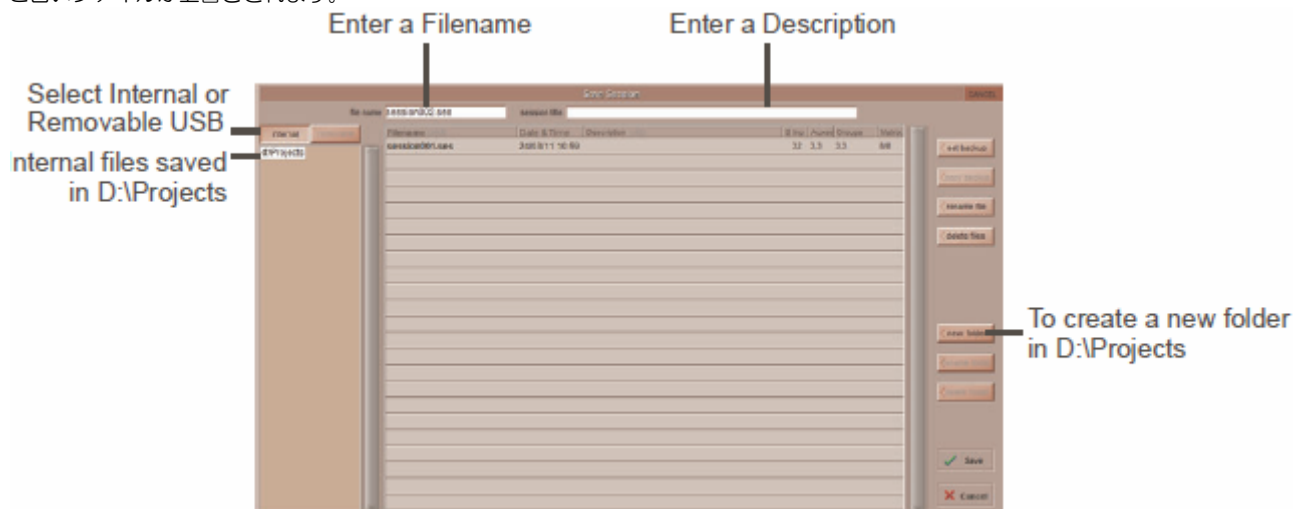
1.6 セッションの保存/ 読み込み

1.6.1 新規ファイルとして保存

セッションの構成を変更する場合、新規ファイルとしてコンソールのフラッシュ・ドライブに保存します。セッションの再構成後、Save Session パネルが自動的に表示されない場合は、マスターディスプレイの Files スイッチにタッチして、**Save As New File** を押してください。

保存先のドライブ（内蔵またはリムーバブル）およびファイルパスを選択し、次に新しいファイル名と詳細を入力してから **Save** スイッチを押してください。

※既存のリストにあるセッション名にタッチした場合は、新規ファイル名としてタッチした名称が自動的に選択され、Save を選択すると古いファイルが上書きされます。



1.6.2 セッションの保存

Save As New File スイッチの上にある Save Session スイッチは、前回保存または読み込んだファイルと同じ場所、同じ名称で既存のセッションを保存します。

そのため既存のセッションを更新する場合の「**クイック保存**」として機能します。

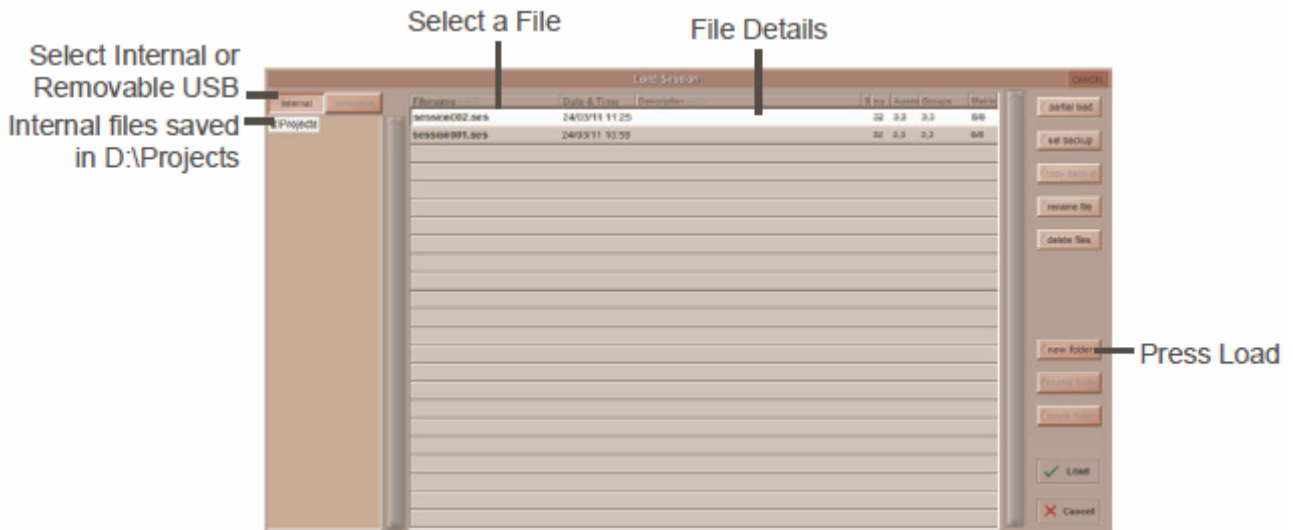
最後に保存したファイルに上書きする点に注意してください。新しい名称でセッションを保存する場合は、File スイッチを使用して、**Save As New File** を選択してください。

1.6.3 セッションの読み込み

以前に保存済のセッションを読み込む場合、以下の手順で行ってください。

マスターディスプレイの Files スイッチにタッチしてから、**Load Session** を押します。

読み込み元のドライブ（内蔵またはリムーバブル）、リスト上の必要なファイルを選択してから、Load スイッチを押します。



(P1-14)

1.7 音声の同期

SD11 は 48000Hz（48kHz）のサンプリングレートで動作します。デフォルトは内部マスタークロック 48kHz に設定されています。Audio Synchronization パネルは外部から測定するためにコンソールへ設定できます。Audio Sync (Synchronisation) パネルは、Setup Menu スイッチ、Audio Sync の順にタッチして呼び出します。



SD11 はクロック・ソースとして、Word Clock および CAT5 や MADI3 を利用可能です。

※外部同期入力で有効なクロックを検知した場合、クロック・ソースとして選択していなくても対応する緑色の OK ボックスが点灯します。



(P1-15)

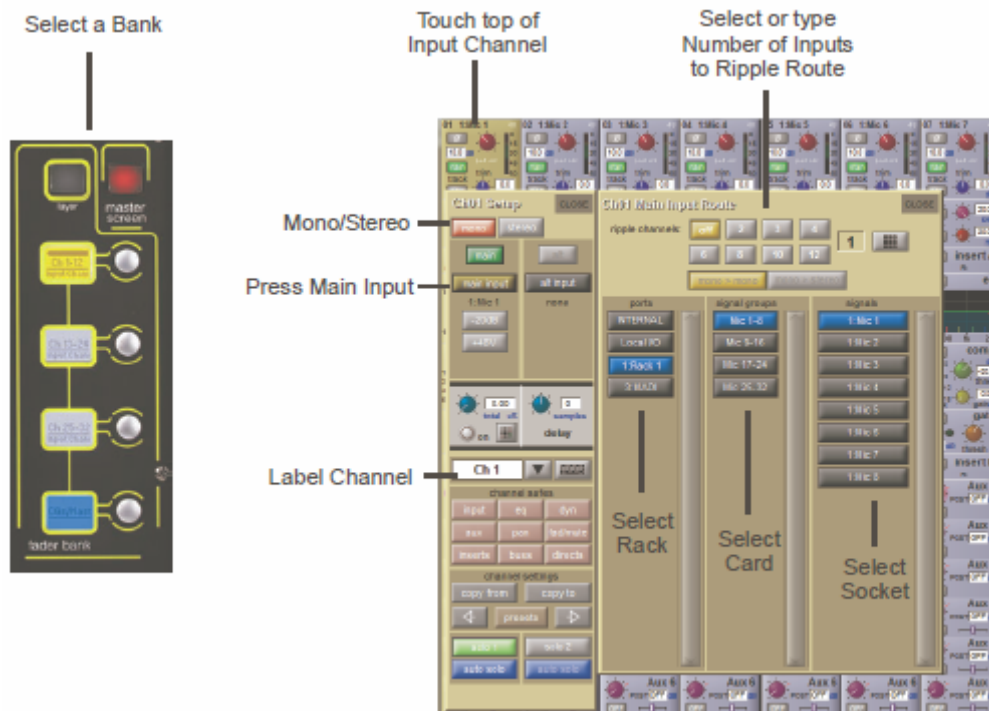
1.8 ルーティングの基本

1.8.1 入出力の選択

チャンネル入力、出力、インサートセンド、インサート・リターンルーティングは、（入力チャンネルの入力の下側にある）チャンネルの **Setup** および **Output** の各ディスプレイから呼び出すルーティング・ディスプレイで設定します。

Channel Input Setup は入力チャンネルディスプレイの一番上をタッチして呼び出します。

Channel Output Setup は任意のチャンネルタイプディスプレイの下側をタッチして呼び出します。



ルーティング・ディスプレイ内は、ルーティング選択の3つのカテゴリーで表示します。

- ・一番左の列は、入力または出力を配置できるポートを表示します。
- ・中央の列は、選択したポート内で利用可能な入力または出力のグループを表示します。
- ・一番右の列は、選択した信号グループ内で利用可能な個別の入力または出力を表示します。

青く点灯したボックスは現在選択中のボックスです。ディスプレイ内で既にルーティングが割り当てられている場合、現在の割り当てを含むポートと信号グループの列は半分点灯します。

各出力に対してルーティングできるチャンネルは1つのみです。別のチャンネルが使用中の出力は青色のテキストで表示されます。別のチャンネルを既に使用中の出力にルーティングしようとすると確認のボックスが表れ、どのチャンネルが出力を使用しているのか、および動作を続けた場合は現在のチャンネルがこの出力からルーティングを解除されるという警告メッセージが表示されます。Yes を押すと実行、No を押すとキャンセルします。

入力チャンネルからダイレクト出力にルーティングする場合、あるいは出力チャンネルから出力にルーティングする場合、任意の数の信号を選択でき、新しいルート選択が以前の選択に追加されます。ただし入力、インサートセンド/リターンはモノラルチャンネルの場合

1 つの信号に対して、ステレオチャンネルの場合 2 つの信号に対してのみルーティングできます。つまり新しいルート選択は、入力およびインサートセンド/ リターンに対するこれまでの選択が失われます。

ステレオチャンネルの場合、左右のルーティングが連続していることが前提です。ステレオ信号をルーティングする場合、左のルートを選択すると、リストでその隣にある信号が、自動的に右のルートとして選択されます。信号グループまたはポートの最後の信号が左のルートとして選択された場合、次の信号グループまたはポートの最初の信号が、右のルートとして選択されます。

入力およびインサート・リターンのルーティングの場合は、内部ポートが以下の信号グループをルーティングします。

Misc: オシレーター、ホワイト/ ピンクノイズ・ジェネレーター
Graphic EQs: 内部グラフィックイコライザーの出力
Effects: 作成したエフェクト・センドの出力
Channels: 他の入力チャンネルからのダイレクト出力
Groups: グループ・バスの出力
Auxes: AUX バスの出力
Matrix: マトリクス出力

※ルーティングするチャンネルに対する出力は、信号リストからロックアウトされます。また、コンソールは全てのルートを単独のリストで表示します。

そのため、左の信号をポートの最後の信号に接続した場合、ポートの種類にかかわらず、右の信号は自動的に次のポートの最初の信号に接続されます。

(P1-16)

出力およびインサートセンドのルーティングは、内部ポートから SD11 のグラフィックイコライザー入力、および作成したエフェクトへの入力呼び出します。

O:Local I/O ポートは、SD11 の背面パネルにある入出力のリストです。

Rack ポートには、Audio I/O ウィンドウで定義したリモート I/O ラックで利用可能な入出力が表示されます。

ルートを選択すると、Setup または Outputs ディスプレイにあるルーティング・スイッチの下に名称が表示されます。

ルートを作成すると、メーターおよび追加のコントロールがルーティング・スイッチの下側で利用できるようになります。このようなコントロールは作成したルートの種類に依存しています。

入力またはインサート・リターンにルーティングしたローカルマイク入力: ファンタム電源のリモートコントロール用 48V スイッチ、
- 20dB 入力パッド

モノラル入力またはインサート・リターンにルーティングした D ラックマイク: ファンタム電源のリモートコントロール用 48V スイッチ、
- 20dB 入力パッド

ステレオ入力にルーティングした D ラックマイクもしくはローカルマイク入力: 48V スイッチ、- 20dB 入力パッド、MS デコード、
Width/ バランス LR 制御

インサート・リターンにルーティングしたマイクブリアンプ: 48V スイッチ、- 20dB 入力パッド、位相反転スイッチ(AE) およびゲイントリム

コンソール出力にルーティングした出力: - 10dB パッド(ラック出力のみ)、センドの ON/OFF、ゲイントリムおよびダイレクト出力に送るチャンネル内の位置(プリ/ ポストフェーダー、プリミュート)を切り替えるセンドポイント・セレクター

コンソール出力にルーティングしたインサートセンド: - 10dB パッド(ラック出力のみ)、センドの ON/OFF およびトリム

グラフィックイコライザーにルーティングしたインサートセンド: センドの ON/OFF

グラフィックイコライザーにルーティングした出力: 追加コントロールなし

スイッチがオンになっている場合、スイッチの周囲が赤色または緑色の輪で囲まれます。

1.8.2 リップル・チャンネル

ルーティング・ディスプレイの一番上にあるリップル・チャンネル機能により、連続したチャンネル・ルートを現在のディスプレイのルーティングに従うように設定できます。チャンネル 1 からチャンネル 8 のダイレクト出力を Channel 1 のダイレクト出力をラック 1 >ラインアウトに、リップル・チャンネル機能でチャンネル 2 ~ 8 を自動的にルーティングすることで、それぞれラック 1 >ラインアウト 1 ~ 8 にルーティングできます。

リップルするチャンネル数を定義するには、灰色の数字が付いたスイッチを選択するか、番号の付いたスイッチの右側にあるキーボード・スイッチを選択し、必要なチャンネル数(上の例では 8)をキーボードに入力してから OK を押します。リップル・チャンネル機能を構成した後にルーティング操作を行うと、ルーティングしたチャンネルより上の該当する数のチャンネルにも影響します。

リップル・チャンネル機能は、ステレオチャンネルを 2 つのチャンネルとして扱います。そのため、上の例でチャンネル 2 がステレオになっている場合、リップル・チャンネル機能は、チャンネル 1 をライン出力 1 に、チャンネル 2 の L と R をライン出力 2 と 3 に、チャンネル 3 をライン出力 4 にそれぞれルーティングしていきます。

(P1-17)

1.9 プリセット

プリセットを使用してチャンネル、FX ユニット、グラフィックイコライザーおよびマトリクスを設定を保存/ 呼び出しできます。このセクションでは、各種のプリセットウィンドウの基本的な使用方法を紹介します。



プリセットウィンドウの一番左の列は利用可能なプリセットのグループが含まれており、グループのいずれかにタッチすると、その列にあるグループ内のプリセットのリストを右側（name）に表示します。プリセット名の右側の列には、プリセット（chs）（チャンネルおよびマトリクス・プリセットのみ）に設定が含まれるチャンネルの数、作成日時（notes）、それにロック状況（lock）が表示されます。

※プリセットウィンドウは、該当するタイプのプリセットのみを表示します。

プリセットを呼び出す場合は、呼び出すプリセットを含むグループの名称にタッチしてからプリセット名にタッチします。一部のプリセットウィンドウの下側にある recall scope スイッチは、どの要素を呼び出すか、およびどの要素を変更しないままにするのかを選択できます。点灯している場合、このスイッチがリコールに含まれています。

現在の設定を新規プリセットに保存する場合は、プリセットを保存したいグループにタッチして、new スイッチを押します。プリセットの種類に従って、新しいプリセットに自動的に名称が付けられます。プリセットの名称を変更するには、表示されるキーボード・ディスプレイ（または外部キーボード）を使用して新しい名称を入力し、次に必要に応じて、そのプリセットに保存するチャンネル数の設定にタッチし、編集してください（デフォルトは 1 チャンネル）。最後に OK にタッチして作業を終了します。

※キーボード・ディスプレイの CAN を押すと、ディスプレイはキャンセルされますが、

新しいプリセット自体はデフォルトの名称で作成されます。

既存のプリセットを更新して設定を保存する場合、update を押した後に上書きするプリセットにタッチして、次に表示される確認画面で Yes を押します。

※ update を押さないと、上書きしたプリセットが呼び出されるため、保存するはずの設定が失われます。

新規プリセットグループを作成する場合は new group を押します。group n という名称の新しいグループを作成します。n は、次に利用可能なプリセットグループ番号です。グループ名を変更するには、表示されるキーボード・ディスプレイ（または外部キーボード）を使用して任意の名称を入力し、OK にタッチします。

※キーボード・ディスプレイの CAN を押すと、ディスプレイはキャンセルされますが、新しいグループ自体はデフォルトの名称で作成されます。

edit name スイッチは、プリセット名やグループ名の編集および、プリセットのロックを行えます。有効になっている時はスイッチが点灯します。プリセット名の編集は、プリセットがアンロック状態の時のみに行えます。edit name スイッチを押して、プリセット名にタッチし、キーボード・ディスプレイで新しい名称を入力して OK を押してください。プリセットグループの名称を編集する場合は、edit name スイッチを押して、グループ名にタッチし、キーボード・ディスプレイで新しい名称を入力して OK を押します。

プリセットをロックするには edit name スイッチを押し、次にプリセットの lock 列にタッチします。プリセットがロックされ、灰色のロックマークが表示されます。プリセットのアンロックは edit name スイッチが有効な状態で、再度ロックにタッチしてください。

プリセットを削除する場合は、delete を押して削除するプリセットにタッチしてから confirm を押してください。連続する範囲のプリセットを削除するには、delete を押してから select range を押し、削除する最初と最後のプリセットにタッチして範囲を選択し、最後に confirm を押します。プリセットを 1 つのみ、または連続していない複数のプリセットを削除する場合は、削除するプリセットにそれぞれタッチしてから、confirm を押します。プリセットのグループ全体を削除する場合には、delete > select all の順に押して、最後に confirm を押してください。

(P1-18)

1.10 チャンネルとバスの名称をつける

SD11 の様々な項目は、それぞれ独自の名称を付けられます。名称の変更は、下図の下向きの矢印が付いた白黒のテキストボックスとその右にあるキーボード・スイッチを使用します。



手動で名称を作成する場合は、テキストボックスにタッチするか、その右にあるキーボード・スイッチにタッチして、キーボードをディスプレイに表示します。

このキーボードには、一般的な Caps、Shift、Delete 機能、さらに Cut、Copy、Paste 機能を搭載し、チャンネル間でテキストの移動が可能です。キーボード・ディスプレイの左下のコーナーの一番下にある矢印スイッチを使用して、テキストボックス内のカーソルを移動します。新しい名称を作成した上で OK を押してください。名称を変更せずにキーボード・ディスプレイを閉じる場合は CAN スイッチを押します。キーボード・ディスプレイを次のチャンネルに移動するには、Next（または外部キーボードの TAB）を押してください。

Channel Name ディスプレイを使用すれば、キーボードを使用せずに頻度の高い単語を挿入できます。この機能はチャンネル名称を作成する場合だけでなく、バス名称などの他の名称を付ける場合にも便利です。Channel Name ディスプレイは、Setup ディスプレイのチャンネル名テキストボックスのすぐ右にある下向きの矢印にタッチして呼び出します。

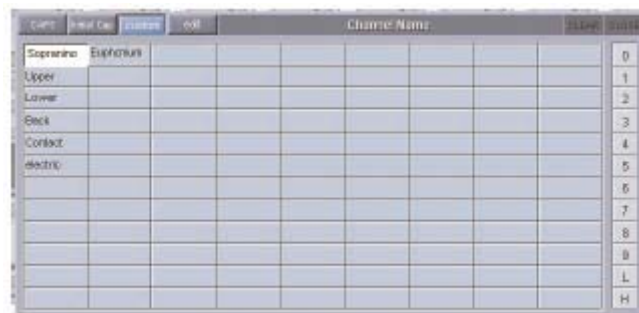


Channel Name ディスプレイで任意の単語にタッチすると、その単語がテキストボックスに挿入されます。同様にチャンネル名に対して、シングルスペースで分けられた、別の単語をさらに追加できます。数値および L/R の識別をディスプレイの右端の列で追加できます。テキストは CAPS（全て大文字）あるいは Initial Caps（最初の文字だけ大文字）で入力できます。この場合、ディスプレイの一番上にある CAPS スイッチおよび Initial Cap スイッチを押します。どちらも選択していない場合、全てのテキストは小文字になります。

※ Channel Name ディスプレイを開いた時点で、挿入する最初のテキストが以前のテキストを全て上書きする点に注意してください。

※テキストボックスの端以降まで伸びているテキストは表示できません。

標準の単語セット以外に、ユーザーが定義した単語のリストを Initial Cap スイッチの隣にある custom スイッチを押して挿入できます。カスタム・セットを表示している場合、このスイッチが点灯します。



カスタム・セットに新しい単語を追加する場合は、使用するボックスにタッチし、custom スイッチの隣にある edit スイッチを押して、キーボード・ディスプレイを表示します。必要な単語を入力し、OK を押します。キーボード・ディスプレイでは、Next スイッチを使用して現在のボックスに挿入したテキストを保存し、カスタム・リストの次のボックスにキーボードを移動します。キーボード・ディスプレイをキャンセルするには、ディスプレイ上の CAN スイッチを押すか、edit を再度押します。カスタム・リストの単語は、標準リストの単語と全く同じ形で、チャンネル名テキストボックスに挿入されます。custom を再度押すと、通常の単語セットの表示に戻ります。

※カスタム名は選択したボックスに表示されるため、アルファベット順に並びません。また標準の単語セットは編集できません。

現在の名称をクリアする場合は、Channel Name ディスプレイの右上にある CLEAR スイッチをタッチします。Channel Name ディスプレイを閉じる場合は、隣の CLOSE スイッチをタッチしてください。

(P1-19)

1.11 チャンネルプロセッシング

1.11.1 イコライザー

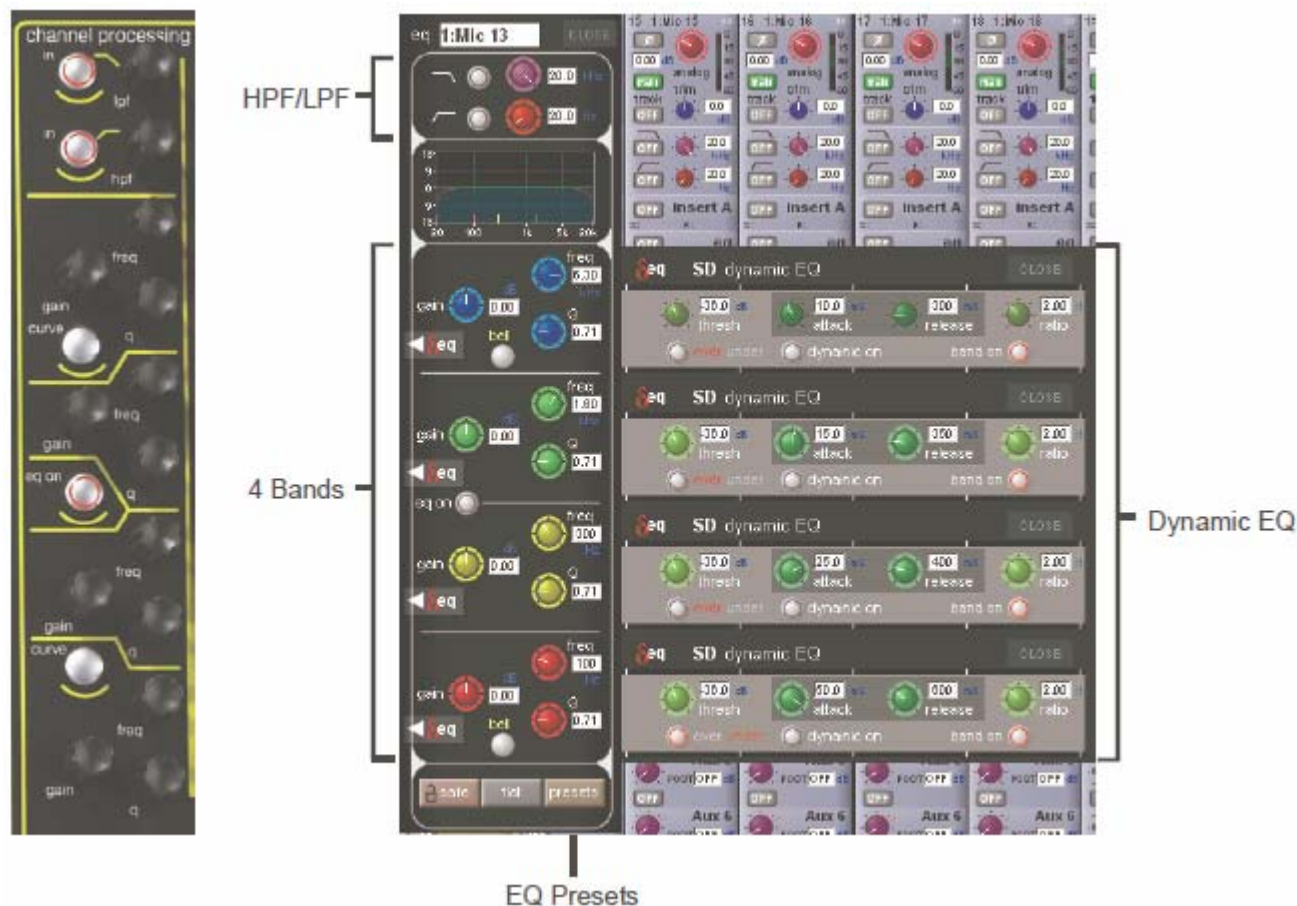
イコライザーセクションは 4 つのパラメトリック・フィルター、およびスウィープ・ハイパス/ ローパスフィルターのペアで構成しています。

イコライザーを呼び出すには、チャンネルディスプレイの希望のチャンネルにタッチして選択し（色が黄色に変わります）、スクリーンの右側にあるエンコーダーおよびスイッチを使用します。

エンコーダーおよびスイッチを調整すると、ディスプレイ上に拡大画面が表示されます。この画面は、スクリーン上のイコライザーグラフにタッチすることで、随時表示できます。

※コントロールを調整しても拡大したビューが表示されない場合、Options パネルを開いて Auto Expand EQ オプションを Yes に変更してください。

イコライザーグラフにタッチすると、独立したパネルに拡大ビューを表示します。



イコライザーの HF、LF フィルターは、個別に in/out スイッチを搭載しています。各帯域が使用するフィルターの種類は、Curve スイッチを押して変更できます。

最大 4 チャンネルのイコライザーセクションをダイナミック EQ に切替可能です。

入出力の任意のチャンネルでイコライザーパネルを開き、各バンドの左横にある赤い三角のシンボルをタッチすることでダイナミック EQ モードに切り替わります。切り替えると EQ モジュール上の制御が動的制御に変わります。

ダイナミック EQ に変更できるのは 4 系統のみです。4 系統以上設定しようとするとアラートメッセージがスクリーンに表示されます。※詳しくは「2.8 チャンネル信号処理」を参照してください。

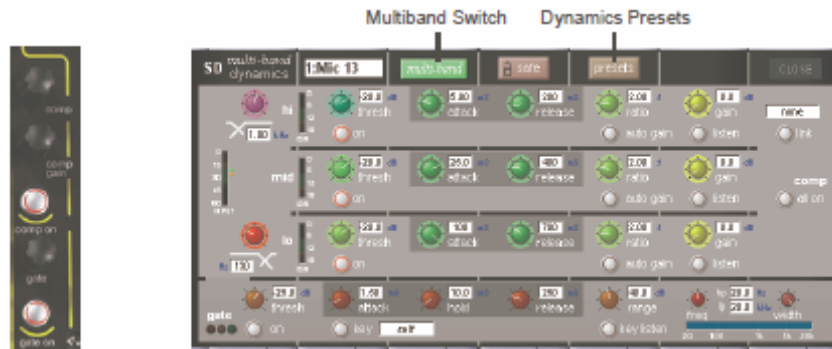
(P-20)

1.11.2 ダイナミクス

ダイナミクスを呼び出すには、ディスプレイ上のイコライザーグラフの真下にある Comp または Gate をタッチします。

ディスプレイ内、右上のコーナーにある Close スイッチにタッチするとパネルを閉じます。

中央セクションの右側に専用の Threshold コントロール、Gain コントロールおよび I/O スイッチがあります。これらのスイッチを使用することで、ディスプレイでダイナミクス・パネルが開いているかどうかにかかわらず、割り当てたチャンネルのダイナミクスを調整できます。



最大4チャンネルのダイナミクスセクションをマルチバンドモードに切替可能です。

入出力の任意のチャンネルでダイナミクスパネルを開き、マルチバンドスイッチを押すことでマルチバンドモードに変更できます。4系統以上のチャンネルにマルチバンド・ダイナミクスを設定しようとするときスクリーンにアラートメッセージが表示されます。

マルチバンドモードでは各バンドで通常のシングルバンドコンプレッサーと同様のパラメーターを用意しています。入出力の任意のチャンネルでダイナミクスパネルを開き、マルチバンドスイッチを押すことでマルチバンドモードに変更できます。

4系統以上のチャンネルにマルチバンド・ダイナミクスを設定しようとするときスクリーンにアラートメッセージが表示されます。

マルチバンドモードでは各バンドで通常のシングルバンドコンプレッサーと同様のパラメーターを用意しています。Link機能はコンプレッサー全体に適用され

るためバンドごとには割り当てられません。各バンドの左手にある on スイッチを押すことでバンドごとのダイナミクスの ON、右側の all on スイッチを押すと全バンドを一括で ON にします。

※ OFF になっている帯域には音声信号が通過しません。

バンド間のクロスオーバー周波数はパネル内の紫と赤のポットを使用して調整します。各クロスオーバーは 20Hz ~ 20kHz の範囲で調整でき、クロスオーバー周波数は各ポットの下に表示されます。各バンドは gain ポット下の listen スイッチを押すことで検聴できます。検聴中のバンドはソロでミックスに送られ(ソロではありません)、その他のバンドは一時的に OFF になります。

再度 multi-band スイッチを押すとシングルバンド・コンプレッサーに切り替わります。

チャンネルストリップ上のコンプレッサースレッシュホールドおよびゲイン調整は 3 つのバンドのオフセットを保持した状態で調整を行います。個別の調整はディスプレイ下のアサイン可能なロータリーエンコーダーに割り当てられます。

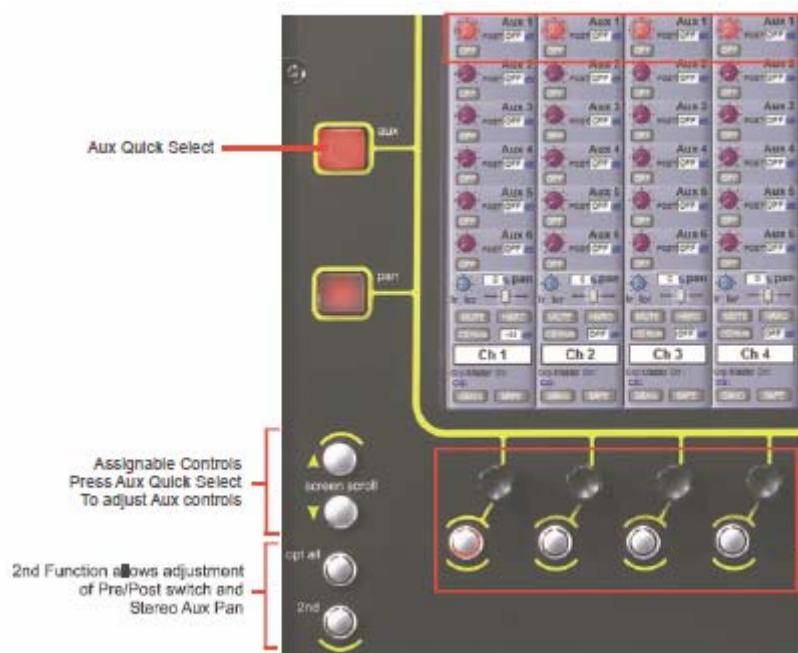
※リンク機能の設定を超えて、シングルバンドとマルチバンドは別々の設定を持っています。つまり、設定はそれぞれに反映されず、アクティブではないコンプレッサーはパラメーター値のみが保持されています。1 つのチャンネルで同時にシングルバンドとマルチバンドのダイナミクスをアクティブにはできません。

(P1-21)

1.1.1.3 AUX

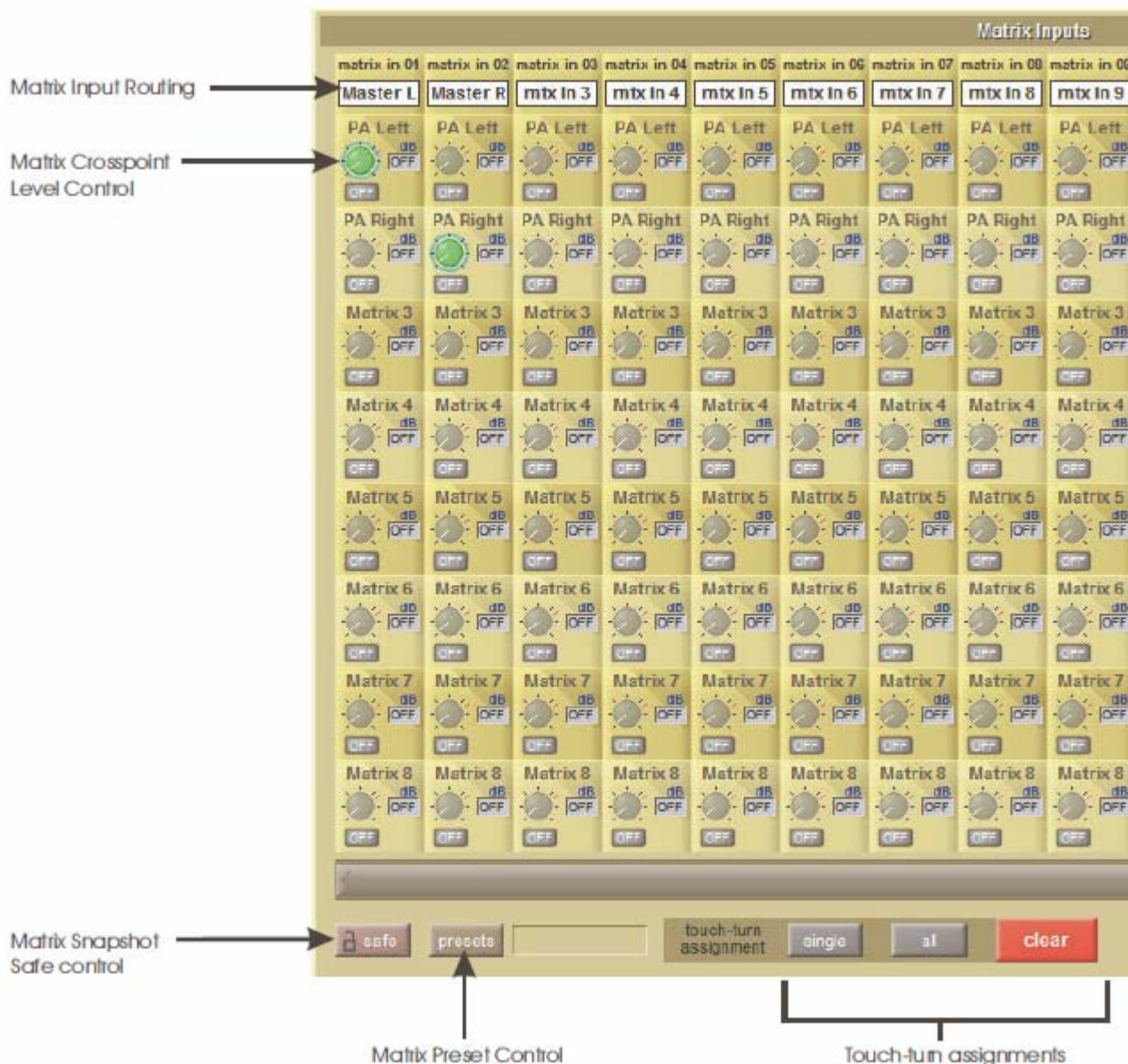
AUX を呼び出す場合は、ディスプレイ上の AUX にタッチするか、コンソールの左側にある Screen Scroll スイッチを使用します。

チャンネルディスプレイ上で強調される AUX が変わります。3 列のロータリー・エンコーダーおよびスイッチを、AUX センド、パン (2nd Function ON 時)、ON/OFF、プリ/ポストスイッチ (2nd Function ON 時) として使用できます。



1.12 マトリクス

マトリクスディスプレイはマスターディスプレイメニューの Matrix スイッチで呼び出します。マトリクスディスプレイでは入力をマトリクス出力チャンネルにルーティングし、マトリクスのクロスポイント・レベルを設定します。入力をルーティングする場合は、該当するマトリクス列の一番上をタッチします。標準の入力ルーティング・ページが開きます。



上図の例では、マスター・ステレオバスをマトリクス 1 とマトリクス 2 の入力 (PA LEFT および PA RIGHT) にルーティングしています。クロスポイント・レベルを調整して、各マスターバスをどれだけマトリクスチャンネルに送るのかを設定できます。

レベル調整には multi、single、all の 3 つのモードがあります。

Multi: ディスプレイ上の調整を行うレベル「ノブ」にタッチ (複数選択可) してから、Touch-Turn エンコーダーを使用して調整します。

Single: 調整を行うレベル「ノブ」にタッチして調整します。別の「ノブ」にタッチすると、前の選択を解除します。

All: 全ての「ノブ」を同時に調整します。

複数のクロスポイントを調整した場合、相対的なレベルは維持されます。

(P1-22)

1.13 コントロールグループ

任意の入出力チャンネルを最大 8 個のコントロールグループ (CG) に接続できます。コントロールグループに割り当てると、割り当てた全チャンネルの調整を 1 つのチャンネル上で操作できます。コントロールグループ・フェーダー、ミュート/ ソロ、あるいはコントロールの変更に、グループに割り当てられた全てのチャンネルに影響します。

コントロールグループに設定する方法は以下の 2 つの手順があります。

手順 1:

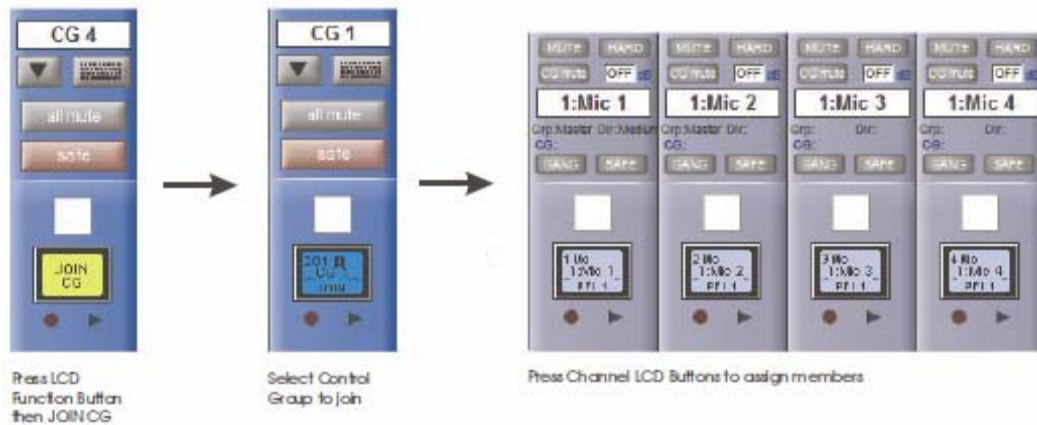
CG フェーダー・バンク上のLCD Function スイッチを押します。

JOIN CG スイッチを押します。

使用するCG のChannel Select スイッチを押します。

CG のメンバーにするチャンネルのChannel Select スイッチを押します。

JOIN CG スイッチから指を離し、SOLO と記載されたLCD スイッチを押して、標準のソロモードに戻ります。

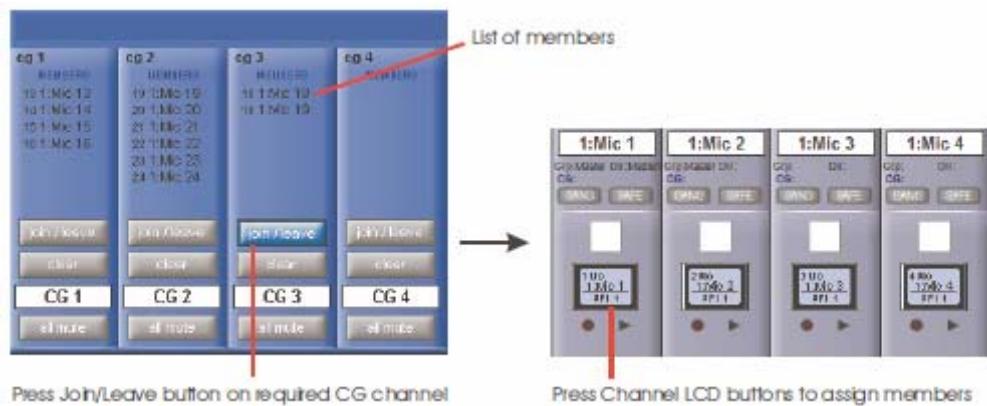


手順 2:

ディスプレイ上で設定を行うCG チャンネルのJOIN/LEAVE スイッチを押します。

CG のメンバーにするチャンネルのChannel Select スイッチを押します。

JOIN/LEAVE スイッチから指を離します。



接続したチャンネル全てのリストとその名称が、Control Group ディスプレイに表示されます。

Clear を押すとコントロールグループから全てのチャンネルをクリアします。

あるチャンネルがコントロールグループとして割り当てている場合でも、それ自体のコントロールを他のグループから独立して調整できます。

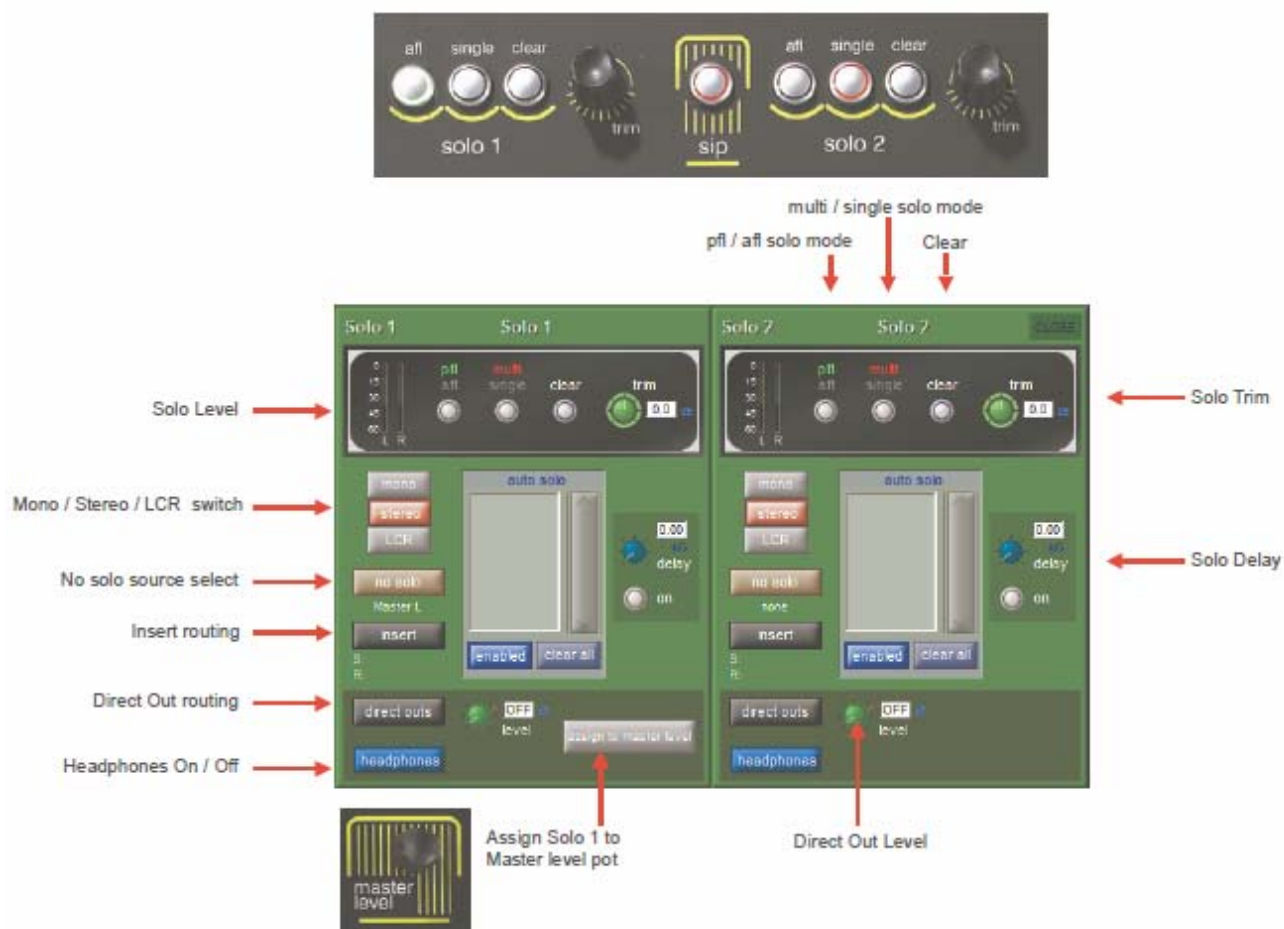
フェーダーのレベル調整はデシベルの変化に従ってグループに送られるため、グループフェーダーでレベルを 2dB 増加した場合、個別のチャンネルフェーダー間の相対的なレベルにかかわらず、全てのメンバーのレベルが 2dB 上がります。

(P1-23)

1.14 ソロ設定

Solo を呼び出す場合は、マスターディスプレイの一番上にあるスイッチを押します。このパネルのコントロールの一部は、コンソール上の左セクション(下の写真) にもあります。

ソロバスは 2 本あり、コンソール上のソロ・スイッチは独立して Solo 1、Solo 2 または Solo 1+2 を割り当て可能です。つまり、コンソールをステージモニター用に使用している場合は最初のソロバスを「インイヤー」モニター用に、2 本目のソロバスをウェッジモニター用に使用できます。



各ソロバスに対して、以下の機能を個別に利用可能です。

- ・ mono / stereo / LCR スイッチ
- ・ No Solo ソース・ルーティング
- ・ 内部および外部ルーティング機能を持つインサート・ポイント
- ・ ダイレクト出カルーティング（例、ウェッジモニターへの出力）
- ・ ソロ 1 マスターまたはメインバスマスターをサーフェス上のロータリーエンコーダーに割り当て
- ・ afl または pfl モード
- ・ single または multi ソロモード
- ・ clear solo スイッチ
- ・ ディレイ
- ・ レベル・トリム

※afl/pfl, single/multi, clear solo スイッチはレベルトリムポットに沿ってタッチスクリーンの上で複写されています。

DiGiCo SD11 操作マニュアル

第 2 章: チャンネルタイプと機能

(P2-2)

2.1 チャンネルタイプ

この章では、SD11 のチャンネルストリップで利用可能な機能を紹介します。最初の 2 つのパートでは、各種のチャンネルストリップについての入力設定および出力セクションについて、3 つ目のパートでは各チャンネルタイプで同じように機能するチャンネル内の信号処理について説明します。各チャンネルタイプで共通する項目を最初に、チャンネルタイプによって固有の機能を次に説明します。この章を理解するために、第 1 章をあらかじめ読んでください。

2.2 チャンネル入力設定 — 共通の項目

2.2.1 入力チャンネルストリップセクション

入力チャンネルストリップセクションは Channel Strip パネルの一番上に配置しています。このセクションでチャンネル入力、スナップショット・セーフ、およびソロパス送りを設定します。基本的な設定の一部はパネル上に表示されますが、パラメーターの大部分はチャンネルの Setup ディスプレイに含まれています。

Setup ディスプレイを開くにはディスプレイの一番上にあるチャンネル入力またはフィルターにタッチしてください。Setup ディスプレイには、複数のチャンネル構成項目も含まれています。



※外部入力を選択していないチャンネルは、上図よりも単純なパネルになっています。

入力チャンネルストリップセクションの一番上にある大型のポットは入力レベルの制御を行います。Quick Select Gain を押し、スクリーン下のコントロールを使用して調整できます。ADC を入力に割り当てている入力チャンネルの場合は、I/O ラックのマイクプリアンプのアナログゲインをリモートコントロールします。それ以外の種類の入力についてはデジタルレベル・トリムです。ゲイン値は、レベルポットの右に表示されます。

ポットの左には位相反転スイッチを搭載し、OFF の場合は灰色、ON の場合は赤色に点灯します。

入力チャンネルストリップセクションの下半分にある出力チャンネルには入力ディレイを搭載しています。ディレイはディスプレイ上の Total delay readout の下にある ON/OFF スイッチで ON/OFF を切り替え、ON の場合はスイッチが赤色に点灯します。スイッチの右にある小型ポットは、コース・ディレイ値の設定を行います。コース・ディレイ値は、ON/OFF スイッチの上に表示されます。これらの調整は Quick Select Gain を押して一度スクロールし、スクリーン下のコントロールを使用して調整します。出力チャンネル上で、2nd function スイッチを押し、同じ操作を行うことでディレイの微調整が可能です。ディレイ値はディレイ・ポットの右側に、マイクロ秒またはミリ秒単位で表示されます。

※入力チャンネルでは、入力チャンネルストリップセクションの下半分は、トリムおよびトラック・コントロールで使います。ディレイ機能はチャンネルストリップではなく、Setup ディスプレイ内にあります。

2.2.2 チャンネル名

Setup ディスプレイにある白黒のテキストボックスはチャンネル名称の変更に使用します。チャンネル名はスクリーン下部のメモ用ストリップに表示されます。

デフォルトでチャンネルには選択した入力信号と同じ名称が与えられます。入力信号が選択されていない場合、このメモ用ストリップに入力チャンネルの場合は ch、出力チャンネルの場合には Aux、Grp または Matrix が先頭に付いたチャンネル番号を表示します。

以下の項目は名称変更で固有の設定です。

Next スイッチを押すと、Setup ディスプレイ全体を次のチャンネルに移動します。

チャンネルの一番上に、入力チャンネルの場合はチャンネル番号と入力信号が、出力チャンネルの場合はチャンネルのタイプと番号が表示されます。このラベルはチャンネル名称を変更しても変化しません。

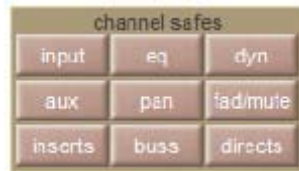
入力チャンネルの場合、チャンネルに手動で名称を付けてからチャンネル入力信号を変更すると、チャンネル名が入力信号名を追従しません。自動チャンネル・ネーミング機能を再度有効にする場合は、名称をクリアしてからチャンネル入力を再選択します。

※チャンネル Output ディスプレイからも、チャンネル・ネーミング機能に移動できます。

(P2-3)

2.2.3 チャンネルセーフ

Setup ディスプレイの Channel Safes エリアでは、チャンネルにスナップショットを読み込んだ場合、どの項目を読み込みの影響を受けなくするかを設定します。



※上図は入力チャンネルセーフの表示例です。出力チャンネルのセーフ項目は異なります。

保護したいチャンネルの項目をタッチして選択します。セーフをキャンセルするには、該当するスイッチを再度押してください。セーフが ON になっている場合はスイッチが赤色に点灯します。セーフを設定しているチャンネルは、チャンネルのパートのラベルが赤色になり、そのチャンネルラベルの背景色も赤色に変わります。

イコライザーおよびダイナミクスの設定も、eq および dynamics ディスプレイからセーフの ON/OFF が行えます。ディスプレイ（オフラインソフトウェア）の下側の SAFE スイッチを押すことで、チャンネル全体のセーフも一括で ON/OFF できます。スイッチはチャンネルの一部がセーフ状態になっていない場合は灰色に、チャンネル全体がセーフ状態になっている場合は赤色に変わります。

※チャンネルの一部がセーフ状態になっている場合、SAFE スイッチを 2 回押すことで、全てのチャンネルセーフを解除します。

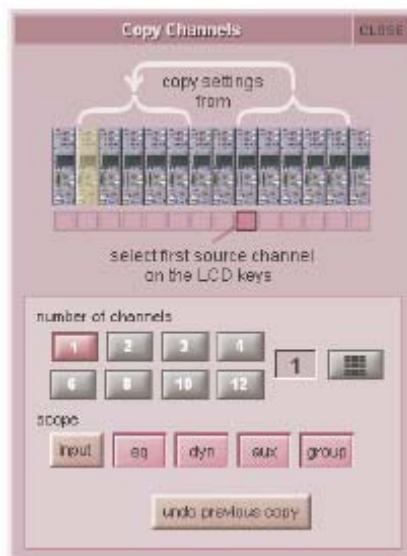
※チャンネルセーフは、スナップショットのリコールを対象とした機能です。以下に示す copy from、copy to およびプリセット機能を使用した場合は、セーフ機能は動作しません。

2.2.4 チャンネル設定

Setup ディスプレイの Channel Settings エリアで、チャンネル設定をチャンネル間でコピーできます。左右の矢印スイッチを使用して、Setup ディスプレイを隣接するチャンネルに移動します。



copy from スイッチを押すと、別のチャンネルの設定をこのチャンネルおよびその右側のチャンネルにコピーします。copy from を押すと、以下の Copy Channels ディスプレイが開きます。



(P2-4)

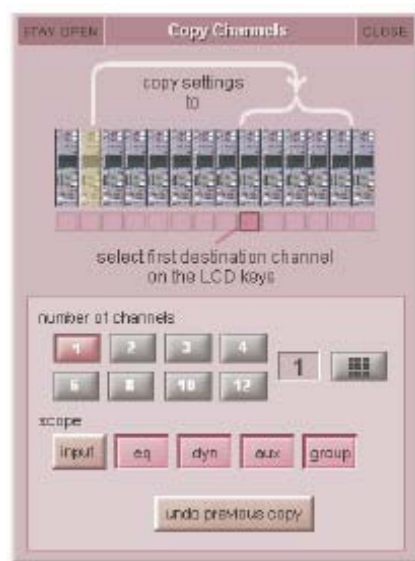
チャンネルのコピーを行う範囲は、ディスプレイ下部の scope スイッチで選択します。選択した項目のスイッチが点灯します。コピー元のチャンネル数を、灰色の数字スイッチ、もしくはキーパッド・スイッチで数字を入力して定義します。その後、コピー元のチャンネルにある Channel Select スイッチ（写真参照、複数チャンネルを選択している場合は一番左側のチャンネル）を押して、コピーおよびペーストを実行します。コピー元を複数のチャンネルで設定している場合は、コピー元チャンネルの右側の該当するチャンネル数の設定が、ペースト先のチャンネル（現在の割り当てされたチャンネル）の右側のチャンネルにペーストされます。

例) チャンネル 1 ～ 8 のイコライザー設定を、チャンネル 9 ～ 16 にコピーする

- ①チャンネル 9 を選択し、copy from をタッチします。
- ② Copy Channels ディスプレイのスコープ・エリアで、eq スイッチのみを選択します。
- ③チャンネル数を 8 に設定します。
- ④チャンネル 1 の Channel Select スイッチを押してコピー/ペーストを実行します。



copy to スイッチは copy From スイッチと逆の動作を行い、設定を現在のチャンネルから別のチャンネルにコピー/ペーストします。copy to スイッチを押すと、Copy Channels ディスプレイが開きます。



※ディスプレイは似ていますが copy from スイッチで開く Copy Channels ディスプレイとは動作が異なるため注意してください。

チャンネルのコピーを行う範囲は、ディスプレイ下部の scope スイッチで選択します。選択した項目のスイッチが点灯します。コピー先のチャンネル数を、灰色の数字スイッチ、もしくはキーボード・スイッチで数字を入力して定義します。その後、コピー先のチャンネルにある Channel Select スイッチ（写真参照、複数チャンネルを選択している場合は一番左側のチャンネル）を押して、コピーおよびペーストを実行します。コピー先を複数のチャンネルで設定している場合は、コピー元チャンネルの右側の該当するチャンネル数の設定が、ペースト先のチャンネル（現在の割り当てされたチャンネル）の右側のチャンネルにペーストされます。

例: チャンネル 1 のイコライザー設定をチャンネル 9 ～ 16 にコピーする

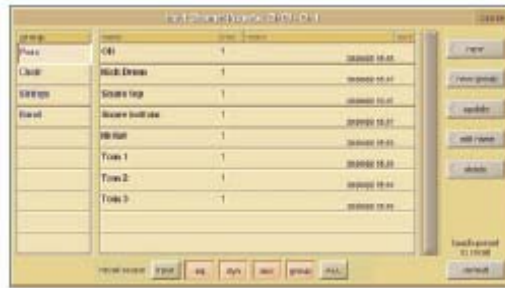
- ①チャンネル 1 を選択し、copy to をタッチします。
- ② Copy Channels ディスプレイのスコップ・エリアで、eq スイッチのみを選択します。
- ③チャンネルの数を 8 に設定します。
- ④チャンネル 9 の Channel Select スイッチを押してコピー/ペーストを実行します。

copy from または copy to 機能を誤って使用した場合、Copy Channels ディスプレイにある undo previous copy スイッチを押すとコピー/ペーストをキャンセルできます。

(P2-5)

※特定のチャンネルの設定を複数の別のチャンネルにコピーする場合は copy to、チャンネルグループの設定を、別のチャンネルグループにコピーする場合は copy from を使用すると便利です。

※いくつか異なるコピーを実行する場合は Copy Channel ページ条の STAY OPEN スイッチを押してください。スイッチを押すと、CLOSE スイッチを手動で押すまでパネルが開いたままになります。presets スイッチを押して、Presets ディスプレイ（下の写真）を開きます。Presets ディスプレイの基本的な機能は、「1.7 プリセット」を参照してください。



※プリセットはチャンネルタイプごとに固有です。Presets ディスプレイは、選択中のチャンネルタイプに適応するプリセットのみを表示します。

チャンネルをデフォルト設定にリセットするには、default を押してください。

2.2.5 チャンネル・ソロ

SD11 は 2 系統のソロバスを搭載し、各チャンネルを solo 1、solo 2 個別にまたは両方に送ることができます。例えばコンソールをステージ・モニターとして使用している場合、ソロ 1 をインイヤーモニター用に、ソロ 2 をウェッジモニター用に割り当てることができます。

※ソロバスは、マスターディスプレイの一番上にある Solos スイッチを押す、もしくはマスター・ソロ・ディスプレイで設定します。



チャンネルのソロ・ルーティングは、チャンネル Setup ディスプレイ一番下のセクションで割り当てます。緑の solo 1 および solo 2 スイッチを押すことで、ソロバス 1/2 にルーティングできます。スイッチはソロバスが ON の場合は緑色に、OFF の場合は灰色に点灯します。

※各チャンネルは、少なくとも 1 系統のソロバスに送ってください。

青色の auto solo スイッチが有効になっている場合（文字色が灰色ではなく、白）、別のチャンネルがソロバスに送られていても、そのチャンネルが自動的にソロバスに送られます。

※ auto solo が有効になっているチャンネルのリストが、マスター・ソロ・ディスプレイの自動ソロセクションに表示されます。自動ソロ機能を有効にする場合は、マスター・ソロ・ディスプレイの自動ソロ・リストの下にある青色のスイッチを押してください。

※エフェクト・リターンを使用している場合、自動ソロを選択するとソロ・トラックをそのエフェクト・リターンで検聴できます。

(P2-6)

2.3 チャンネル出力およびインサート — 共通の項目

2.3.1 チャンネルストリップ出力エリア

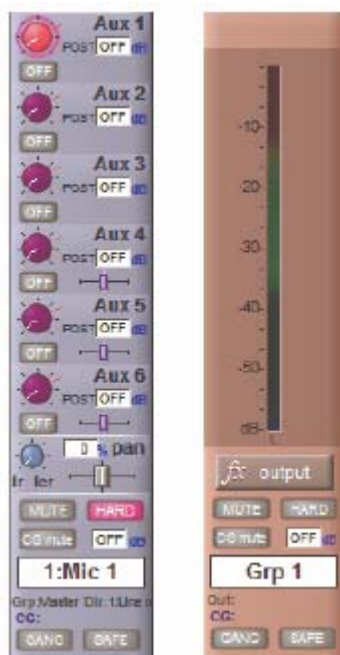
チャンネルストリップ出力エリアは、Channel Strip ディスプレイの下半分に配置しています。（下の写真は、入力チャンネルのもので、このセクションでチャンネル出力（入力チャンネルの場合は、AUX 出力を含む）のルーティングを設定します。

各チャンネルには、インサート A または B の 1 系統のインサートがあります。インサートは、チャンネルタイプ（モノラルまたはステレオ）に従った構成です。

チャンネルストリップ・インサート・エリアは、イコライザーセクションの上（インサート A）とゲート・セクションの下（インサート B）にあります。インサート A は、信号処理の前段（ポスト・フィルター）、インサート B は信号処理の後段のポイントで信号を送受信します。

※信号経路内の配置により、インサート A または B の 1 つのみインサートポイントとして使用可能です。

チャンネルストリップには、基本的な出力およびインサート機能を表示しています。しかし、大部分の出力およびインサート・パラメータはチャンネル Output ディスプレイに配置しており、チャンネルの出力またはインサート・エリアから開きます。



全ての出力チャンネルタイプに対して、チャンネルストリップにチャンネル・メーターが表示されます。入力チャンネルの場合はチャンネルストリップのこの部分に AUX 出力が表示されます。

出力チャンネルのメーター・セクションの下には、fx output スイッチがあります。このスイッチは、割り当てたエフェクトの設定ディスプレイを呼び出し、プリセットが割り当てられていない場合には fx Presets ディスプレイを呼び出します。

※入力チャンネルの AUX セクションの下には fx output スイッチの代わりに、パン・コントロールがあります。FX プリセットをチャンネルのダイレクト出力に割り当てて、パン・コントロールにタッチすると FX プリセット・コントロール・ディスプレイを呼び出します。

チャンネルストリップの下側には、チャンネル名を表示した白黒テキストボックスのメモ用のストリップがあります。

※チャンネルの名称機能は、チャンネルの Setup ディスプレイ、Outputs ディスプレイの両方にあります。

チャンネル名の下には、最後のグループ (Grp:) 出力 (入力チャンネルの場合は、最後のダイレクト出力 (Dir:) の表示もあり)、およびチャンネルが属するコントロールグループ (CG:) を表示します。

チャンネルストリップのラベル上部には MUTE および HARD インジケーターがあります。コンソールの MUTE スイッチを押すと、プリミュートに割り当てられているものを除き、チャンネルからの全ての出力が無音になります (このオプションは、AUX およびダイレクト出力で利用可能です)。コンソールの 2nd Function スイッチを押して、HARD ミュートを ON にすると、プリミュートに割り当てされた出力を含め、このチャンネルからの全ての出力が無音にします。

HARD スイッチの真下に、チャンネルフェーダーの値を dB 単位で表示するディスプレイがあります。

MUTE スイッチの下に、CG MUTE インジケーターがあります。これはコントロールグループでミュートした場合の各チャンネルのミュート状況を表示します。

(P-2-7)

2.3.2 チャンネルストリップ・インサート・エリア

チャンネルストリップ・インサート・エリアには、インサートセンドの ON/OFF を切り替えるスイッチがあります。このスイッチは、センドが OFF の場合は灰色、ON の場合は赤色に点灯します。

※インサートスイッチがオフの場合、Insert Send はアクティブのまま出力ヘルートされます。

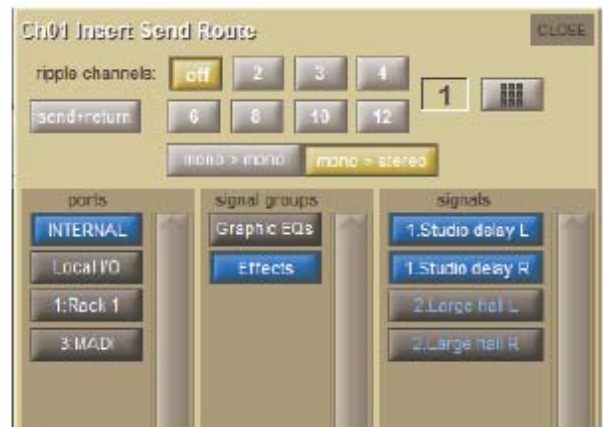
ON/OFF スイッチの下には、現在のインサート・ルーティングの表示があります。センドは左側で頭に S が、リターンは右側で頭に R が付いています。ルーティングが未選択の場合、このエリアは S または R の文字以外ブランクとなります。ステレオチャンネルの場合は、インサート・ルーティングの L 側のみを表示します。

2.3.3 コンソール出力およびインサートのルーティング

チャンネルタイプ全 4 種類に対応する Output ディスプレイでは、外部 I/O ラックおよび内部ロケーションに対して、チャンネルのメイン出力（入力チャンネルの場合はダイレクト出力）、およびインサートセンド/ リターンのルーティングが行えます。Output ディスプレイの下側に output（入力チャンネルの場合は direct）、insert A、insert B のスイッチがあります。スイッチのいずれかを選択して、センド（センド/ リターン）を上にある信号ルーティング・エリアに割り当てられます。インサートを割り当てた場合は、ins A/B send ルーティング・スイッチが左側、ins A/B return スイッチが右側の列に表示されます。出力（入力チャンネルの場合はダイレクト出力）を割り当てると、出力（入力チャンネルの場合はダイレクト出力）ルーティング・スイッチが左側の列に表示され、右側の列はブランクになります。ルーティング・スイッチのいずれかを押すと、ルーティング・ディスプレイが開きます。

Insert Send Route スイッチにあるポート・リストの上に、send+return と記載された追加スイッチがあります。スイッチを起動すると、センド/ リターンのルーティングを内部ポートの全ての信号に対してリンクします。Graphic 1 入力をインサートセンドに割り当てた場合、Graphic 1 出力が自動的にそのインサート・リターンに割り当てられます。同様に手動でリターンを割り当てた場合は、センドは自動的にその割り当てをコピーします。send+return が OFF の場合、スイッチは灰色となり、ON の場合は茶色になります。

mono>mono、mono>stereo スイッチはモノチャンネルを内部の fx ユニットと Waves プラグイン（利用可能であれば）へルーティングする時に使用されます。mono>mono が選択されている場合、チャンネル信号は fx ユニットの左側へもしくはモノ Waves ラックインプットへルーティングします。mono>stereo が選択されている場合、チャンネルは fx ユニットもしくは Waves ラックの両サイドへルーティングされます。



(P2-8)

2.3.4 FX プリセット

fx Presets ディスプレイは Outputs ディスプレイの一番下の fx presets スイッチを押して開きます。fx Presets ディスプレイでは各チャンネル出力またはインサートセンドを内部 FX ユニットに送ります。FX プリセットは、fx presets スイッチを押した時点で、メイン・チャンネル出力（またはダイレクト出力）、インサートセンド A、またはインサートセンド B のうち、Outputs ディスプレイ上で有効になっている全てのチャンネル出力に適用されます。



プリセットウィンドウの基本的な機能は、「1.7 プリセット」に記載しています。この章では fx プリセット独自の機能について説明します。

SD11 には多数のファクトリープリセットを用意しており、ユーザーが調整を行うプリセットの基本になります。ファクトリープリセットは、右側の lock 列に赤いロックマークがついています。

プリセットを調整したら変更を消さないように、新規プリセット、またはプリセットの上書きを行ってください。

プリセットをロックする場合は、edit name スイッチを押した後、プリセットの lock 列にタッチします。灰色のロックマークが表示さ

SD11 Operation Manual

れたら、プリセットがロックされていることを表します。ロックに再度タッチすることでプリセットのロックを解除できます。ファクトリープリセットはロックされているため、変更後は別のプリセットとして保存を行ってください。

※ファクトリープリセット自体は編集できませんが、ファクトリープリセットのグループ名は編集が可能です。

FX プリセットを割り当てると、チャンネルストリップの fx output スイッチで FX Preset ディスプレイを呼び出します。入力チャンネルの場合、FX プリセットを割り当てるチャンネルストリップのパン・エリアにタッチしてプリセット・ディスプレイを呼び出し、ディスプレイにある fx presets スイッチを押してください。

各 FX ユニットのセーフ状態にするには、FX プリセット・ディスプレイの一番上にある safe スイッチを押してください。チャンネル名および出力はディスプレイの一番上に表示され、各エフェクトの入出力レベルはコントローラーの左側にあるメーターに表示されます。

※最大 4 系統のステレオエフェクトをセクションに関わらず設定可能です。

※プリセット・リストで灰色になっているプリセットは、プリセットの最大数を使用済であることを表します。

FX ユニットのチャンネル・スクリーンで開くと、各ポットがスクリーンの真下のエンコーダーに割り当てられます。各値はポットの右側に表示されます。

モジュールを消去するには、プリセット表示内で選択を解除してください。

(P2-9)

マスター FX ディスプレイ

マスター・スクリーンの fx メニュー・スイッチを押すとマスター FX ディスプレイを呼び出します。このページでは、単独のラック上に現在割り当てられている全ての FX ユニットが表示されます。ディスプレイ内の項目をタッチすることで、ワークサーフェス上の Touch & Turn エンコーダーを使用して調整できるようになります。



この画面からモジュールを作成/削除することが可能です。

新しいモジュールを作成するためには、fx Presets 画面を呼び出すため左上端にある New スイッチを押して下さい。通常の方法で適切なプリセットを選択してください。その後、Fx モジュールへのルーティングはチャンネル Outputs 表示で動作します。

モジュールを削除するためには、モジュール上で fx presets スイッチをクリックし、fx Presets でプリセットの選択を解除して下さい。

(P2-10)

2.4 入力チャンネル独自の機能

2.4.1 トリムおよびトラック

外部入力を持つ入力チャンネルには、チャンネルストリップの入力エリアの一番下に、trim と書かれた小さなポットと trackON/OFF スイッチで構成する、トリム・セクションがあります。トリム・ポットはデジタル入力信号のレベルをトリムし、レベル調整はデシベル単位でポットの右側に表示されます。トラックをオンにすると、トリム・レベルが自動的にアナログ入力レベルに対して行った調整を補償します。アナログ入力レベルが増加すると、チャンネルに入る信号レベルを同じレベルに保つために、トリム・レベルが減少します。この機能はアナログ・レベルを別のコンソールからコントロールしている場合、例えば、このコンソールがモニター・ミックスを実行していて、別のコンソールがフロントオブハウスを実行している場合に特に便利です。トリム・ポットおよび trackON/OFF のコントロールは、エンコーダーの右側にあるスクローラーを使用して、チャンネルの上にあるエンコーダーおよびスイッチに割り当て可能です。

2.4.2 入力ルーティング

チャンネル Setup ディスプレイの一番上には、モノラルまたはステレオのチャンネル形式を定義する 2 個のスイッチがあります。

チャンネル形式は Setup ディスプレイの複数の機能に影響を与えるため、構成を進める前に形式の選択を完了することをお勧めします。チャンネルの現在の形式は表示されるメーターの数で確認できます。モノラルチャンネルの場合はメーター 1 つ、ステレオの場合はメーター 2 つです。

モノラルチャンネルの場合、各入力チャンネルは、main（メイン）入力と alt（代替）入力の 2 本の入力を持ちます。入力ソースはチャンネルストリップの main スイッチを使用して選択します。メイン入力を選択するとスイッチは緑色になり、alt 入力を選択すると赤になります。Setup ディスプレイ上部の main および alt スイッチを使用して、入力ソースの選択も可能です。このスイッチは現在選択している側が点灯します。ステレオチャンネルの場合、alt 入力がステレオ入力の R 側になるため、main および alt 入力選択スイッチは表示されません。

※ 20dB Pad スイッチは SD11 のローカル I/O および D Rack からのアナログ入力に働きます。他の DiGiCo ラックからの入力には働きません。



入力チャンネルで利用可能な入力は、外部 I/O ラックからの入力、コンソールの背面にあるローカル入力、それに各種の内部信号です。Setup ディスプレイの main input または alt input ルーティング・スイッチを押すと、Input Route ディスプレイが表示されます。ルーティング方法は「1.6 ルーティングの基本」を参照して行ってください。

2.4.3 入力の構成

チャンネルがステレオの場合、mono および stereo スイッチの下に、バランスと Width（幅）の調整が表示されます。左側の青いポットでバランスを調整し、真下の centre スイッチを押すとパラメーターをセンターにリセットします。右側の青いポットはステレオ信号の幅に影響を与え、範囲はモノからワイドになります。幅をステレオにリセットする場合は真下の stereo スイッチを押してください。バランスと幅の値はパーセンテージで各ポットの右側に表示されます。



(P2-11)

ステレオチャンネルには、入力ルーティング・スイッチの上に、通常のステレオ・ペアとして M – S 信号を再生するためのデコード機能の ON/OFF を切り替える m-s スイッチも搭載しています。またチャンネルの左右の出力を入れ替える L<R スイッチ、L 信号を左右のバスに送る L<L+R スイッチ、それに R 信号を左右のバスに送る R<L+R という 3 個の追加スイッチもあります。

入力チャンネルのディレイ調整は、Setup ディスプレイの入力ルーティング・エリアの下にあります。on スイッチを押すとディレイが ON になり、スイッチの周囲が赤色に囲まれます。左側の青いポットはミリ秒単位でコース・ディレイを調整し、右側の青いポットは、サンプル単位でディレイ量に対する微調整を行います。いずれの調整も、スクリーンの項目にタッチすることでスクリーン下のエンコーダーに割り当てられます。



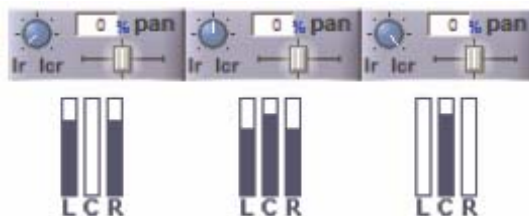
2.4.4 出力ルーティング

入力チャンネルからの信号は、AUX バス、グループ・バス、インサートセンドおよびダイレクト出力の4つのいずれかに送ることが可能です。インサート・ルーティングおよび基本的なダイレクト出力ルーティングについては、「1.6 ルーティングの基本」を参照してください。

入力チャンネルストリップの出力セクションの上半分には AUX バスのレベル調整が、下にはパン調整があります。

モノラルチャンネル上で、パン調整は、任意のステレオ・ルーティング先に対する、L/R チャンネルの出力の相対的なレベルに影響を与えます。パン調整は Quick Select Pan スイッチを押すことでスクリーン下のエンコーダー列に割り当てられます。

また、Quick Select Pan スイッチを押し、サーフェス上の 2nd Function スイッチを押して呼び出す LR/LCR Blend 調整は LCR マスターバスに送られる信号の量を調整します。左の LR ポジションに回しきった状態にすると信号はセンターバスに送られなくなります。



パン調整の上にある数字のボックスは、センターからの開きをパーセンテージで表示します。左にパンした場合はマイナス数値となります。

2.4.5 AUX バスおよびアサインابل・コントロール

入力チャンネルストリップ内の各 AUX センドは、レベル・トリムと ON/OFF スイッチを搭載しています。ON/OFF スイッチはセンドが OFF の場合は灰色、ON の場合は赤色に点灯します。トリム・レベルは AUX 番号の下チャンネルストリップ右側にデシベル単位で表示されます。

AUX センドポイントは以下の 3 ポイントを用意し、レベル・トリム・右にあるソース・ディスプレイに表示されます。

PRE プリフェーダー

POST ポストフェーダー

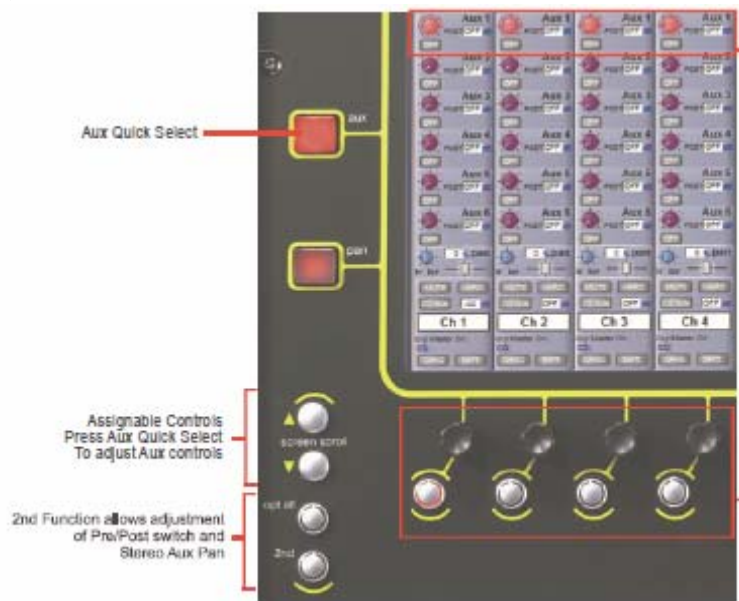
Pre-M プリミュート（およびプリフェーダー）

センドポイントを変更する場合は、Quick Select AUX スイッチを押した後、コンソールの 2nd function スイッチを押し、スクリーン下にあるスイッチを使用します。各 AUX のソースは、AUX チャンネルの Setup ディスプレイを使用して、一括で調整も可能です。

ステレオ AUX センド上には、ON/OFF スイッチの右側にパン調整があります。調整は Quick Select AUX スイッチを押した後、コンソールの 2nd function スイッチを押し、スクリーン下にあるエンコーダー列を使用します。各 AUX に対するパン調整は AUX チャンネルの Setup ディスプレイで、チャンネルフェーダーにグローバルにリンクできます。

(P2-12)

※ Options メニューの Surface タブおよび Solo タブを使用して、AUX の追加コンソールの割り当てが行えます。詳しくは「第 3 章 マスターディスプレイ」を参照してください。



2.4.6 グループ出力

グループ出力はチャンネル Outputs ディスプレイのグループ・セクションから呼び出します。ディスプレイの左にある mono スイッチにタッチすると、ディスプレイの右側に利用可能なモノラルグループのリストが表示され、stereo スイッチにタッチすると、ステレオグループのリストを表示します。選択中のグループ出力のスイッチが点灯し、リスト内の任意のグループにタッチすると、そのチャンネルをグループにルーティングします。各チャンネルは作成したモノラルおよびステレオグループの数だけルーティングが可能です。

セッションを LCR マスターバスで構成している場合、LCR ルーティングのスイッチも表示されます。



ステレオチャンネルから送られているモノラルグループは、チャンネル出力の LR をモノサミングした信号を受信します。

一番若い番号の選択グループ出力をチャンネルストリップのチャンネル名左下に、選択中のダイレクト出力をチャンネル名の右下に表示します。

新しいセッションを作成し、LCR バスで構成していない場合、一番若い番号を持つステレオグループが常にマスターに指定されます。マスターになったグループはデフォルトで全ての入力チャンネルがルーティングされ、マスターフェーダーが割り当てられます。

2.4.7 ダイレクト出力

基本的なルーティングについては「1.6 ルーティングの基本」を参照してください。ダイレクト出力のルーティングは、direct outs ルーティング・スイッチの下にある出力レベル・メーターに隣接する灰色の on スイッチを押して ON になります。ダイレクト出力は、デフォルトでポストフェーダーから送られますが、on スイッチの右側のスイッチで、プリフェーダーあるいはプリミュートに切り替えられます。現在の選択は、スイッチの右側に表示しています。— 10dB Pad スイッチは SD11 のローカル I/O および D Rack の出力には働きません。



(P2-13)

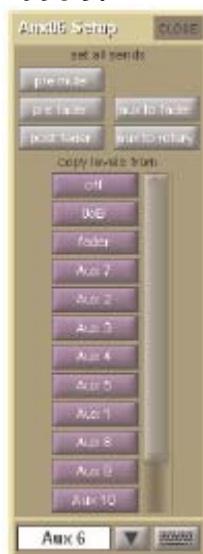
2.5 グループチャンネルの独自機能

グループチャンネルの入力信号は、入力チャンネル Output ディスプレイで設定します。グループチャンネル Setup ディスプレイの上側には、そのグループで選択中の全入力リストを表示します。入力リストは右側のスクロールバーでスクロールできます。リストの下にはスイッチが 2 個あり、clear all はグループにルーティングされている全ての入力をクリアするスイッチで、スイッチを押すとクリアを実行するかの確認ボックスが開きます。connect all は、全ての入力チャンネルを選択したグループに接続します。



2.6 AUX チャンネル独自の機能

AUX への入力信号は入力チャンネル側で定義するため、AUX Setup ディスプレイに入力選択はありません。しかし、AUX Setup ディスプレイの上半分は、複数の構成に関するオプションがあります。



Setup ディスプレイの一番上にある灰色の set all sends スイッチは、全ての入力チャンネルからの選択中の AUX に対するセンドに影響を与えます。左側の pre mute、pre fader、post fader の 3 個のスイッチで AUX センドを取り出すポイントを設定します。現在のセンドポイントは、入力チャンネルの AUX センドレベルの隣に表示されます。

※センドポイントは、2nd function スイッチを押して入力チャンネルから個別に選択できます。

pre mute スイッチの右側にある link pans スイッチを押すと、選択した AUX センドのパン設定を入力チャンネルのメインチャンネル設定にリンクします。有効になると、このスイッチが赤く点灯し、入力チャンネルストリップの AUX パン・スライダーもピンク色に点灯します。

aux to fader を押すと、全ての入力チャンネルの AUX センドの調整をチャンネルフェーダーに割り当てます。aux to rotary を押すと、全ての入力チャンネルの AUX センドの調整を、Channel Strip ディスプレイ下にあるエンコーダー列一番上のエンコーダーに割り当てます。

紫色の copy levels from スイッチは、選択した AUX バスに対する全ての入力チャンネルからのセンドに影響を与えます。スイッチのリストは、右側のスクロールバーでスクロール可能です。このスイッチを使用して、AUX センドのレベル調整を一括で行えます。OFF

はレベルを OFF に、0dB はレベルを 0dB に設定します。fader は、各入力チャンネルの AUX センドレベルが、チャンネルフェーダーのレベルと一致するように設定します。copy levels from スイッチは、異なった入力チャンネル AUX センドレベルのセットをその AUX センドにコピーします。

※ copy levels from スイッチを押せば、入力チャンネル内で AUX センドレベルを個別に再調整可能です。

(P2-14)

2.7 マトリクスチャンネル独自の機能

マトリクスチャンネル入力信号は Matrix Inputs パネルで定義するため、Matrix チャンネルには、入力選択がありません。

2.8 チャンネル信号処理

各チャンネルタイプは、共通で以下の信号処理機能を搭載しています。

・ハイパスフィルター ・ローパス・フィルター ・4 バンドイコライザー ・コンプレッサー / ゲートチャンネルストリップの各エリアを押すことで、該当する信号処理ディスプレイが表示されます。各チャンネルタイプ内の信号処理のオーダーはチャンネルストリップで次のように表示されます：Filters- Insert point A-EQ-Compressor/Gate-Insert point B

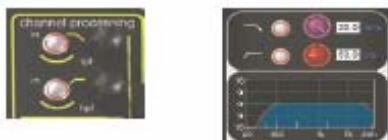
2.8.1 チャンネル・フィルター

チャンネルストリップのフィルターセクションは、入力セクションの下にあります。2 個の周波数ポットで構成しており、それぞれ独自の ON/OFF スイッチと、ヘルツ単位のフィルターのカットオフ周波数ディスプレイを搭載し、ON/OFF スイッチは、OFF の時は灰色に、ON の時は赤色に点灯します。ローパス・フィルターは上側に、ハイパスフィルターは下側にあり、どちらも 1 オクターブあたり 24dB のロールオフを持っています。フィルターは信号チェーンで、直接入力セクションをフォローします。

フィルター・エリアは EQ/filters ディスプレイの上にもあり、チャンネルストリップのイコライザーエリアにタッチして呼び出します。フィルターはチャンネル・コンソール上のつまみ部の上側にある、専用のフィルター・エンコーダーおよびスイッチを使用して設定します。

EQ/filters ディスプレイとコンソール上で、それぞれのバンドは左側に 18dB のゲイン調整、右上に周波数調整 (20Hz ~ 20kHz)、右下に Q 設定を搭載しています。各ポットは、右側にパラメーター値を表示します。HF/LF 各バンドの下側には、フィルターの特性をベルとシェルピングで切り替えるスイッチがあります。

EQ/filters ディスプレイの下側には、safe、flat、preset と記載された灰色のスイッチがあります。safe にタッチすると、イコライザーをチャンネルセーフのそのチャンネルのリストに追加します。flat にタッチすると、イコライザーのゲイン調整を 0dB にリセットします。preset にタッチすると、Presets ディスプレイを表示し、プリセットの保存や呼び出しを行えます。



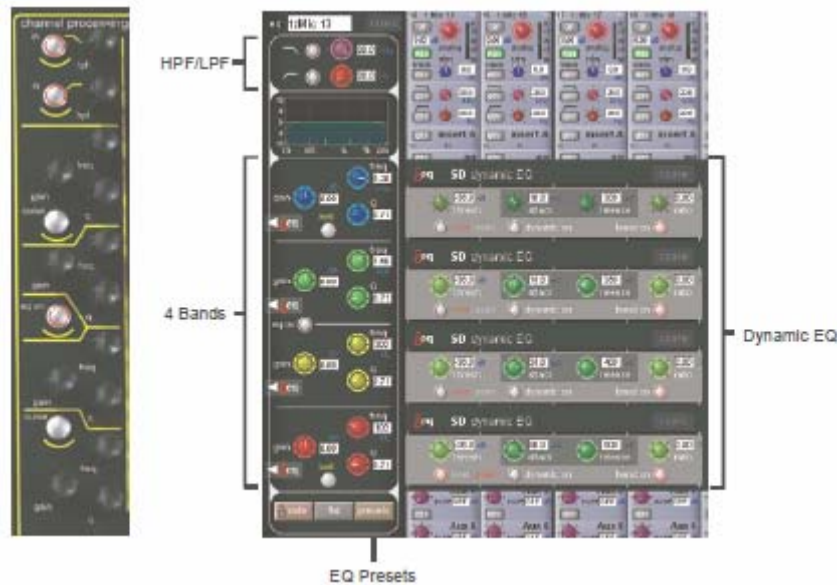
フィルターのグラフィック表示はチャンネルストリップの Insert A の下にあるイコライザーグラフに含まれています。グラフの赤い線は、現在のフィルター設定を表します。

2.8.2 チャンネルイコライザー

SD11 のチャンネルイコライザーは 4 バンドで構成しています。それぞれの帯域は、色分けされており HF は青色、HMF は緑色、LMF は黄色、LF は赤色です。ディスプレイは Insert A の下にあり、現在のイコライザーカーブ表示と ON/OFF スイッチで構成しています。ON/OFF スイッチは OFF の時は灰色に、ON の時には赤色に点灯します。グラフ内の緑色の線はイコライザーの周波数特性を、赤い線はフィルター特性を表示します。各帯域の中央周波数はグラフの下側に色分けされた短い線で表示されます。

チャンネルストリップのイコライザーエリアにタッチすると、EQ/filters ディスプレイを表示します。ディスプレイのイコライザーセクションはフィルターセクションの下にあり、上側に別の現在のイコライザーのグラフィック表示を持っています。このイコライザーグラフにタッチすると、グラフの拡大図を開きます。

イコライザーは、ディスプレイと同じレイアウトに従った、コンソール上の専用エンコーダーおよびスイッチで設定します。



EQ/filters ディスプレイとコンソール上で、それぞれのバンドは左側に 18dB のゲイン調整、右上に周波数調整 (20Hz ~ 20kHz)、右下に Q 設定を搭載しています。各ポットは、右側にパラメーター値を表示します。HF/LF 各バンドの下側には、フィルターの特性をベルとシェルピングで切り替えるスイッチがあります。

EQ/filters ディスプレイの下側には、safe、flat、preset と記載された灰色のスイッチがあります。safe にタッチすると、イコライザーをチャンネルセーフのそのチャンネルのリストに追加します。flat にタッチすると、イコライザーのゲイン調整を 0dB にリセットします。preset にタッチすると、Presets ディスプレイを表示し、プリセットの保存や呼び出しを行えます。

(P2-15)

ダイナミック EQ の詳細

最大 4 チャンネルのイコライザーをダイナミック EQ として使用できます。入出力いずれのチャンネルでも赤いデルタマークを押すことでダイナミック EQ に切り替えられ、ダイナミック EQ の調整を行うパネルを拡張して調整を行います。

ダイナミック EQ は 4 チャンネルまで設定可能で、4 チャンネルを越えると注意を促すメッセージがスクリーン上に現れます。ダイナミック EQ ではイコライザーの調整は事前に設定したスレッシュホールドに対する入力周波数のレベルを基に動的に調整されます。

ダイナミック EQ にはオーバーモードとアンダーモードの 2 つのモードを用意しています。

・オーバーモード

オーバーモードにする場合は、スレッシュホールドつまみ下の Over Under スイッチを OFF にしてください。



オーバーモードではダイナミック EQ セクションに入力された信号がスレッシュホールドを超えると設定したアタック、リリース、レシオの調整を行い、帯域ごとに設定したゲイン調整の動作を開始します。

Gain : イコライジングのゲイン調整の最大値を設定

Frequency/Q/Curve: 分割する帯域の周波数、Q、カーブ(ベル型、シェルピング型)を設定

Threshold: イコライザーが動作を開始するスレッシュホールドを設定

Attack: スレッシュホールドを超えた信号に対してダイナミックモジュールが動作を開始する時間を設定

Release: スレッシュホールドを下回った信号に対してダイナミックモジュールが動作を保持する時間を設定

Ratio: スレッシュホールドを超えた信号に対してダイナミック調整をどれだけ早く最大値まで達するようにするかを設定

オーバーモードは特定の周波数帯域のみを緩やかに減衰するなど、一般的に特定の周波数のゲイン減衰に使用します。歌い手が声を大きく張り上げたときなどのレベル変化を自然に制御する際に特に有効です。

・アンダーモード

アンダーモードにする場合は、スレッシュホールドつまみ下の Over Under スイッチを ON にしてください。



アンダーモードでは、ダイナミック EQ セクションに入力された信号がスレッシュホールド以下の場合に、設定したアタック、リリース、レシオの調整を行い、帯域ごとに設定したゲイン調整の動作を開始します。

信号がスレッシュホールドに近づくにつれてイコライザー動作が少なくなり、スレッシュホールドでイコライジングは OFF になります。イコライジング動作の減衰はアタック、リリース、レシオの設定で決められます。

(P2-16)

2.8.3 チャンネル・ダイナミクス

SD11 のチャンネル・ダイナミクスには、構成を自由に行えるコンプレッサーと、ハイパス/ ローパス・フィルターを搭載したゲートを搭載しています。ディスプレイは、eq ディスプレイの下にあります。

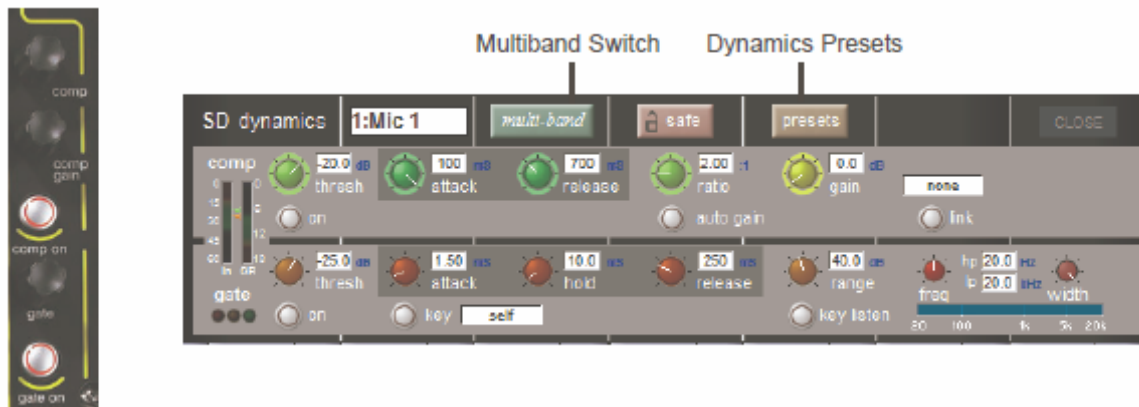
コンプレッサーを ON にするには comp ラベルの左にある ON/OFF スイッチを、ゲートを ON にするには gate ラベルの左にある ON/OFF スイッチを押してください。

このスイッチは OFF の場合は灰色、ON の場合には赤色に点灯します。

ON にするとチャンネルストリップ内のコンプレッサー・ディスプレイに、パラメーター値をデシベル単位で右側に表示したスレッシュホールド、ゲインのポット、入力 (In) メーター、およびゲイン・リダクション (GR) メーターが表れます。ゲート・ディスプレイには、パラメーター値をデシベル単位で左側に表示したスレッシュホールド・ポット、および 3 個のステータスインジケーターが表れます。comp エリアの入カメーターの右側には 2 個の小さな矢印があり、緑色の矢印は現在のコンプレッサーのスレッシュホールドを、オレンジの矢印はゲートのスレッシュホールドを表示します。

comp または gate エリアの任意の場所を押すと、dynamics ディスプレイを表示します。dynamics ディスプレイを開くとコンプレッサーおよびゲートの制御がスクリーン下のエンコーダーに割り当てられます。

スレッシュホールド・スイッチの下にある on スイッチを押すとコンプレッサーおよびゲートを ON にします。ratio ポットの下にある auto gain スイッチを押すとコンプレッサーの自動ゲイン機能を ON にします。自動ゲイン機能は、スレッシュホールドに変更を加えた場合にゲインの補償を自動的に調整し、コンプレッサーの出力を一定に保つ機能です。



モノラルチャンネルの場合、コンプレッサー調整の右側に link スイッチがあり、2 つのチャンネルをステレオのようにリンクします。完全なステレオリンクとは異なり、link スイッチで、別のチャンネルの信号をコンプレッサーのコントロール回路の入力に追加し、このチャンネルの信号を別のチャンネルのコントロール回路の入力に追加する機能です。このスイッチを押すことで左側にチャンネル、グループ、それに AUX 信号グループをリスト表示する dynamics link ディスプレイが呼び出され、信号グループのいずれかを選択すると、利用可能な信号がディスプレイの右側にリストで表示されます。リンクする信号を選択してディスプレイを閉じるとリンクが有効になり、link スイッチが赤いリングで囲まれ、リンクされたチャンネルの番号と名称が、その上のボックスに表示されます。リンクをキャンセルする場合は、再度 link スイッチを押してください。

※リンク・チャンネルに名称がない場合、チャンネル番号が繰り返されます。

attack ポットの下にある key スイッチを押して、別の信号でゲートにキーを与えることが可能です。Gate Key Route ディスプレイが表示され、そこからキー入力を選択できます。連続した入力信号で連続したチャンネル・ゲートにキーを与える場合は、リップル・チャンネル機能を使用します。キー入力が有効な場合、key スイッチの周囲が赤いリングで囲まれ、その右のテキストボックスにキー入力を表示されます。

キー入力信号は、range ポットの下にある key listen スイッチを押して検聴できます。利用可能なパラメーターと範囲は以下の通りです。

各ポットの右側にはパラメーター値が表示されます。ポットは dynamics パネルを拡大するとディスプレイの下にあるコンソール・エンコーダーに自動的に割り当てられます。ディスプレイを 3 バンドに拡大すると、各バンドをタッチすることでエンコーダーの列に割り当てられます。

dynamics ディスプレイの上側には safe、presets と名付けられた 2 個のスイッチがあります。safe にタッチすると、ダイナミクスをそのチャンネルのチャンネルセーフのリストに追加します。presets にタッチすると、Presets ディスプレイが表示され、プリセットの保存および呼び出しを実行します。

(P2-17)

コンプレッサー

スレッシュホールド (範囲: $-60 \sim 0$ dB) このポットはコンソール上にもあります。

アタック (範囲: $0.5 \sim 100$ mS)

リリース (範囲: 10 mS ~ 10 S)

レシオ (範囲: $1:1 \sim 50:1$)

ゲイン補償 (範囲: $0 \sim 40$ dB) このポットはコンソール上にもあります

ゲート

スレッシュホールド (範囲: $-60 \sim 0$ dB) このポットはコンソール上にもあります。

アタック (範囲: $0.05 \sim 100$ mS)

ホールド (範囲: 2 mS ~ 2 S)

リリース (範囲: 5 mS ~ 5 S)

レシオ (範囲: $0 \sim 90$ dB)

フィルター周波数 (ハイパスおよびローパスの範囲: 20 Hz ~ 20 kHz)

Width (範囲: $0 \sim 19.48$ kHz)

マルチバンドコンプレッション

最大 4 チャンネルのダイナミクスモジュール(コンプレッサー) をマルチバンドモードに切り替えることが可能です。入出力の任意のチャンネルで、ダイナミクスパネルを開き、Multi-band スイッチを押してダイナミクス調整を拡張します。

4 系統以上のチャンネルにマルチバンドモードを割り当てようとすると注意を促すメッセージがスクリーン上に表示されます。

どのチャンネル(入出力)でも、Dynamics Module を開き、マルチバンドボタンを使用してダイナミックコントロールを広げます。



マルチバンドダイナミクスでは各バンドで通常のコンプレッサーと同様のパラメーターを用意しています。リンク機能はコンプレッサー全体に適用されるため、バンドごとには割り当てられません。各バンドの左手側にある on スイッチを押すことでダイナミクスの ON、スクリーン右の all on スイッチを押すと全バンドを一括で ON にします。

※ OFF になっている帯域には音声信号が通過しません。

バンド間のクロスオーバー周波数は hi と Lo 帯域の左にある紫と赤のポットを使用して調整します。各クロスオーバーは 20 Hz ~ 20 kHz の範囲で調整でき、クロスオーバー周波数は各ポットの下に表示されます。

各バンドは gain ポット下の listen スイッチを押すことで検聴できます。検聴中のバンドはソロでミックスへ送られ(ソロバス送りではありません)、その他のバンドは一時的に OFF になります。

チャンネルストリップ上のコンプレッサースレッシュホールドおよびゲイン調整は 3 つのバンドのオフセットを保持した状態で調整を行います。個別の調整はスクリーン下のアサイン可能なエンコーダーに割り当てられます。

※リンク機能の設定を超えてシングルとマルチバンドコンプレッサーは完全に別々の設定を持っています。そのため、設定はそれぞれに

SD11 Operation Manual

反映されず、アクティブでないコンプレッサーはパラメーター値のみが保持されています。1 つのチャンネルで同時にマルチバンドとシングルバンドのダイナミックをアクティブにはできません。

再度 multi-band スイッチを押すとシングルバンド・コンプレッサーに切り替わります。

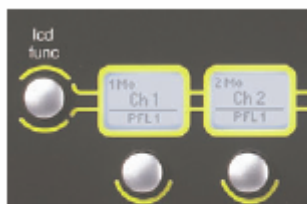
(P2-18)

2.9 LCD スイッチ

2.9.1 LCD スイッチについて

LCD 機能はチャンネルの LCD スイッチ列隣のスイッチを押して呼び出します。LCD Function スイッチは両方のセクションに搭載しています。LCD スイッチはスイッチ自体に該当するチャンネル情報や現在の機能モードなどの情報をスイッチの下半分で表示します。

LCD ディスプレイ下の Channel Select スイッチは様々な機能を ON にする、または必要に応じてチャンネルの選択に使用します。LCD スイッチを押すことで LCD 機能に関連する全てのチャンネルの Channel Select スイッチにモードを割り当てます。



LCD スイッチの割り当てには 9 種類の機能モードが選択できます。

2.9.2 ソロ

lcd function スイッチを押すと、左側の LCD 画面の名称が SOLO に変わります。SOLO モードを選択すると、LCD スイッチがソロ・スイッチになります。

LCD スイッチの下半分がチャンネル Setup ディスプレイおよび SOLO CHOICE 機能モード（「2.9.3 SOLO CHOICE」を参照）で設定した、どのソロバスがチャンネルに有効であるかを表示します。このスイッチはまた、各バスが AFL か PFL か（マスター・ソロ・ディスプレイの左上のコーナーで定義）も表示します。

LCD スイッチの色はソロになっている場合に緑色、ソロになっていない場合はチャンネルタイプに応じた色で点灯します。

※ソロモードは他のモードが選択されていない場合の、LCD スイッチのデフォルト・モードです。

2.9.3 SOLO CHOICE

lcd function スイッチを押すと、左から 2 番目の LCD スイッチの名称が SOLO CHOICE になります。このモードを選択した場合、この LCD スイッチを使用して、そのチャンネルに対するソロバスの割り当てを設定します。SOLO CHOICE モードでは、1、2、1+2 の間で切り替え、LCD スイッチの色が青色になります。

2.9.4 GANG

lcd function スイッチを押すと、左から 3 番目の LCD スイッチの名称が GANG になります。このモードを選択すると、Channel Select スイッチを使用して全てのチャンネル・コントロールをまとめてリンクできます。次に押した Channel Select スイッチは全て、コントロールがリンクされます。現在ギャングされているチャンネルの場合、再度 LCD スイッチを押すとギャング・グループから外すことも可能です。チャンネルディスプレイの左下のコーナーにある GANG マークの色は、どのようなギャング・グループがあるのかを表示します。ギャングにしたフェーダーは全て同じ色を共有します。GANG lcd function を選択するたびに新しいギャング・グループが始まり、GANG マークの色が別の色に変わります。

チャンネルをギャングすると、任意のチャンネル・コントロールを操作した場合、ギャング・グループのそれ以外のチャンネル全てが同じ動作になります。パンおよび位相調整はギャングに含まれません。

※複製されるのはフェーダーの動きに関連するレベルの変化であり、フェーダーが動いた物理的な距離ではありません。

※ギャングは、作成後に編集できません。クリアし、再度作成する必要があります。

※チャンネルをミュートすると、既にミュートがかかっているギャング・グループの中のチャンネルは、ミュートがかかったままになります。次にチャンネルのミュートを解除すると、最初にミュートがかかっていたかどうかに関わらず、全てのチャンネルのミュートが解除されます。

Option スイッチを押すことにより、一時的にチャンネルをギャングから外すことができます。

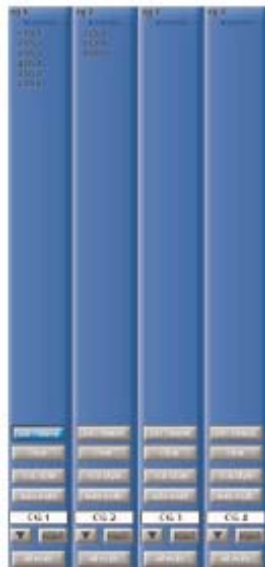
(P2-19)

2.9.5 JOIN CG

lcd function スイッチを押すと、左から 4 番目の LCD スイッチの名称が JOIN CG になります。このモードを選択すると青いコントロールグループストリップがディスプレイに表示され、Channels Select スイッチでチャンネルをコントロールグループに割り当てることができます。

コントロールグループは複数のチャンネル出力レベルやミュート機能を、1 本のマスターフェーダーで制御する機能です。コントロールグループには、4 種類のチャンネルタイプから任意のチャンネルの組み合わせで設定できます。

まず、作成するコントロールグループの Channel Select スイッチを押してください。LCD 画面にチェックマークが付きます。その後、割り当てを行う全チャンネルの Channel Select スイッチを選択します。



※コントロールグループはグループ（GRP）バスとは全く異なります。グループバスは、ルーティングされたあらゆるチャンネルの信号をミックスしますが、コントロールグループは、オーディオのルーティングに関わらず、割り当てされたチャンネルのレベル調整を行うのみの機能です。

1 つのセッションは最大 8 個のコントロールグループの設定が可能です。コントロールグループは、ネーミング機能でも名称を付けることができ、チャンネルストリップの下側にある safe スイッチを使用すれば、新しいスナップショットを起動した時にコントロールグループの割り当てや設定を保護することができます。

コントロールグループ・チャンネル割り当て

コントロールグループに設定したチャンネルを追加/ 削除する場合、JOIN CG 機能モードに入り、編集するコントロールグループ・チャンネルの Channel Select スイッチを押す、もしくは、コントロールグループ・チャンネルのスイッチ・セットの上側にある join/leave スイッチにタッチします。コントロールグループ・ジョインモードに入り、全ての Channel Select スイッチが青色に変わります。コントロールグループ・ジョイン・モードではスイッチの下半分に、編集するコントロールグループの数が表示されます。

※どのチャンネルでも join/leave にタッチすると、全てのチャンネルが JOIN CG モードに入るのでご注意ください。

現在グループに含まれているチャンネルの LCD スイッチは水色で表示されます。Channel Select スイッチを押すと、該当のグループからチャンネルが外れます。

グループに含まれていないチャンネルの LCD スイッチは紺色で表示され、Channel Select スイッチを押すとコントロールグループに追加されます。

チャンネルが属しているコントロールグループ全てを、Channel ストリップ・パネルの GANG および SAFE スイッチの真上に表示します。

※チャンネル内の最初の 2 ～ 3 のコントロールグループ割り当て状況のみがチャンネルストリップに表示されます。

コントロールグループに含まれるチャンネルは全て、対応するチャンネルストリップ・ディスプレイの上半分にリスト表示されます。

コントロールグループに現在割り当てられているチャンネルを全てクリアする場合は、join/leave スイッチの下にあるコントロールグループの clear スイッチにタッチし、実行を警告するディスプレイで Yes を押してください。

(P2-20)

コントロールグループ・フェーダー・モード

コントロールグループ・フェーダーが、割り当てられたチャンネルのフェーダーと相互に動作する 3 つのモードがあり、チャンネルストリップ・ディスプレイの clear スイッチの下にあるスイッチで動作モードを切り替えます。

moving fader モード 割り当てられたフェーダーが全てコントロールグループ・フェーダーの動きを繰り返します。

※追従するのはフェーダーの動きに関連するレベルの変化であり、フェーダーが動いた物理的な距離ではありません。

vca style モード コントロールグループ・フェーダーを動かすと、全ての割り当てられたチャンネルの出力レベルをフェーダーを動かさずに制御します。

mute only モード コントロールグループは割り当てされたチャンネルのミュート・スイッチのみを制御し、出力レベルは制御しません。

※コントロールグループに割り当てられたチャンネルのフェーダーを動かしても、グループ内の他のチャンネルの出力レベルには影響を与えません。

コントロールグループのミュート機能

コントロールグループの mute スイッチも、現在のフェーダー・モードに関わりなく相互に動作します。

コントロールグループ・フェーダーのLCD スイッチの上にある mute スイッチを使用して、割り当てられたチャンネルを全てミュートします。この機能は、チャンネルのメモ用ストリップの下のある all mute スイッチからも実行できます。OFF にした場合、コントロールグループ・ミュート・スイッチは、全ての割り当てられたチャンネルをミュートスイッチを起動する前の状態に戻します。

チャンネルストリップ・パネルのコントロールグループ名の上にある auto-mute スイッチにタッチすると自動ミュート機能が ON になります。自動ミュート機能はコントロールグループから外されたチャンネルを自動的にミュートし、コントロールグループに加わる全てのチャンネルのミュートを解除します。

マスター・コントロールグループ・ディスプレイ

コントロールグループ・チャンネルストリップに加えて、Master パネルの Control Groups メニュー・スイッチを押すと、マスター・コントロールグループ・ディスプレイを呼び出します。

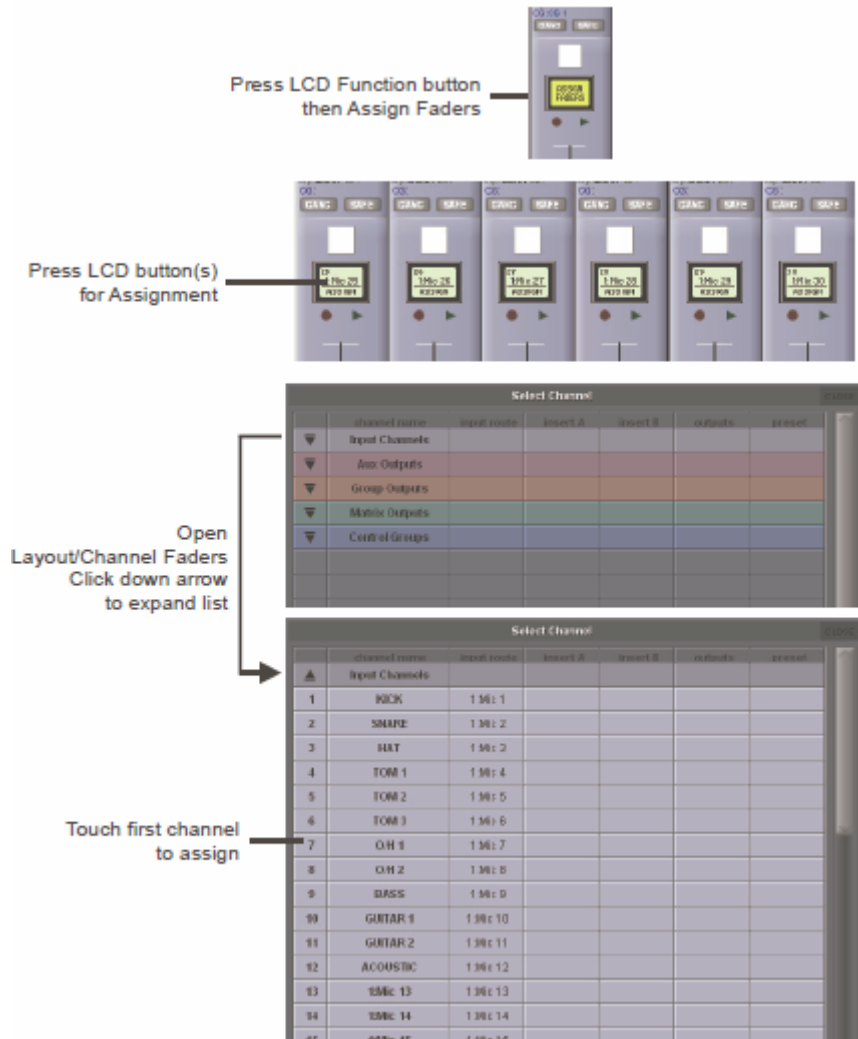


マスター・コントロールグループ・ディスプレイではセッション内のコントロールグループ全ての概要にアクセスできます。マスター・コントロールグループ・ディスプレイは、チャンネルの割り当てリストおよびこのディスプレイから調整可能な複数の基本設定 (join/leave、clear、all mute) を含む、各コントロールグループ・チャンネルストリップの基本的なバージョンで構成しています。

(P2-21)

2.9.6 フェーダーの割り当て

フェーダーの割り当てを行う場合は ASSIGN FADERS モードに入っていきます。LCD スイッチのディスプレイが暗い緑色に変わり、下半分に ASSIGN と表示されます。新しいチャンネルを割り当てたいチャンネルストリップのチャンネルセレクトスイッチを押してください。



割り当てるチャンネルの選択はマスタースクリーンから Layout > Channel List をタッチして、チャンネルリストを開きます。リストには全入出力チャンネルおよびコントロールチャンネルがチャンネルタイプによってグループ分けされたセッション構造に従って表示されています。希望のチャンネルの前に表示された下向きの三角をタッチするとリストが展開します、リストはウィンドウ右側のバーでスクロールできます。

表示されたチャンネルをチャンネルストリップに割り当てるには、リスト内のチャンネル名をタッチするだけです。残りのチャンネルも同じ手順で割り当てを行えます。チャンネルリストから選択されたチャンネルは昇順に選択したチャンネルストリップに割り当てられ、バンク内の一番下側のチャンネルから開始します。

※割り当て機能は現在選択中のバンクに限定されます。

※新しいチャンネルがセッションに追加された場合、もしくはセッションを構築した場合、チャンネルは Session Structure ディスプレイの Rebuild Bank 機能を使用してサーフェスに割り当てられます。

(P2-22)

2.9.7 Unassign Faders

チャンネルストリップからチャンネルアサインを取り除くためには、UNASSIGN FADERS モードに入ります。LCD ディスプレイは緑色に変わり、低半分は UNASSIGN を読み込みます。チャンネルストリップ用の Channel Select スイッチを押すと、ストリップはバンクになります。

2.9.8 Copy Bank From

別のチャンネルのバンクを、現在のバンクの位置にコピーする場合は、COPYBNKFROM を押します。「PRESS | A BANK | BUTTON | FOR | COPYIN | FROM」メッセージが、LCD ディスプレイを横切るように表示されます。現在の位置にコピーするバンクの bank スイッチを押してください。

2.9.9 Copy Bank To

現在のバンクを別のバンクの位置にコピーする場合は、COPYBNKTO を押します。「PRESS | A BANK | BUTTON | FOR | COPYIN | TO」メッセージが、LCD ディスプレイを横切るように表示されます。コピー先のバンクの bank スイッチを押します。

2.9.10 Clear Bank

バンクから全てのチャンネルをクリアする場合は、CLEARBANK を押します。「CONFIR | CLEAR | BANK: | YES | NO」メッセージが、LCD ディスプレイを横切るように表示されます。クリアをキャンセルするには NO を、継続するには YES を押してください。

※バンクはレイヤー間、およびコンソールのセクション間で移動できます。

※マスターディスプレイ上の Fader Banks ディスプレイを使用してもバンクのレイアウトを変更できます。

※重要: これらの操作に対するやり直し機能がありません。作業は慎重に行ってください！

DiGiCo SD11 操作マニュアル

第3章 マスターディスプレイ

(P3-2)

この章では、マスターディスプレイから設定を行う全ての機能を説明します。マスターディスプレイ番上にあるメニュー・スイッチの機能を左から右に説明し、センター・セクションのコンソールの機能説明を行います。

マスターディスプレイ右下にある Master Screen スイッチを押して呼び出します。

3.1 System メニュー



3.1.1 Diagnostics

Diagnostics 表示についての説明は、トラブルシューティングの項目にあります。

3.1.2 Oscillator

オシレーター機能の設定を行います。



オシレーターの周波数は、左側の周波数ポットで、音声レベルは右側のレベルポットで設定します。

各ポットの下にあるスイッチを使用して、オシレーターの標準周波数（100Hz、440Hz、1kHz、10kHz）およびレベル（- 3dB、- 6dB、- 12dB、-18dB）を設定します。設定値は、ポットの下に表示されます。

ステレオチャンネルの場合 1kHz オシレーターを、L 信号に対するパルス ID 信号、あるいはスクリーン・グラフィックに表示するような GLITS 信号に設定できます。

3.1.3 Security

セキュリティ機能の設定を行います。セキュリティ機能は以下の 3 つのモードから選択できます。

Setup: コンソール全ての機能にアクセスできます。

Live: アクセスに制限をかけて、パスワードで保護します。

Unattended: コンソールをロックし、操作できなくなります。



(P3-3)

Live モード、Unattended モードはユーザーパスワードを設定できます。パスワードを設定するには、Set Password スイッチを押してください。設定済みの場合は古いパスワードで最初にアクセスし、新しいパスワードを new password 欄、confirm new password 欄に入力してください。



A dialog box titled "Change Live Password" with a "CLOSE" button in the top right corner. It contains three input fields: "existing password", "new password", and "confirm new password". At the bottom right, there is a green checkmark icon and an "OK" button.

※初期設定ではパスワードは設定されていません。

※パスワードを忘れないように注意してください。万が一忘れた場合は輸入代理店にリセット用パスワードを申請する必要があります。その場合、設定済みのユーザーパスワードが全て削除され、新しいパスワードを再度設定する必要があります。

Live モードでのアクセス制限を編集する場合は、set Live restriction スイッチを押してください。設定可能な機能が表示され、各機能、各チャンネルのスコープをクリックするとリストが拡張します。チェックマーク(緑)はアクセス許可、×マーク(赤)はLive モード中にロックがかかることを表しています。



A dialog box titled "Live Security Restrictions" with a "CLOSE" button in the top right corner. It contains a table with columns: channel name, input/trim, delay, filters, eq, dynamics, inserts, sends, fader, mute, panner, to groups, and outputs. The table lists various channels and their access permissions, indicated by green checkmarks (allowed) or red X marks (locked). Below the table, there are several buttons for editing restrictions, each with a green checkmark (allowed) or red X mark (locked).

	channel name	input/trim	delay	filters	eq	dynamics	inserts	sends	fader	mute	panner	to groups	outputs
▼	Local I/O	✓											
▼	Rack 1	✓											
▼	MADI	✓											
▼	Input Channels	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
▼	Aux Outputs	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
▼	Group Outputs	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓		✓	✓
▼	Matrix Inputs	✓						✓					
▲	Matrix Outputs	✓X	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M1	PA Left	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M2	PA Right	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M3	Matrix 3	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M4	Matrix 4	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M5	Matrix 5	X	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M6	Matrix 6	X	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M7	Matrix 7	X	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
M8	Matrix 8	X	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓			✓
▼	FX	✓											
▼	Graphic EQ				✓								

change Control Group members X

change Snapshots X

change Audio I/O devices X

change Gang members ✓

change Channel Presets ✓

change Audio Sync ✓

change Bank Layouts ✓

change FX Presets or types in use ✓

Quit to Windows ✓

change Session Structure or overwrite files ✓

(P3-4)

3.1.4 Clear Over Indicators

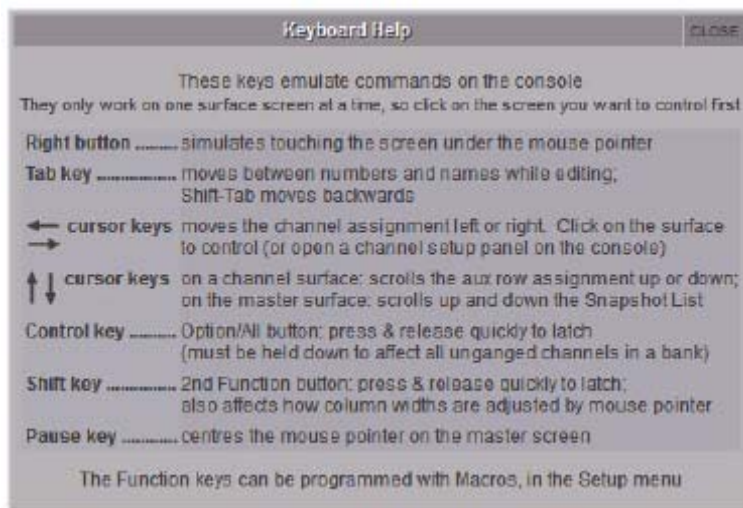
Clear Over Indicators を押すと、ディスプレイのメーターから全てのピーク LED をクリアします。

3.1.5 Overview Clear Screen

情報バーやステータス・インジケータなどの一部のパネルは、トラックボールで外部のオーバービュー・スクリーンにドラッグできます。外部スクリーンにドラッグしたパネルを素早くマスターディスプレイに戻す場合に、Overview Clear Screen スイッチを押してください。

3.1.6 Keyboard Help

Keyboard Help スイッチを押すとキーボードでコントロールできる操作が表示されます。



3.1.7 F10: Reset FX

F10: Reset FX を押すと、FX モジュールオーディオをリセットします。ディレイの長さやリバーブをカットします。リセットをするにはポップアップで出てくる Yes をクリックしてください。

3.1.8 F11: Reset Engine

F11: Reset Engine を押すと、オーディオ・エンジンが再起動します。

※この動作を行うと一瞬音声が中断します。必要な場合を除き、この機能を使用しないでください。

3.1.9 F12: Reset Surfaces

F12: Reset Surfaces を押すと全てのコンソールの設定をリセットします。この動作はローカル I/O の音声に短時間影響を与えます。

3.1.10 Set Date & Time

Set Date & Time を押すと、日付と時間のウィンドウが開きます。

3.1.11 Shutdown

ShutDown を押すと、コンソールのコンピューターを終了します。セッションを保存していない場合、Shutdown を押すと警告ディスプレイが表示されます。

保存せずに終了する場合は Yes、終了をキャンセルする場合は No を押してください。

(P3-5)

3.2 Files メニュー

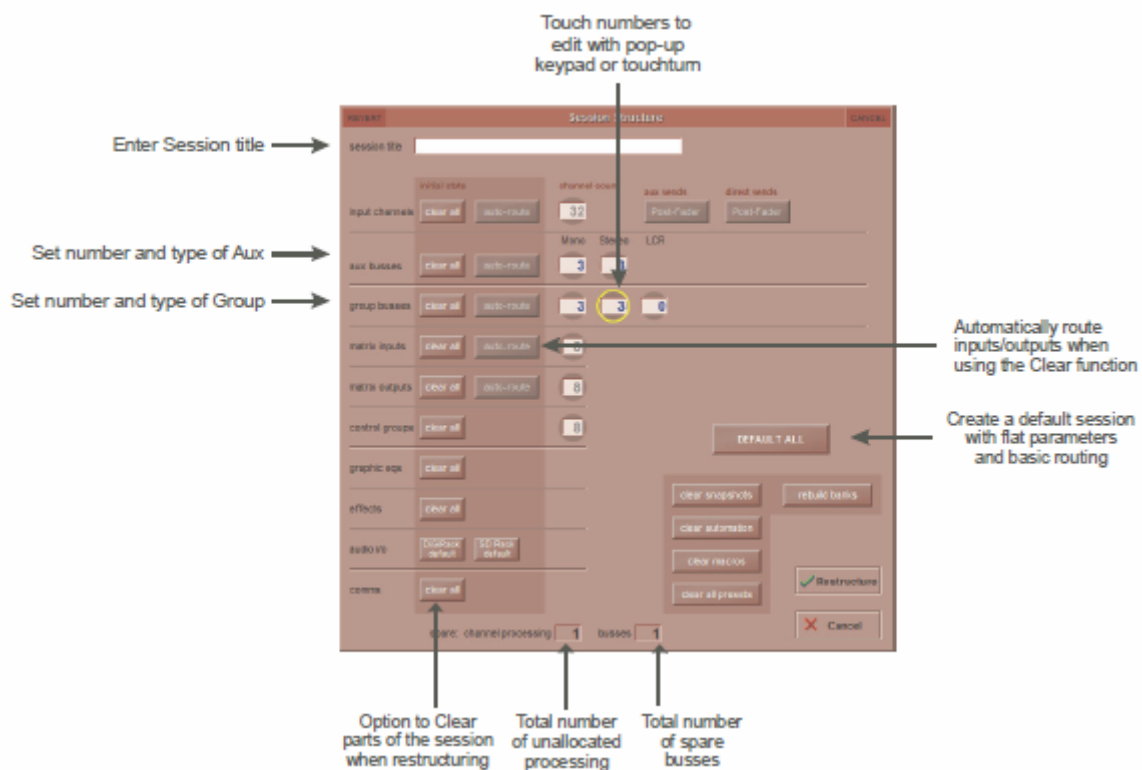


3.2.1 セッションの構造

Files メニューの Session Structure にタッチすると、Session Structure ディスプレイを表示します。このディスプレイではセッションの名称変更、セッションのチャンネル割り当ての設定を行います。セッションの開始後でも、セッション構造の変更は可能ですが、セッションの構成を行う前にあらかじめパラメーターを検証し、設定することをお勧めします。セッション構造の変更は、ディスプレイの右下のコーナーにある Restructure スイッチを押すまでは適用されません。

セッションの名称は、セッション・タイトル・ボックスにタッチし、ディスプレイまたは外部キーボードを使用してセッション名を入力して、OK を押してください。

セッション・タイトルの下に、各チャンネルタイプ個別の設定列があります。設定列には clear all や auto-route スイッチ、セッションの現在のチャンネル数表示などが含まれます。AUX/ グループバスを調整する場合は、対応するチャンネル・カウント・ボックスにタッチした後、ポップアップ数字キーボードを使用して数字を入力するか、割り当てされた Touch-Turn エンコーダーを使用して調整してください。SD11 は合計で 12 系統のモノラル/ ステレオバスを利用できます。ディスプレイの下側にあるスเปア・チャンネル処理ボックスにまだ利用可能なプロセッシング・チャンネル数が、右側のスเปア・バス・ボックスに利用可能な出力チャンネル数が表示されます。



※ Default All スイッチ、Restructure スイッチの順に押すと、最初の 32 系統のラック入力が入力チャンネル 1 ～ 32 に、マスターバスがローカル出力 1、2 にルーティングされる、以下の新規セッションを構成します。入力チャンネルは全てマスターバスにルーティングされ、ソロを設定していなければコンソールのヘッドホンにマスターバスが送られます。

(P3-6)

チャンネルのデフォルト割り当て形式は以下の通りです

- ・ 40 モノラルもしくはステレオ入力チャンネル(固定)
- ・ 3 モノ AUX バス & 3 ステレオ AUX バス(調整可能)
- ・ 3 モノラルグループバス & 1 ステレオマスターバスを含む 3 ステレオグループバス(調整可能)
- ・ 8 マトリクス入力 & 8 マトリクス出力(固定)
- ・ 8 コントロールグループ(固定)
- ・ 2 モノラルもしくはステレオソロバス(固定)

セッション内に LCR バスがある場合は、自動的にマスターバスとして認識され、マスターフェーダーに LCR バスが自動的に割り当てられます。

Restructure スイッチを押した状態で clear all スイッチを押すと、デフォルトでないルーティングまたは処理（イコライザー、ダイナミクスなど）は、セッションのチャンネルからクリアされます。新しいセッションを作成するために、既存のセッションを再構築する場合に便利です。

Restructure スイッチを押した状態で auto-route スイッチを押すと、ラックの物理的な入出力を自動的にセッションの入力および出力チャンネルにルーティングします。この機能を使用することで Channel Setup ディスプレイおよび Output ディスプレイから手動でルーティングする手間を省けます。

例えば、32 系統の入力を自動ルーティングすると、最初の物理的な入力（例、1:Mic1）を入力チャンネル 1 に、2 番目の物理的な入力（1:Mic2）を入力チャンネル 2 という具合に、入力チャンネルを使い切るまでルーティングを実行します。自動ルーティングは以下のチャンネルに使用できます。

- ・ 入力チャンネルの物理的な入力に対する自動ルーティング
- ・ AUX、グループおよびマトリクスチャンネルの物理的な出力に対する自動ルーティング
- ・ マトリクス入力のグループ出力に対する自動ルーティング

※自動ルーティングは clear all スイッチと連動している場合のみ使用でき、入力チャンネルダイレクト出力では使用できません。

※重要！ 自動ルーティングを行うと、それまでの入出力ルーティングが上書きされます。また、AUX/ グループ/ マトリクスチャンネルは、この順番で自動ルーティングされる点に注意してください。任意の順番では自動ルーティングできません。

※コントロールグループは信号のルーティングが含まないため、コントロールグループの auto-route スイッチは存在しません。

入力チャンネルでのダイレクト出力のセンドポイントは、ディスプレイの右上のコーナーにある direct sends スイッチで一括に設定できます。このスイッチを有効にする場合は入力チャンネルの clear all スイッチにタッチした上で direct sends スイッチで、ポストフェーダー、プリフェーダー、プリミュートを切り替えます。

同様に、AUX チャンネル出力のセンドポイントも、direct sends スイッチの左にある aux sends スイッチで一括に設定できます。このスイッチを有効にする場合は、AUX バスの clear all スイッチにタッチした上で aux sends スイッチで、ポストフェーダー、プリフェーダー、プリミュートを切り替えます。

標準のチャンネルタイプ列の下にある audio i/o 列と comms 列でオーディオ I/O カードとトークバック機能をリセットできます。ウィンドウの右下にある clear snapshots と clear macros スイッチで、新しいセッションを作成する際に、既存のスナップショットおよびマクロをクリアできます。

※ clear automation 機能および Comms auto-route は現在のバージョンでは使用できません。

clear snapshots スイッチの右側にある Rebuild Banks スイッチは、Session Structure ディスプレイでの変更をコンソールのレイヤーおよびバンクのレイアウトに反映します。バンクを再構築せずに、セッションを再構成した場合、割り当てた追加チャンネルがコンソールに配置されないため、手動でフェーダーに割り当てる必要があります。しかし、Rebuild Banks を有効にした状態で Restructure を押すと、全てのチャンネルを利用できる状態にコンソールが再構築されます。

※ Rebuild Banks を使用した場合、デフォルトでないチャンネル・レイアウトの構成は失われます。

Session Structure ディスプレイで行った変更をコンソールに更新するには、右下のコーナーにある Restructure スイッチを押します。変更を実行せずにディスプレイを終了する場合は、Restructure スイッチの下にある Cancel をタッチしてください。

実行していない変更をディスプレイからクリアする場合は、ディスプレイの左上のコーナーにある REVERT を押してください。

3.2.2 セッションの読み込み

Files メニューから Load Session を押すと、Load Session ディスプレイを開きます。ディスプレイ左側の列にはファイル・ディレクトリーが、ディレクトリーの一番上には下のフォルダーリストをコンピューターの内部 d: ¥Projects フォルダーの内容と、リムーバブル USB ドライブの内容で切り替える 2 個のスイッチがあります。各フォルダーは、右側にある+ 記号にタッチすることで拡張します。リストは右にあるスクロールバーでスクロールできます。

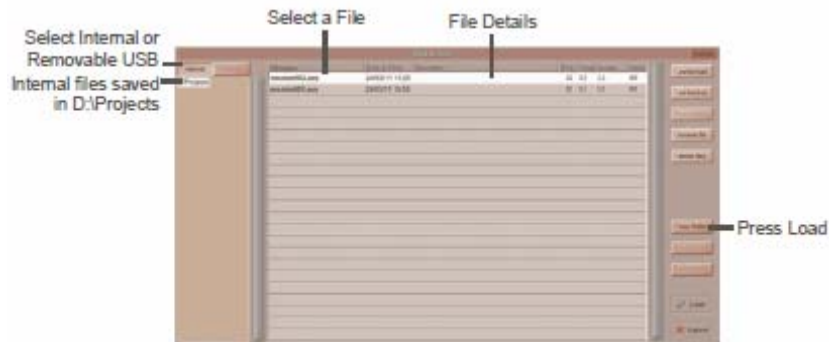
ファイル・ディレクトリーもしくはサブフォルダーにタッチすると、内部のセッションファイルのリストが、スクリーン中央のリストに表示されます。このリストにはファイル名、作成日・時間、セッションの説明および入力、AUX（モノ、ステレオ）、グループ（モノ、ステレオ）およびマトリクスチャンネル（入出力）の数が記載されています。セッションを読み込む場合は、希望のセッションにタッチして右下の Load を押してください。セッションをロードせずにディスプレイを閉じる場合は Cancel スイッチを押します。

(P3-7)

セッションを読み込むと、読み込んだセッションの要約が Master パネル背景の Session ディスプレイに表示されます。セッションに変更を加えると、このディスプレイの File 表示が、一番最後に保存したセッションのフォルダーのみを表示するようになります。

※ BU 列および partial load、set backup および copy backup スイッチは、現在のバージョンでは使用できません。

※ウィンドウの右側の列のスイッチが有効になっている場合、セッションをリストから選択できません。



3.2.3 セッションの保存

File メニューから Save Session を押すと、現在のセッションを保存します。セッションを保存するとセッションを保存した場所を示す確認ボックスが表示されます。

この機能は、最後に保存したセッションに上書きを行います。最後に保存したセッションを残す場合は、新規セッションとして保存します。以下の章を参照してください。

3.2.4 新規セッションとして保存

File メニューから Save As New File を押すと、Save Session ディスプレイが表示されます。ディスプレイの一番上には、ファイル名とセッション・タイトルを表示する 2 つのテキストボックスがあります。ファイル名は通常「sessionxxx.ses」となっており、xxx には自動的に数字が増分して割り当てられ、セッション・タイトルは現在のセッションと同じ名称が付けられます。最後に保存してからセッションに変更を加えていない場合、ファイル名は現在のセッションと同じです。ファイル名とセッション・タイトルを編集する場合は、テキストボックスにタッチしてディスプレイまたは外部キーボードから新しい名称またはタイトルを入力し、OK を押してください。別のセッションを上書きする場合、またはセッションを以前に使用した名称で新しいフォルダーに保存する場合は該当のセッションを選択してから保存を行ってください。

セッションファイルの保存場所は、ディスプレイ左側のディレクトリーで設定します。ディレクトリーの一番上には、下のフォルダーリストをコンピューターの内部 d:\Projects フォルダーの内容と、リムーバブル USB ドライブの内容で切り替える 2 個のスイッチがあります。各フォルダーは、右側にある + 記号にタッチすることで拡張します。リストは右にあるスクロールバーでスクロールできます。

新しいフォルダーを作成するには、以上の手順でフォルダーの場所を選択し、ディスプレイの右側にある new folder スイッチにタッチしてください。その後、外部キーボードでフォルダーの名称を入力して、外部キーボードの return スイッチを押します。フォルダーの名称を変更する場合は、ディレクトリー内のフォルダーにタッチし、ディスプレイの右側にある rename folder スイッチにタッチします。その後、外部キーボードでフォルダーの名称を入力して、外部キーボードの return スイッチを押します。

フォルダーの削除は、ディスプレイの右側にある delete folder スイッチを押した後、削除するフォルダーを選択し、確認ポップアップで Yes を押します。

※フォルダーの削除はやり直しができないため、使用には十分に注意を払ってください。

セッションに名称を付けて保存する場所を選択したら、ディスプレイ右下のコーナーにある Save を押します。保存せずにディスプレイを終了する場合は、Save スイッチの下、またはディスプレイの右上にある Cancel を押してください。フォルダー内に既に存在するファイル名でセッションを保存しようとする、ポップアップ・メニューが表示され、ファイルの上書きを警告するメッセージが表示されます。上書きを実行する場合は Yes を、キャンセルする場合は No を押してください。

※最後に保存したセッションを上書きする方が、新規セッションとして保存するよりも素早く行えます。

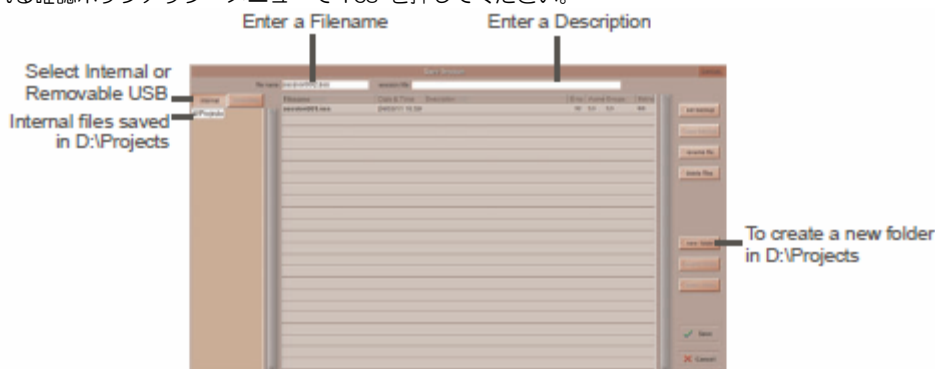
セッションを保存したら、保存したセッションファイルの場所を表示する確認メニューが表示されます。ファイルの名称を変更する場合は名称を変更するファイルを選択し、ディスプレイの右側にある rename file を押してください。その後、外部キーボードでファイルの名称を入力して OK を押します。ファイルを選択していない状態で rename file を押した場合、リストの

SD11 Operation Manual

最初のファイルが自動的に名称変更を選択されます。

※ファイルの保存後は、ファイル名の変更のみ編集可能な項目になります。

ファイルを削除する場合は、削除するファイルを含むフォルダーを選択し、delete files にタッチしてください。フォルダーにある全てのファイルを削除する場合は、select all > confirm delete の順に選択します。1 つのファイルまたは複数のファイルを選択して削除する場合は、削除するファイルにタッチしてから、confirm delete を押してください。連続した範囲のファイルを全て削除する場合は、select range にタッチし、削除する範囲の最初と最後のファイルを選択して confirm delete を押します。削除プロセスを実行するには、最後に表示される確認ポップアップ・メニューで Yes を押してください。



(P3-8)

※ set backup および copy backup 機能は現在のバージョンでは使用できません。

3.2.5 Load Presets

File メニューから Load Presets を押すと、Load Presets ディスプレイを開きます。このディスプレイでは他のセッションで作成したチャンネル、FX、グラフィックイコライザーおよびマトリクス・プリセットを現在のセッションにインポートします。ディスプレイ左側の列には、ファイル・ディレクトリーが表示され、ディレクトリーの一番上には、下のフォルダーリストをコンピューターの内部 d: ¥Projects フォルダーの内容と、リムーバブル USB ドライブの内容で切り替える 2 個のスイッチがあります。各フォルダーは右側にある+ 記号にタッチして拡張します。リストは右にあるスクロールバーでスクロールできます。

左側のファイル・ディレクトリーもしくはサブフォルダーにタッチすると、内部のプリセット・ファイルリストが、スクリーン中央のリストに表示されます。リストには、ファイル名、作成日時、プリセット・ファイルの詳細および入力、Out (fx)、GrEQ (グラフィックイコライザー)、マトリクス・プリセットの数も表示します。

プリセットを読み込むには、希望のプリセット・ファイルにタッチし、ディスプレイ右下のコーナーにある Load を押してください。セッションを読み込まずにディスプレイを終了する場合は、Load スwitchの下またはディスプレイ右上のコーナーにある Cancel スwitchを押します。

※セッションのプリセットも、セッションファイルの一部として保存されます。

※ set backup および copy backup 機能は現在のバージョンでは使用できません。

※ウィンドウ右側にある列のスイッチが有効になっている場合、セッションをリストから選択できません。

3.2.6 Save Presets

File メニューから Save Presets を押すと、Save Presets ディスプレイを開きます。ディスプレイの一番上には、最後に作成したプリセット・ファイルのファイル名が表示されたテキストボックスがあります。セッション名は通常「presetsxxx.pre」となっており、xxx は自動的に数字が増分して割り当てられます。ファイル名を編集する場合は、テキストボックスにタッチし、新しい名称またはタイトルをディスプレイまたは外部キーボードから入力し、OK を押してください。

別のファイルを上書きする場合、またはファイルを前に使用した名称で新しいフォルダーに保存する場合は、該当のファイルを選択してから保存を行ってください。

プリセット・ファイルを保存する場所は、ディスプレイの左側にあるディレクトリーで設定します。ディレクトリーの一番上には下のフォルダーリストを、コンピューターの内部 d: ¥Projects フォルダーの内容と、リムーバブル USB ドライブの内容の間で切り替える 2 個のスイッチがあります。各フォルダーは右側にある+ 記号にタッチして拡張できます。また右にあるスクロールバーを使用してスクロールできます。

プリセット・ファイルに名称を付け保存場所を選択したら、ディスプレイの右下のコーナーにある Save を押して保存します。保存せずにディスプレイを終了する場合は、Save スwitchの下またはディスプレイ右上のコーナーにある Cancel スwitchを押してください。フォルダー内に既に存在するファイル名でプリセットを保存する場合は、同じ名称のファイルが上書きされる警告のポップアップ・メニューが表示されます。上書きを実行する場合は Yes を、キャンセルする場合は No を押してください。

※セッションのプリセットも、セッションファイルの一部として保存されます。

※ set backup および copy backup 機能は現在のバージョンでは使用できません。

(P3-9)

3.2.7 Global Set To Defaults

Global Set To Default パネルではグローバル設定をコンソールに適用します。

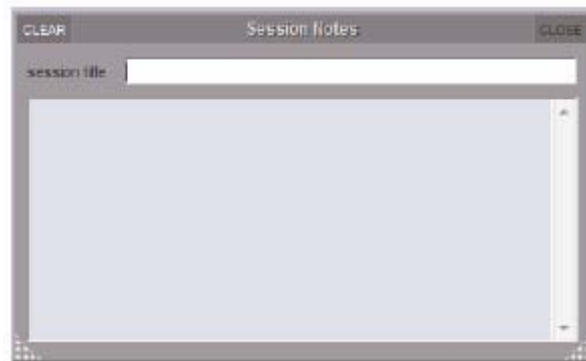
Files メニューから Global Set To Default パネルを開きます。パネル左側のリストからチャンネルタイプを選択肢、利用可能な機能を選択してください。



この操作にはアンドゥーが有効で、パネルを開いている間全ての変更をアンドゥーできます。一度 Global Set To Default パネルを閉じるとアンドゥーできなくなるので注意してください。

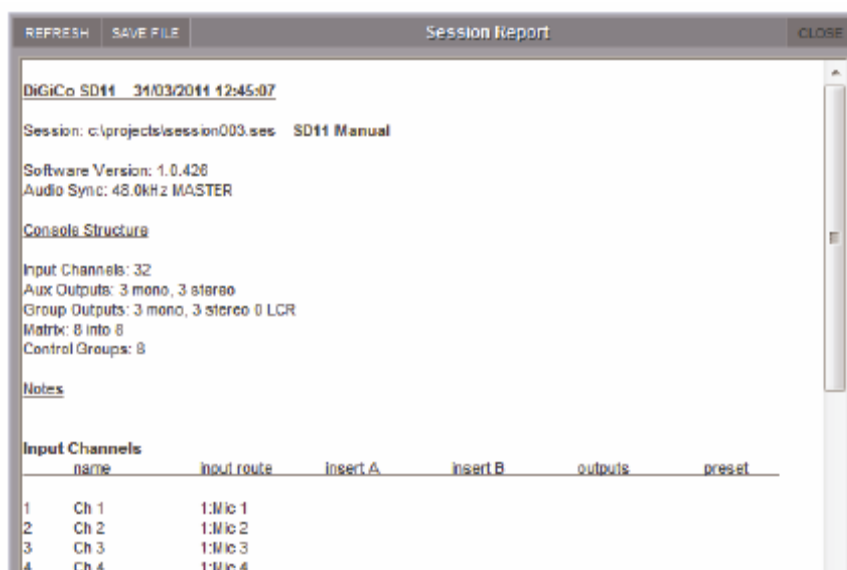
3.2.8 Session Notes

File メニューから Session Notes スイッチでパネルを開き、重要なセッションの情報を保存するために使用できます。



3.2.9 Session Report

File メニューから Session Report を押すと、Session Report ディスプレイを開きます。Session Report はマスタースクリーン上でセッションの詳細を RTF フォーマットでリスト表示します。左上にある SAVE FILE スイッチを押すとレポートデータータを [D:\Projects] 内に「セッションファイル名.rtf」の名称で保存します。



(P3-10)

3.3 Layout メニュー

3.3.1 Fader Banks

Layout メニューから Fader Banks を押すと、Fader Banks ディスプレイを表示します。Fader Banks ディスプレイでは各フェーダー・バンクの位置を変更可能です。各セクションで利用可能なバンク・スイッチは、現在のフェーダー・セットとして表示され、左右のセクションのバンクはそれぞれ左と右に表示されます。ディスプレイの下に向かって、灰色の機能スイッチがあり、選択されるとライトグレーに点灯します。



2 つのフェーダー・セットを入れ替える場合は、片方のセットのバンクにタッチして黄色に強調されたら、(左のフェーダー・バンク下にある) swap にタッチし、次に入れ替える側のバンクスイッチにタッチします。

フェーダーバンクを新しいバンク位置に移動する場合、移動するフェーダーバンクを強調表示し、move にタッチし、次にこのセットを移動するバンクにタッチします。移動先のバンクにフェーダーバンクが既にある場合は上書きされます。

フェーダーバンクを新しいバンク位置にコピーする場合、コピーするフェーダーバンクを強調表示し、(move スイッチの右にある) copy to にタッチし、次にこのセットをコピーするバンクにタッチします。コピー先のバンクにフェーダーバンクが既にある場合は上書きされます。

バンクの LCD スイッチの名称を編集する場合は、ディスプレイ左下のテキストボックスを使用します。デフォルトでは、スイッチの一番上の列がチャンネルタイプの略号 (入力チャンネルは Ch、AUX チャンネルは Aux、グループチャンネルは Grp、マトリクスチャンネルは Matrix、コントロールグループ・チャンネルは CG)、およびチャンネル番号の範囲を表示し、下側の列はチャンネルタイプを表示します。どちらの列を編集する場合も、テキストボックスにタッチして、ディスプレイまたは外部キーボードを使用して新しい名称を入力し、OK を押してください。右側にあるキーボードアイコンを使用して、一番上の列のネーミング機能も使用できます。

※このラベルは、バンク内のチャンネルフェーダーではなくバンク・スイッチ・ディスプレイに影響します。

Overview ディスプレイ

各フェーダー・セットを縮小して全体を表示したオーバービューを、マスターディスプレイ上またはコンソール背面の Overview VGA 出力に接続した外部スクリーンに表示できます。オーバービュー表示では、フェーダー・ポジション、ミュート、ソロ・ステータス、インサート・ステータス、および表示しているバンク全てのチャンネルのメーターが表示されます。表示されるパラメーターは、外部マウスを使用してオーバービュー表示上でも調整可能です。Fader Bank ディスプレイのマスター・バンクの下にある on overview および on master スイッチを使用して、外部ディスプレイおよびマスターディスプレイからフェーダー・バンクの追加/除外が行えます。

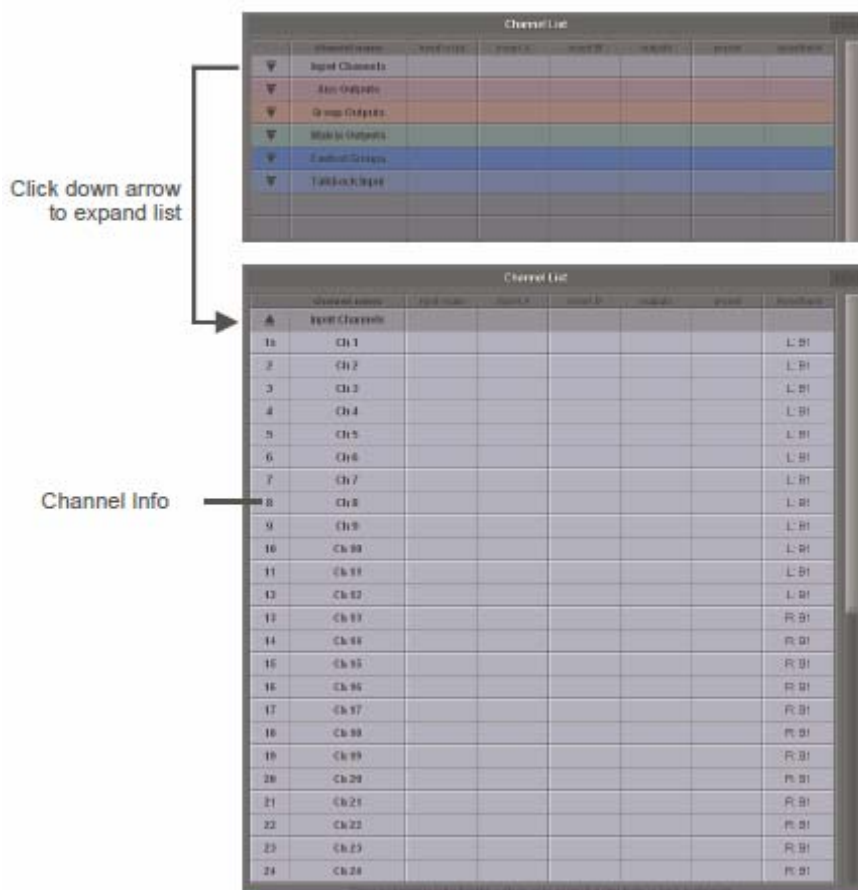


(P3-11)

3.3.2 Channel List

Layout メニューから Channel List を押すと、Channel List ディスプレイを表示します。Channel List ディスプレイは、セッション内の入力、AUX、グループ、マトリクス、コントロールグループを全てリスト表示します。各チャンネルタイプのチャンネル・リストを開く場合は、左側の列の該当する下向きの矢印にタッチしてください。

リスト内のチャンネルエントリーにタッチするとサーフェス上に該当のチャンネルが表示されます。



セッションのチャンネルのバンク割り当てを調整する場合は、主に Channel List ディスプレイ内の COPY BANK FROM 機能を使用します。

※新しいチャンネルをセッションに追加した場合、もしくはセッションを作成した場合、既存のチャンネル全てを Session Structure ディスプレイ内のバンク再構築機能を使用して、コンソールに割り当てられます。

3.3.3 Transport Control

Layout メニューから Transport Control を押すと、外部のプレイバックデバイスのトランスポートコントロールのディスプレイを表示します。プレイバックデバイスはコンソールのバックパネルで MIDI コネクターを経由してコントロールされます。入ってくる MTC もまた表示されます。



※外部のプレイバックデバイスのコントロールは、この項目の後で述べられているように Snapshots の画面内でプログラムすることが可能です。

(P3-12)

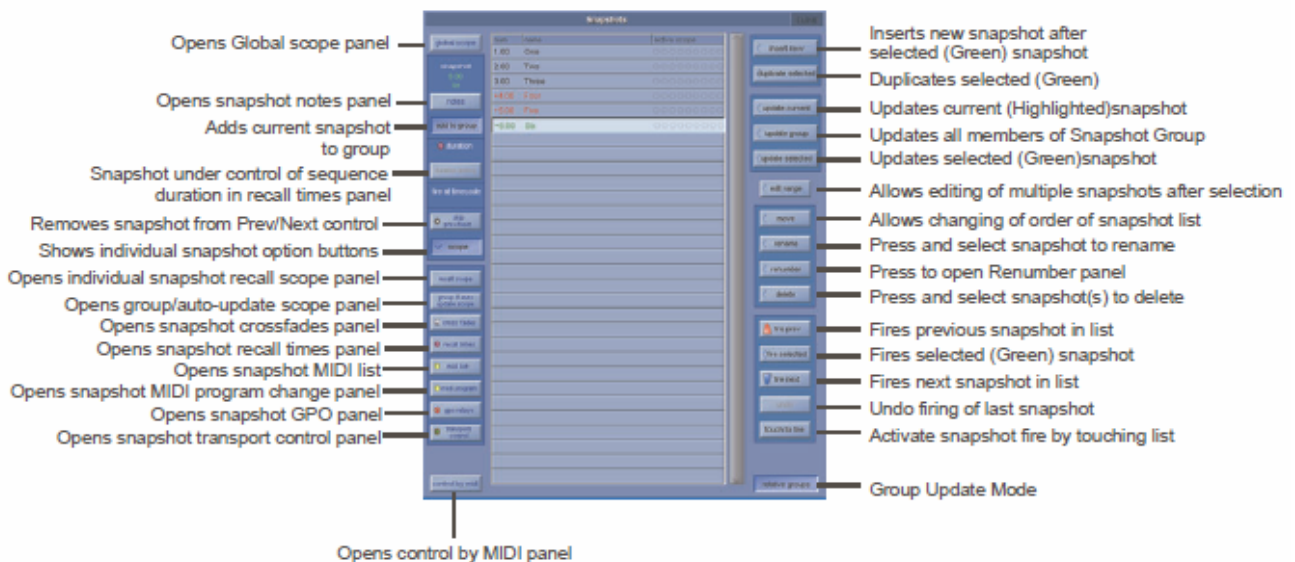
3.4 Snapshots メニュー

Snapshots メニューでは、現在のコンソール設定全体のスナップショットを、任意の数（システム・メモリーが許す限り）だけ保存/ 呼び出しが可能です。

スナップショットは単独にも、他のスナップショットとグループ化することもできます。

スナップショットのリコール範囲（読み込み時、どれだけの項目に影響を与えるか）は、コントローラー、または入力チャンネルで設定します。

Snapshots パネルはマスターディスプレイの上にある、Snapshots スイッチで呼び出します。コンソール・コンソール左側のセクションでコンソール上から設定を行います。



※上記スナップショットはパネルの部分青色でハイライトされています。緑色で表示されるスナップショット名は、コンソール上で選択されているスナップショットを表し、その名称がディスプレイに表示されます。Fire スイッチを押すと、選択したスナップショットを呼び出し、現在のスナップショットとしてスクリーン・リスト上で強調表示します。

現在のスナップショット・スイッチの番号の隣にアスタリスク（例、001*）が表示されている場合、スナップショットの実行後にパラメーターが変更されたことを示しています。

リスト上でスナップショットの名称が黒く表示される場合は標準のスナップショット、赤色または青色で表示される場合はスナップショット・グループのメンバーであることを表します。

3.4.1 スナップショットの保存

スナップショットの保存は全てのコンソール設定を保存します。しかし、スナップショットの呼び出しは、Global および Recall Scopes で呼び出しを一部のチャンネルとコントローラーに制限できます。

コンソールの現在の状態を全てスナップショットに保存する場合は、Snapshot パネル、もしくはコンソールの Insert New スイッチを押してください。新しいスナップショットが、現在選択されている（緑色の）スナップショットの下に挿入されます。Touch to Fire 機能が有効になっている場合はリストの未使用のスイッチにタッチして、新しいスナップショットをリストの最後に追加してから、スナップショットの名称を入力します。

スナップショットを作成する別の方法として、Duplicate Selected スイッチを押して、選択した（緑色の）スナップショットの下にコピーを作成することも可能です。

※ Duplicate Selected はスイッチを押した時点で選択したスナップショットのコピーを作るため、Duplicate Selected を使用した場合、保存したスナップショットが、コンソール上の制御の現在の状態を反映しない場合があります。

3.4.2 スナップショットの呼び出し

スナップショットの呼び出しには以下の複数の方法があります。

- ① Snapshot パネルから Touch To Fire 機能を起動し、必要なスナップショット・スイッチにタッチして呼び出します。
- ②コンソール右側の Previous および Next スイッチを使用して、リストを順番に上または下に移動し、スナップショットを呼び出します。



※スナップショットパネル内にある fire prey や fire next スイッチはこれらのスイッチを複写します。リスト内でスナップショット用にパネル内にある skip prev/next スイッチを選択すると、以前の物と次のスイッチが使われた際にスナップショットがスキップされる原因となります。

- ③ MIDI チャンネル 16 の特定のイベントによりスナップショットを実行します（「3.5.15 スナップショットと MIDI」を参照）。
- ⑤ Macro スイッチにスナップショットの実行を割り当てます。

(P3-13)

3.4.3 スナップショットの置き換え

スナップショットを更新または変更する場合、必要に応じてコンソール上の制御方法を設定してから、Update スイッチのいずれか（Current、Selected、または Group）にタッチします。

3.4.4 複数のスナップショットを一括で編集

個別のコントローラーの変更を、Edit Range スイッチを使用して、複数のスナップショットに一括で書き込みます。Edit Range はスイッチに関連づけられたスナップショット全体を置換するものではありません。

Edit Range を押すと、パネル内に個別のスナップショットが選択できます。Edit range を選択すると Select all スイッチが現れ、全てのスナップショットが選択できます。もしくは要求される帯域にある最初と最後のスナップショットに続いて現れる select range スイッチを押すと、スナップショットの隣接している帯域を選択できます。

Select Range スイッチを押した場合、必要な範囲の最初と最後のスナップショットをタッチすることで、間のスナップショットが全て選択されます。

Edit スイッチを押した状態で Snapshot スイッチを押しても、スナップショットを実行することはありません。



編集が必要な場合、confirm スイッチを押し操作を完了するか、cancel スイッチを押してキャンセルして下さい。
Edit コマンドの操作中は常時 Snapshot スイッチを押すことで選択を変更できます。

他の編集可能な機能呼び出す場合は、Snapshots ウィンドウを終了する必要があります。終了動作を行うと、スナップショット編集モードであることを示す警告メッセージが表示されます。

任意の Snapshot スイッチを選択している場合、スナップショット可能なコントローラーの変更、ルーティングの変更、および Snapshoot Scope 設定の変更を以前の設定に上書きして、選択したスナップショット全てに書き込むことが可能です。

Confirm スイッチを押すと変更を保存します。

例えばスナップショット 1、2 を選択し、チャンネル 1 の入力ゲインを変更した場合、その後にスナップショット 1、2 を呼び出すと、チャンネル 1 の入力ゲインが新しい値になります。

Edit コマンドが有効になっている間に変更したチャンネルだけが、その時点に選択していたスナップショットにのみ影響を受けます。

※ Snapshot Scopes および Crossfade Times も、Edit Range 機能を使用して、複数のスナップショットに編集可能です。

3.4.5 スナップショットの移動

スナップショットリストを特定の順番に表示したい場合、エントリーを移動してリストの順番を変更できます。Move スイッチをタッチし、移動するスナップショットにタッチしてください。次に移動を行うリスト上のポイントをタッチします。

3.4.6 スナップショットの名称変更

スナップショットの名称を変更する場合は Rename スイッチを押し、変更する名称にタッチしてからキーボードを使用して新しい名称を入力します。

3.4.7 スナップショットの番号を付け直す

スナップショットはリスト内のどのポイントにも挿入できるため、リストの一部または全体を変更したい場合があります。その場合は Snapshots パネルの下側にある Renumber スイッチを押してパネルを開きます。その後 Touch-Turn エンコーダー、もしくはエントリーにタッチして入力し、次に番号を付け直すステップ (1.00 がデフォルト値です)、番号を付け直す範囲を入力します。最後に OK スイッチを押すと、リストが設定に従って変更されます。

3.4.8 スナップショットを削除する

スナップショットを削除するには、Delete スイッチ、Select Range もしくは Select All の順にタッチします。Select Range を押した場合はリスト上で削除したいスナップショットにタッチしてから、Confirm を押します。Select All を押した場合はスナップショットのリスト全体が強調表示され、Confirm を押すとスナップショット全てを削除します。

※ Confirm を押して実行する前に、削除をキャンセルする場合は再度 Cancel スイッチを押してください。

(P3-14)

3.4.9 スナップショットの取り消し

スナップショットを実行すると、実行したスナップショットが有効になる前に、コンソール全体の独立した不可視のスナップショットが保存されます。Undo スイッチを押すと、不可視のスナップショットを以前に実行したスナップショットと同じスコープを使用して実行し、効果を取り消します。

3.4.10 Snapshot Notes

Snapshot Notes 内でいくつかの Snapshot 用に特定のスナップショットに関係のある重要な情報を保存することができます。メインの Snapshot 内で notes スイッチを押すことで notes パネルにアクセスできます。



3.4.11 スナップショット・グループ

標準のスナップショット(リストの黒いエントリー)は、コンソール上の制御全ての現在の状態に関する独立したスナップショットです。スナップショットは、グループのメンバー(リストの赤または青のエントリー)にすることが可能です。

スナップショットをグループのメンバーにすることで、グループ全てのメンバーを、選択した Group Update モードに従って一括で更新できます。

スナップショットをグループのメンバーにする場合は、リストからスナップショットを選択し、Snapshot パネルの左側にある add to group スイッチを押してください。

※スナップショットは、リストでお互いに隣接している場合のみ同じグループのメンバーにできます。1 つのリストを複数の異なるスナップショット・グループに設定することも可能です。

スナップショットがグループのメンバーになっている場合、リスト上のエントリーの色は、Snapshots パネルの右下にある Relative Groups スイッチの設定によって決まります。この設定は、Update Group を押した時にどのようにスナップショットのグループを更新するかを決定します。

リストの赤いエントリー = Relative Update モードを選択しています。

リストの青いエントリー = Non Relative Update モードを選択しています。

Relative Group Update モード(リストの赤いエントリー)

relative groups スイッチを有効にしている場合、Update Group を押すと、フェーダーや AUX センドなどデシベルコントロールは全て相対的に更新されます。

つまり、フェーダーをあるスナップショットで+10dB 上げた場合、そのフェーダーの元のレベルに関わらず同じグループのメンバーとなっているフェーダーが全て+10dB 動きます。+10dB はグループの全てのスナップショットの、そのフェーダーで保存したレベルに適用されます。

ダイナミクス時間、イコライザー周波数と Q、およびパンのようなデシベル以外のコントロールは、操作する前にそのコントロールに対して同じ値を持っていたグループのメンバーのみ変更されます。つまり、あるチャンネルのパン設定が、あるスナップショットのグループで全てのメンバーに対して同じポジションとなっている場合に、いずれかを変更して Relative モードで Update Group を押すと、同じチャンネルのパン設定がグループのメンバーであるその他全てのスナップショットで同じように変更されます。ただし、グループのいずれかのスナップショットがパン設定に対して現在のスナップショットと異なるポジションになっている場合、このスナップショットは、Update Group を押しても変更されません。

Non Relative Group Update モード(リストの青いエントリー)

relative groups スイッチを無効にしている場合、Update Group を押すと全ての制御が同じ形で動作します。変更される制御が変更前に現在のスナップショットと同じ値を持っていた場合、変更がグループの他のスナップショットに対してのみ適用されます。これは Relative モードの非デシベル制御と同じ動作ですが、この場合はデシベル制御を含む全てのコントロールが対象になります。

(P3-15)

Group & Auto Update Scope

上述の Group Update 機能の動作は、異なった種類のコントロールに対して、スナップショットごとに設定可能な Global Auto Scope および Group and Auto Update Scope の設定に関連しています。
Snapshot パネルの左上にある Global Scope スイッチを押すと、以下のディスプレイが表示されます。



横の列はコンソールの異なるセクション、縦の列は異なる種類の制御を表示し、それぞれに対する Recall および Auto Update ステータスを示しています。赤い X は非搭載、緑のチェックマークは搭載を示しています。これらの設定はマークにタッチして個別に変更することも、行や列の名称にタッチしてその中身を一括で変更することも可能です。
Recall Scope は Auto Scope 列が、どの制御を自動グループ更新に含めるかを決定します。赤い X の項目は、Update Group を押しても、スナップショットで更新されません。
上の写真の場合、Input Devices (ラックおよびローカル入力端子) は Update Scope に含まれていないため、ゲインやファンタム電源を Update Group 機能を利用して更新できないことを表します。それ以外の要素はチェックマークが付いているため、Update Group 機能に含めることが可能です。

※ Global Auto Scope に含まれている要素は個別のスナップショットの Group & Auto Update Scope により、グループ更新を予防できます。

リストからスナップショットを選択し Group & Auto Update Scope スイッチを押すと、以下のパネルが開きます。



このディスプレイは Global Scope パネルと似ていますが、個別のスナップショットに対する Group and Auto Update Scope を表示し、選択中のスナップショット名はパネルの一番上に記載しています。
上の写真の場合、緑のチェックが付いているのはイコライザー、フェーダー、ミュートの各列のみです。そのためそれ以外の要素は、このスナップショットについて Group Update の影響を受けないことを表します。

※スナップショット・グループを使用する場合、更新設定の変更を個別のスナップショットごとに行う前に Global Auto Update Scope

SD11 Operation Manual

を設定するこ

とをお勧めします。Global Scope の設定だけで、最も一般的な用途については大半が設定可能です。

(P3-16)

3.4.12 Global Recall Scope

スナップショットを保存すると全てのコンソール設定が保存されますが、スナップショットを呼び出す場合、呼び出す項目を特定のチャンネルおよび制御に限定できます。

※チャンネルの全ての要素、およびグラフィックイコライザーやエフェクターなどの機能は、個別にセーフ設定を持っています。セーフ設定が有効になっ

ている項目は、スナップショットの影響を受けません。以降の説明は Global Scope 設定について追加的な内容です。

Global Scope スイッチを押すとパネルを拡大して、全てのスナップショットに対するスコープを表示、編集できます。



横の列はコンソールの異なるセクション、縦の列は異なる種類の制御を表示し、それぞれに対する Recall および Auto Update ステータスを示しています。赤い X は非搭載、緑のチェックマークは搭載を示しています。これらの設定は、マークにタッチして個別に変更することも、行や列の名称にタッチしてその中身を一括で変更することも可能です。

Recall Scope 列は、どの制御をスナップショットの呼び出しに含めるかを決定します。赤い X の項目はスナップショットによって呼び出されません。

上の写真では、Input Devices（ラックおよびローカル入力端子）は Recall Scope に含まれないため、ゲインやファンタム電源がスナップショットを実行しても変更されないことを表します。それ以外の要素はチェックマークが付いているため、スナップショットを実行すると変更される可能性があります（個別のセーフ設定による）。

※ Global Recall Scope に含まれる要素は、各スナップショットの Recall Scope を使用して呼び出せないように設定できます。

3.4.13 個別の Snapshot Recall Scope

リストでスナップショットを選択し Recall Scope スイッチを押すと、以下のパネルが開きます。



このディスプレイは Global Scope パネルと似ていますが、個別のスナップショットの Recall Scope を表示し、パネル上段にスナップショットの名称および数字が表示されます。

(P3-17)

Recall Scope の各列に含まれる制御はエントリーに変更を加えた場合、パネルの下に以下の項目で表示されます。

コントローラー

Input/Trim (ローカルI/O およびラック) アナログゲイン、スイッチおよびファンタム電源
 Input/Trim (入力チャンネル) 入カルーティング、デジタルトリム、位相およびチャンネル名
 Input/Trim (AUX 出力/ グループ出力/ マトリクス出力) デジタルトリム、位相、ディレイ、およびバス名
 Input/Trim (マトリクス入力) 入カルーティングおよびマトリクス入力名
 Delay (全てのチャンネルタイプ) チャンネル・ディレイ
 Filters (全てのチャンネルタイプ) HPF および LPF
 EQ (全てのチャンネルタイプ) チャンネル HPF および LPF を除く全てのコントローラー
 Dynamics (全てのチャンネルタイプ) ステレオ・リンクを除く全てのコントローラー
 Inserts (全てのチャンネルタイプ) インサートセンド&リターン・ルートおよび ON/OFF スイッチ
 Sends (入力チャンネル) AUX センドレベル、ON/OFF & PRE/POST スイッチおよび AUX パン
 Sends (マトリクス入力) マトリクス・センドレベルおよびスイッチ
 Fader (全てのチャンネルタイプ) チャンネルフェーダー
 Mute (全てのチャンネルタイプ) チャンネル・ミュート
 Panner (入力チャンネル) チャンネル・パン
 To Groups (入力チャンネル) Input Channel to Buss ルーティング・スイッチ
 To Groups (Group Channels) Group to Group ルーティング・スイッチ
 Outputs (入力チャンネル) ダイレクト出カルーティング、ダイレクト・ゲインおよび ON/OFF スイッチ
 Outputs (AUX 出力/ グループ出力/ マトリクス出力) 出カルーティングおよびゲイン
 Outputs (ローカルI/O およびラック) 出力端子名、アナログ出力 10dB パッド

その他

CG Members コントロールグループ名称および各グループのメンバーリスト

Gangs チャンネル・ギャング・メンバー

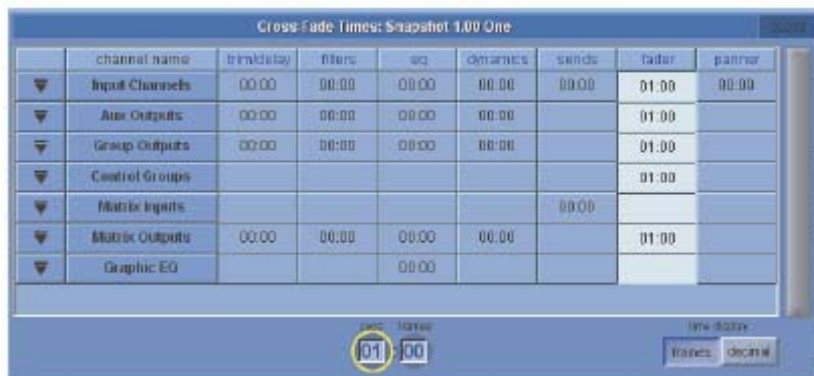
Banks コンソール上の全てのコントローラーに対する現在の割り当て

3.4.14 Snapshot Crossfades

秒およびフレーム単位のクロスフェード時間を、Cross Fades パネルの Crossfade Time を調整してスナップショットのさまざまな制御に適用できます。クロスフェードは、スナップショットの進行に従って実行されます。

個別のクロスフェード時間をタッチして選択するか、見出しにタッチして列または行を選択します。次にパネルの下側にある Secs/Frames ボックスに時間を入力します。数値はボックスにタッチして入力するか、Touch Turn エンコーダーを使用してください。

入カトリム、フィルター、イコライザー、ダイナミクス、センド、フェーダー、パンに異なるクロスフェード時間を適用できるほか、与えられたカテゴリ内の全てのチャンネルに適用できます。パラメーター値を 0 に設定すると OFF になります。



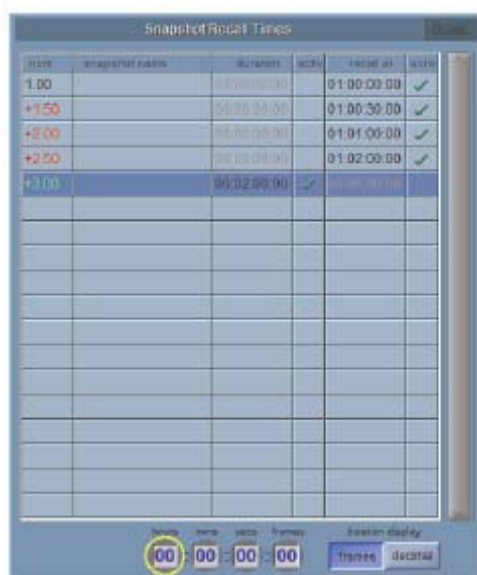
(P3-18)

3.4.15 Snapshot Recall Times

手動での実行に加えて、スナップショットは自動的に順番に実行するために調節ができます。これは Snapshots パネルの左側にある scope>recall times スイッチを押すと開く Snapshot Recall Times のパネル上で行います。

各スナップショットはリコールと（スナップショットが実行するタイムコード）、接続時間（下記のスナップショットへ行く前の時間の経過）を与えることができます。接続時間とリコール時間は Active の列が動いているかを確かめてからアクティブにしなければなりません。

最初のスナップショットはメインの Snapshot 画面の中で手動で実行できます。スナップショットが実行されると、設定時間が経過した後リスト内で次のスナップショットは自動的に実行され、Snapshots パネル内のプログレスバーはスナップショットが実行されるまで残り時間を表示します。プログレスバーが動いている間 Duration active のスイッチを押してください。リコール時間はアクティブな接続時間を優先します。



3.4.16 スナップショットとMIDI

MIDI 設定には、2 種類のエリアがあります。

①スナップショットには、MIDI メッセージを添付でき、スナップショット実行時に MIDI メッセージを出力します。MIDI メッセージは、Scope>MIDI Program パネルまたは Scope>MIDI List パネルで作成します。

②スナップショットの実行は、チャンネル 16 に対する入力 MIDI メッセージで制御でき、上記①に含まれる MIDI スナップショットに加え、同じメッセージを出力できます。

Control By MIDI>MIDI Receive Fires Snapshot スイッチで、スナップショットが以下の入力 MIDI メッセージに応答します。

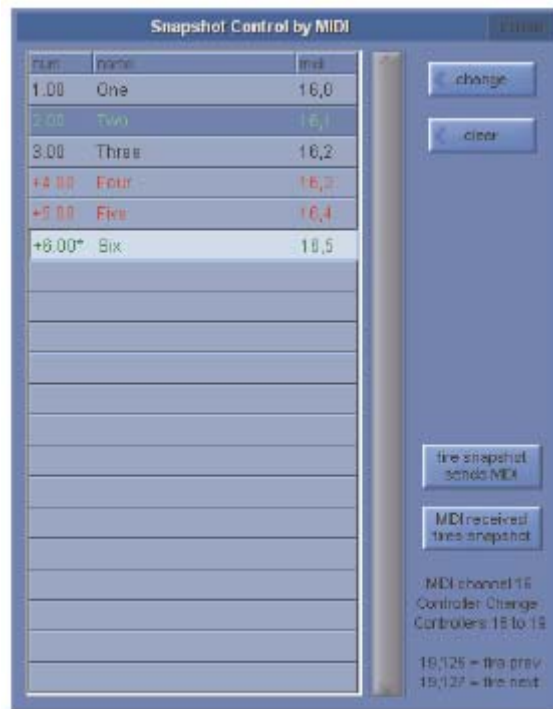
汎用コントローラー A（コントローラー 16）：値 1 ～ 127 はスナップショット 1 ～ 127 を実行
汎用コントローラー B（コントローラー 17）：値 0 ～ 127 はスナップショット 128 ～ 255 を実行
汎用コントローラー C（コントローラー 18）：値 0 ～ 127 はスナップショット 256 ～ 383 を実行
汎用コントローラー D（コントローラー 19）：値 0 ～ 125 はスナップショット 384 ～ 509 を実行
汎用コントローラー D（コントローラー 19）：値 126 は、リストの前のスナップショットを実行
汎用コントローラー D（コントローラー 19）：値 127 は、リストの次のスナップショットを実行

MIDI が有効になっている場合、Fire Snapshot Sends MIDI スイッチで snapshot スイッチを押すたびに上記のメッセージ 1 ～ 509）（または以下のカスタマイズ）を送信します。Previous および Next スイッチは MIDI メッセージを出力しません。

応答される特定の MIDI メッセージは Snapshot control by MIDI パネルで編集できます。

(P3-19)

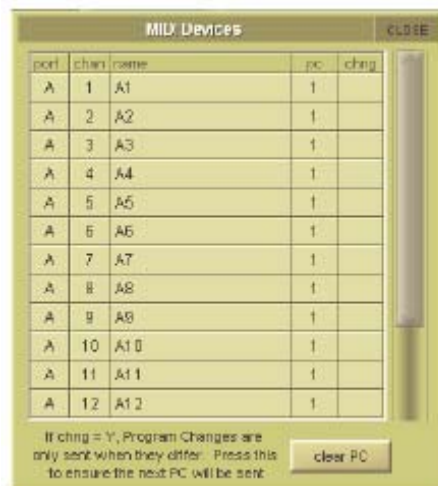
特定のスナップショットのデフォルトメッセージを変更する場合はスナップショットを選択し、Change スイッチを押して有効なコントローラー番号を選択してください。Clear スイッチは表示されているメッセージを全て移動します。



3.4.17 MIDI デバイス

MIDI を外部デバイスに送信する場合、まず受信デバイスを定義してください。スナップショットでの MIDI メッセージのプログラミングがシンプルに行えるようになります。

Scope>MIDI Program または Scope>MIDI List スイッチを押してから、Devices スイッチを押すと、以下のパネルを開きます。



SD11 の内蔵 MIDI ポートは、Port 列で Port A と呼ばれます。

各受信デバイスの受信 MIDI チャンネルと、名称を設定し、次にデバイスが 0 ~ 127 (0) または 1 ~ 128 (1) のどちらをデータに使用するので PC 列に 1 または 0 を設定します。情報が分からない場合は、設定を 1 のままにしてください。

Chng と表示された欄はプログラムチェンジを最後に送られたメッセージと異なる場合のみ実行する(Y) か、最後に送られたメッセージに関わらずメッセージが送られた場合に実行するかを設定します。

これは受信側の機器でプログラムを変更する必要の無い時や、受信側の機器のプログラムチェンジを信号の通過に関わらず行う場合に便利です。

パネルの下にある Clear PC スイッチを押すと次に送られるメッセージを確実に受信できます。

以上で、後に使用するためのデバイスを定義したことになります。パネルを終了してください。

(P3-20)

3.4.18 MIDI Program および MIDI List

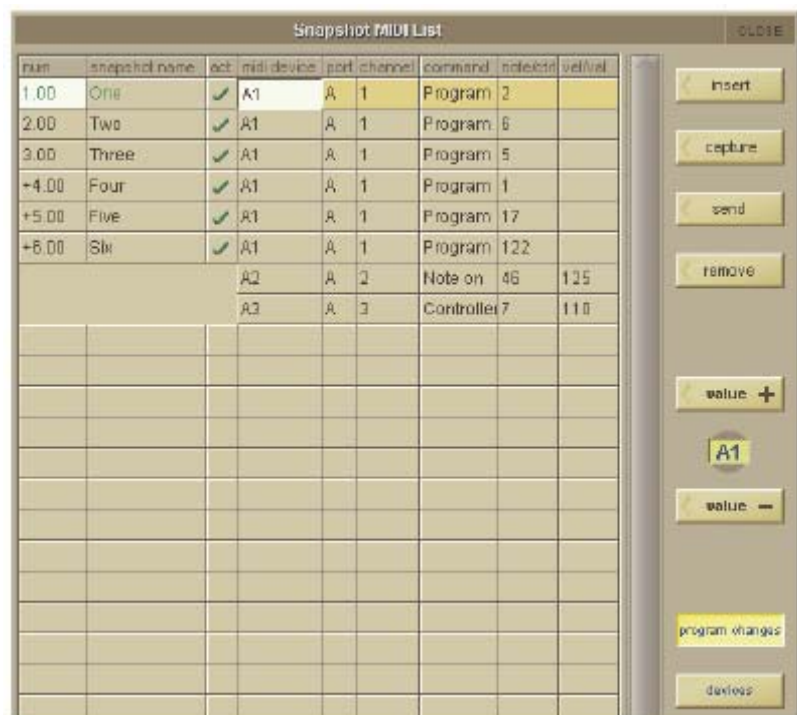
MIDI Program Changes パネルには、Port A 上の MIDI チャンネル 16 系統それぞれに対する列と、既存のスナップショットの行で構成しています。各スナップショットに送信するプログラムチェンジについて、タッチ、値の上下スイッチ、Touch Turn エンコーダーを使用して値の入力を行い、該当するスナップショットそれぞれについて、Active ボックスにチェックマークがついていることを確認してください。入力すると、この MIDI 情報は、スナップショットの実行時に送信されます。



MIDI プログラムチェンジメッセージを上記の形で入力した場合、Scope>MIDI List パネルに表示され、その他のタイプの MIDI メッセージを入力、編集できます。

Device Name (最後の項目で説明)、MIDI ポート、MIDI チャンネル、コマンドの種類、および 2 個のデータ値に関する列があります。

※ MIDI デバイスを定義済の場合、MIDI Device 列でいずれかを選択すると選択したデバイスに以前入力したポートおよび MIDI チャンネルが自動的に入力されます。



単一のスナップショットで複数の MIDI メッセージを送信したい場合、Insert スイッチを使用してメッセージ・エントリーに行を追加します。

スナップショットを実行せずに MIDI メッセージをテストする場合は、Send スイッチを押してください。パネルの右下にあるディスプレイに入出力 MIDI メッセージがあることが表示されます。

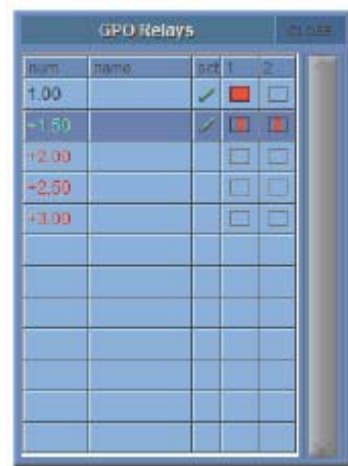
また、MIDI メッセージは外部 MIDI 機器で必要なメッセージを生成し、メッセージをコンソールの MIDI IN に送ります。Capture スイ

タッチを押すことで、自動的にリストに入力も行えます。

(P3-21)

3.4.19 スナップショットと GPO

Snapshot 画面内の scope>gpo relays を開き GPO Relays パネルを使用し、GPO はスナップショットの一部として含むことができます。



GPO は縦列で表示され、各ボックスをクリックして下記の様に変更することができます。

ブラック (ブルー)： GPO off

レッド ボックス： GPO on

レッド ライン： GPO プラス (off-on-off)

縦列の中で動作によってインジケートされるように質問内でスナップショット用に GPO がアクティブになっているか確認してください。

3.4.20 スナップショットと MTC

外部プレイバック機器の制御を行うため、スナップショットで MMC メッセージのプログラムを作成できます。

スナップショットスコープセクション内で Transport Control スイッチを押して Transport Control パネルを開きます。

パネルでは全ての現在のセッションスナプリストと以下の MMC コマンドのスナップショットごとに MMC コマンドの入力が行えます。

Play: 基本的な再生コマンドです。外部機器が現時点から再生を開始します。

Play From: 外部機器が特定の時間から再生を開始します。

Play To: 外部機器が特定の時間になると再生を停止します。

Locate To: 外部機器が特定の時間に位置を知らせます。

Stop: 基本的な停止コマンドです。外部機器が停止します。

コマンドはパネル下側で選択した MIDI 経由で送られます。

※適切な MMC メッセージ送出は、コンソールの MIDI 入力に接続された外部機器からの MTC 情報を含む、正しく構成された MIDI システムに依存します。

MTC 接続が確立していないと MMC スナップショット操作は機能しません。

Transport Control パネルではレイアウトメニューも設定可能です。これは入力された MTC の読み込みを行い、外部機器への直接操作を行います。

特定の MTC 値で設定したスナップショットを開くプログラムも作成可能です。

Snapshots Recall Time パネルを開き、各スナップショットの Recall at 欄に MTC 値を入力してください。この機能は Recall at 欄右側の Active 欄にチェックを入れることでスナップショットごとに ON/OFF できます。



(P3-22)

3.5 Options メニュー

Options メニューでは、SD11 のシステム各種システムメニューを8つのタブでグループ分けしています。各スイッチは Yes を選択すると紫色に点灯し、No を選択すると灰色になります。

※Waves が有効な場合は、オプションメニューはセットアップのドロップダウンメニュー内のオプションメニューにあります。

3.5.1 Surface

Surface タブはディスプレイ、スイッチ、エンコーダーに関する設定を行います。



Touch Keyboard

設定を有効にするとテキストボックスにタッチした時点で、ディスプレイのキーボードを表示します。デフォルトは有効です。

Large LCD Names

設定を有効にすると LCD スイッチ上の名称を大きなフォントで表示します。デフォルトは無効です。

Round to Whole dBs

設定を有効にするとデシベル表記を小数点以下まで表示します。デフォルトは無効です。

Auto Expand EQ

設定を有効にするとイコライザー調整時にイコライザーディスプレイを表示します。デフォルトは有効です。

Auto Expand Dynamics

設定を有効にするとダイナミクスを調整時に dynamics ディスプレイを表示します。デフォルトは有効です。

Auto Expand Time

イコライザーディスプレイおよび dynamics ディスプレイのパラメーター調整後、ディスプレイ表示を保持する時間を設定します。現在の設定は、ポットの下に秒単位で表示されます。ポットをタッチし、Touch-Turn エンコーダーで設定します。

Bank Switch Assigns Screen

設定を有効にすると bank スイッチを押している、いないに関わらずバンクをスクリーンに割り当てます。デフォルトは無効です。

Auto Cancel 2nd Function

設定を有効にするとユーザーが規定した一定時間が経過後、2nd Function スイッチが自動的に OFF になります。デフォルトは無効です。

※auto-expand time と auto-cancel time の数値はコンソールで設定され、セッションファイルの一部として保存されません。

(P3-23)

3.5.2 Faders



Fader Assigns Channel

設定を有効にすると、タッチすることによってチャンネルをチャンネル・コンソール上のつまみに割り当てます。デフォルトは無効です。

※このオプションを有効にしている場合、誤って別のフェーダーに触れると、コンソール上の制御を再度割り当ててしまうため注意してください。

Fader OdB Detent

フェーダーが OdB 時に検知用のクッション動作を行うかを設定します。動作無し、グラフィックイコライザー設定時のみ適用、全フェーダーで適用の 3 つから選択します。

Fader Touch Control

フェーダー動作の設定を行います。Free を選択すると常時自由にフェーダー操作を行えますが、Protect を選択するとフェーダーに指が触れているときのみフェーダー操作を行えるようになります。不用意な設定変更を防ぐため、Protect モードをお勧めします。また、この設定はコンソールのセットアップファイルに保存されるため、このページで変更を加えない間は別のセッションを読み込んででも設定が適用されます。

3.5.3 Solo

Solo タブは、コンソールのソロ機能に関する設定を行います。



Solo Displays Insert

設定を有効にするとチャンネルの solo スイッチを押した時点で、インサートしている FX またはグラフィックイコライザーのディスプレイを表示します。グラフィックイコライザーのディスプレイはマスタースクリーンに表示されます。デフォルトは有効です。

Solo Assigns Aux to Faders

設定を有効にすると AUX チャンネルの solo スイッチを押した時に、AUX チャンネルへのセンドレベルをチャンネルフェーダーに割り当てます。デフォルトは無効です。

Solo Assigns Aux to Rotaries

設定を有効にすると AUX チャンネルの solo スイッチを押した時に、AUX エンコーダー一番上の列に AUX チャンネルへのセンドレベルを割り当てます。デフォルトは無効です。

Solo Assigns Channel

設定を有効にすると、あるチャンネルの solo スイッチを押した時に、チャンネルを自動的にチャンネル・コンソール・コントロールに対して割り当てます。デフォルトは無効です。

Solo Assigns Channel Also Assigns Screen

設定を有効にすると、チャンネルのソロ実行時に実行したチャンネルのバンクがスクリーンに表示されます。

Solo Reverts to Output

設定を有効にしている場合、入力チャンネルのソロを無効にするとソロバスを以前にソロモードとしていた出力に戻します。無効にしている場合、入力チャンネルのソロを無効にすると、全てのソロが無効のままになります。

この設定はソロバスがマルチモードではなく、シングルモードの場合に利用可能です。デフォルトは無効です。

(P3-23)

3.5.4 Disable

このタブは Snapshot Prey & Next 動作スイッチの機能を無効にするために使用されます。この機能はオンスクリーン動作に影響しません。



3.5.5 Brightness

Brightness タブはコンソールのメーターLED、LCD ディスプレイおよびサーフェスLED の輝度を設定します。各ポットにタッチすることで Touch-Turn エンコーダーに割り当てます。



3.5.6 Meters

Meters タブは、メーターに関する設定を行います。



ディスプレイの上半分に並ぶ 4 個のポットはアタック/ リリース反応時間（アタック・レートおよびリリース・レート）、ピークホールド時間、オーバース・ホールド時間を設定します。それぞれのパラメーター値は各ポットの下に、ミリ秒または秒単位で表示されます。各ポットにタッチすることで Touch-Turn エンコーダーに割り当てます。

※オーバース・ホールド時間を 0 に設定するとホールド時間が 0 ではなく、無限大に設定される点に注意してください。手動で解除するまでオーバース LED が点灯し続けます。

各チャンネルで測定を行うポイントは、ディスプレイ下半分の 8 個のスイッチで設定します。入力チャンネルは左側のスイッチで、出力チャンネルは右側のスイッチで調整します。それぞれに対するオプションはトリム前段、トリム後段（プロセッシング前段）、プリフェーダー（プロセッシング後段）、ポストフェーダーです。デフォルトは入力チャンネルがトリム後段、出力チャンネルがポストフェーダーです。また、オーバービュースクリーン上でのメーター表示を大か小で切り替えるスイッチもあります。

※ディスプレイ下半分の設定は、ディスプレイのメーターではなく、メーター・ブリッジのメーター設定です。

(P3-25)

3.5.7 Session

Session タブは、コンソールの起動動作に関する設定を行います。



Load Startup Session

設定を有効にすると、システム起動時にスタートアップ・セッションを自動的に読み込みます。無効の場合、コンソールは自動的にデフォルト状態で起動します。

この設定はコンソール本体に保存されます。セッションごとには保存できません。

Save Startup Session

設定を有効にすると、終了時にスタートアップ・セッションを自動的に保存します。無効の場合、コンソールは自動的に終了時と同じ状態で起動します。この設定はコンソール本体に保存されます。セッションごとには保存できません。

Default Position

このオプションは次の出荷でデフォルト位置へ設定されるよう全ウィンドウを可能にします。

Enable Waves MultiRack

Waves features Waves はコンソールの fx ユニットに加え Waves plug-ins の設定を提供知る追加のオプションです。さらなる詳細については関連する別表を参照するか、waves の購入にご興味があれば DiGiCo へ連絡して下さい。

Enable Console Network

リモート PC およびコンソールでのネットワークを有効にします。詳しくは「4.1 ネットワークとミラーリング」を参照してください。この設定はコンソール本体に保存されます。セッションごとには保存できません。

Mirroring Mode

この設定はネットワーク経由で他のコンソールやオフライン PC とミラーリングを行っている際、コンソールをどのように動作させるかを設定します。この設定はコンソール本体に保存されます。セッションごとには保存できません。モードは以下の 4 つから選択します。詳しくは Network and Mirroring のチャプターで説明されています。

※Enable Waves MultiRack と Enable Console Network は変更するために再起動が必要です。

3.5.8 Status

Status タブは、コンソールのステータス通知に関する 2 種類の設定を行います。タブ内の設定は全てデフォルトで有効です。



(P3-26)

Display System Status Indicators

Status ディスプレイを開くかを設定します。Status ディスプレイではシステムのさまざまな状況を常時監視できます。各項目の右にある表示ボックスでは、各ステータスが正常に動作している場合には緑の OK、異常がある場合は赤のエラー、該当しない項目の場合はブランクの灰色のボックスで表示されています。

ボックス上でクリックすると、対応した Diagnostics ページ(該当のページがある場合)が呼び出されます。この設定はコンソール本体に保存されます。セッションごとには保存できません。



Display System Alerts

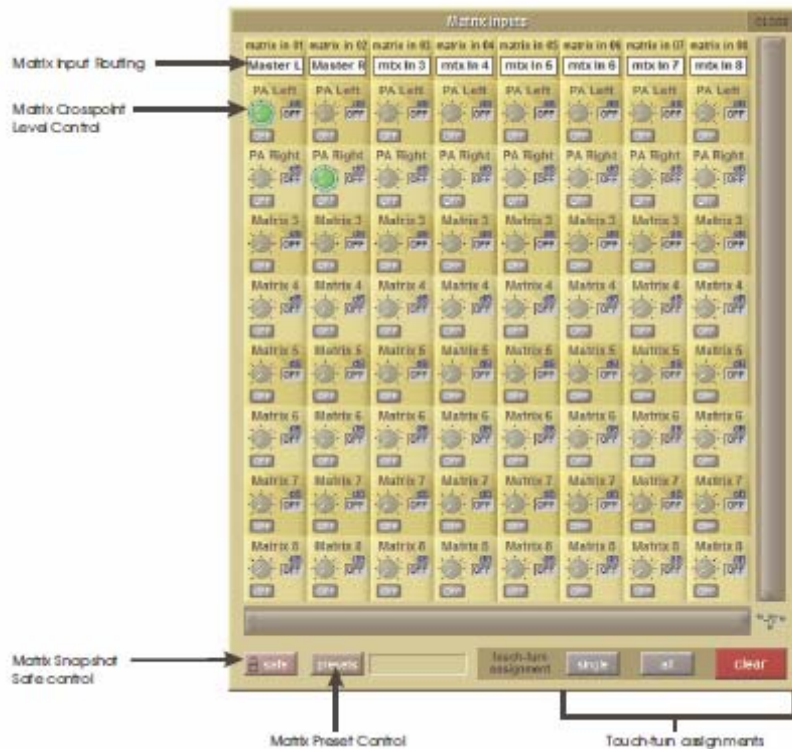
システム警告を表示するかを設定します。ウィンドウの下部の message display time ポットで、警告が表示される時間を設定可能です。現在の設定はポットの下に秒単位で表示されます。ポットにタッチすることで Touch-Turn エンコーダーに割り当てられます。この設定はコンソール本体に保存されます。セッションごとには保存できません。

(P3-27)

3.6 Matrix メニュー

3.6.1 Matrix パネル

Matrix メニューを押すと Matrix Inputs パネルを開きます。Matrix Inputs パネルはマトリクス入力を選択し、各マトリクス出力に送る入力レベルを設定できます。ディスプレイの各列は、マトリクスに送る入力ポットを示しており、各行は出力を示しています。



ディスプレイ内の各ポットは列の入力信号から行のマトリクス出力に送る信号レベルを設定します。各入力列の上部には入力名が表示され、各トリム・ポットの上部のラベルにはマトリクス出力名が表示されます。トリム・ポットにタッチして Touch-Turn エンコーダーに割り当てられます。割り当てられるとポットが点灯して、エンコーダーが緑色のリングで囲まれます。各トリム・ポットの値は、dB 単位で右側に表示されます。各トリム・ポットは、真下のボックスにタッチして起動します。ボックスが OFF の時は灰色に、ON の時は赤色に点灯します。ポットを回しても自動的に ON になります。

ディスプレイの下側には、3 つの Touch-Turn assignment スイッチがあります。all スイッチを押すと Touch-Turn エンコーダーに、全てのトリム・ポットを割り当てます。個別のポットにタッチして、選択を解除できます。clear スイッチは、Touch-Turn エンコーダーから全てのポットの割り当てを解除します。single スイッチを押すと、単一の割り当てしか行えなくなり、

※ single 機能が有効になっている場合でも、全ての機能をトリガー可能です。

各マトリクス入力信号は、各入力列の上にあるテキストボックスにタッチすることで呼び出される各マトリクスの Setup ディスプレイから選択します。

ディスプレイの一番上には、マトリクス入力の名称を変更するために使用できるテキストボックスがあります。テキストボックスの下には、ルーティング・ディスプレイを開く matrix input routing スイッチがあります。ルーティング・ディスプレイについては、「1.8 ルーティングの基本」を参照してください。

Matrix パネル左下の safe スイッチを起動すると、マトリクス設定がスナップショットの呼び出し時に保護されます。

マトリクス入力 Setup ディスプレイ下部の safe スイッチ、または Matrix パネル左下の presets スイッチを押すと、Matrix Input Presets ディスプレイを開きます。

Preset 内に入力ルーティングを含めるために、スクリーン下部にある input スイッチが有効か確認してください。トリムポットレベルと on/off スイッチを含めるためには、スクリーン下部にある sends スイッチが有効か確認してください。

Matrix Input Presets ディスプレイの chs 列は、プリセットに含まれるチャンネル数を表しています。プリセットは入力信号 1 の後に名前を付けられます。



(P3-28)

3.7 グラフィックイコライザーメニュー

3.7.1 Graphic EQ パネル

Graphic EQs を押すと、グラフィックイコライザーの設定ディスプレイを開きます。このディスプレイで 12 系統、32 バンドのグラフィックイコライザー全てを設定できます。グラフィックイコライザーは、4 種類のチャンネルタイプ全てのインサートおよび出力に割り当て可能で、また入力チャンネルの入力に送ることも可能です。グラフィックイコライザー割り当ては、各チャンネルのルーティング・ページで行うため、グラフィックイコライザーディスプレイからは設定できません。



各グラフィックイコライザーは拡大表示で設定しますが、縮小表示からも一部の設定が行えます。設定を行うグラフィックイコライザーにタッチすることで拡大表示に割り当てます。拡大表示になったグラフィックイコライザーはサーフェス上の 24 本のフェーダーに割り当てられます。

割り当てられたイコライザーは、ディスプレイの右側にあるスクロールバーでスクロール可能です。拡大表示に割り当てられたイコライザーは、左上にソース表示と番号が表示されます。縮小表示では、拡大表示内の EQ close スイッチ左側の expand スイッチ（開いた場合は下向きの矢印、閉じた場合は上向きの矢印）を押して開閉できます。

拡大表示の左側には、イコライザーの IN および OUT 信号のメーター、右側に値を表示した 18dB ゲイントリム・ポット、および ON/OFF スイッチ (ON 時が赤色のリングで点灯) があります。トリム・ポットにタッチすることで Touch-Turn エンコーダーに割り当て可能です。32 バンドのフェーダー下部には、ヘルツ単位の各バンドの周波数が表示され、ディスプレイの各行に関連づけられたゲインが、一番低い帯域の左に表示されます。各帯域は、縮小したディスプレイから変更も可能です。

3.7.2 グラフィックイコライザーのギャング

各バンドのフェーダー上部にある灰色の GANG および build gang スイッチを押すと、異なるグラフィックイコライザーをギャングします。イコライザーをギャングすると、バンドフェーダー、on スイッチ、それにトリム・ポットがロックされます。

※フェーダーのギャングは相対的に動作します。イコライザーはギャングした時点で異なった形を持つことができ、帯域を調整すると同じ量だけ移動します。

※フェーダーが縮小表示内で移動した場合、ギャングされたイコライザーも同時に移動します。

ギャングを作成するには、ギャングに含めるグラフィックイコライザーにタッチして拡大表示に割り当て、build gang にタッチします。build gang が有効になるとスイッチが赤色に変わり、GANG スイッチも色が変わります。別のイコライザーをギャングに追加する場合は、追加する他のグラフィックイコライザーの GANG スイッチにタッチしてください。拡大したイコライザーの GANG スイッチの色と同じ色に変わります。ギャングから選択を解除する場合は、再度 GANG スイッチにタッチして下さい。灰色に戻り解除が実行されます。最後に build gang スイッチにタッチして、設定を終了します。イコライザーのギャン

グ割り当ては、build gang スイッチを再度選択して調整できます。

※一時的にギャングからグラフィックイコライザー帯域を独立させる場合は、帯域のフェーダー上部の mute スイッチを長押しした後、そのフェーダーの調整を行ってください。この動作は、現在調整中のグラフィックイコライザーの特定の帯域に限り実行できます。

(P3-29)

3.7.3 Graphic EQ ALL スイッチ

32 系統のグラフィックイコライザー全てを同時に調整する場合は、build gang スイッチの右にある all スイッチを押してください。スイッチが赤色に点灯します。

拡大したイコライザーの帯域を調整すると、全 32 系統のイコライザーの帯域が、その位置に移動します。

※全ての調整は絶対的に動作します。ある帯域に変更を加えると、全てのイコライザーで調整した帯域の設定が同じになります。

※ all 機能は、縮小表示のフェーダーに対する通常の操作には影響を与えません。

1 つのイコライザー内の全 32 バンドを OdB に戻すには、all スイッチの右にある flat スイッチにタッチし、確認ポップアップが表示されたら Yes を押してください。

※ flat は、拡大したイコライザーにギャングされている他のイコライザーに影響を与えます。

flat スイッチの右にある safe スイッチを有効にすると、グラフィックイコライザー設定をスナップショットの呼び出しから保護できます。

3.7.4 グラフィックイコライザープリセット

safe スイッチの右にある preset スイッチを押すと、Graphic EQ Presets ディスプレイを開きます。Graphic EQ Presets ディスプレイでは、現在のイコライザー設定の保存や作成済の設定の読み込みが行えます。



トリム・ボット、on スイッチ、32 本のフェーダー設定は、イコライザープリセットに含まれます。

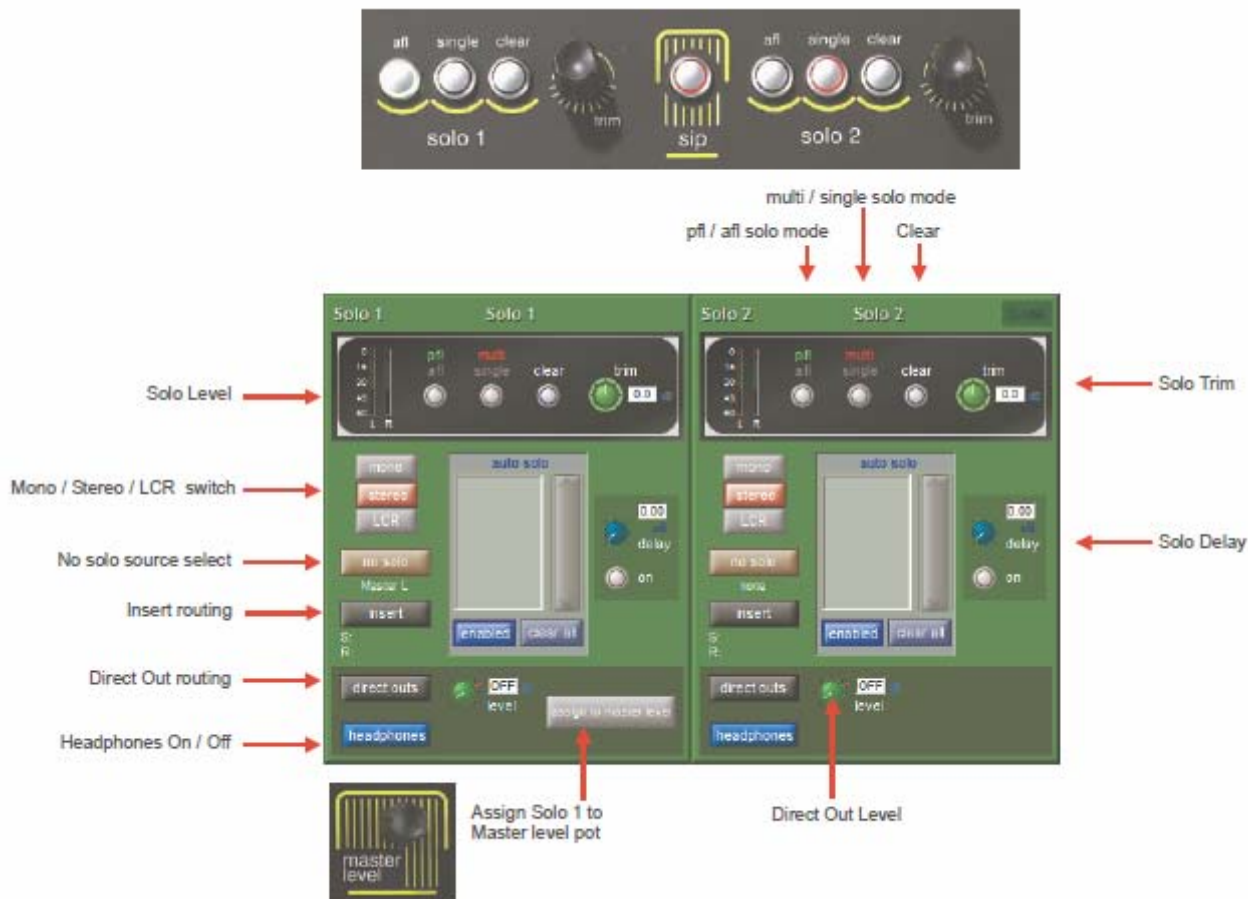
チャンネルをデフォルト設定にリセットする場合は、default を押してください。

(P3-30)

3.8 Solos メニュー

3.8.1 Solo パネル

Solos メニューを選択すると、Solo 1 および Solo 2 ディスプレイを開きます。これらディスプレイでソロパスの設定を行います。ソロパス 1 は、左側、ソロパス 2 は右側のディスプレイです。



※チャンネル内のソロ機能は、「2.2.5 チャンネル・ソロ」を参照してください。

各ディスプレイの一番上には、ソロメーター、3 個のラジオボタン、入カトリム・ポットを搭載した黒バックのセクションがあります。コンソール上、右セクションも同じコントロールを搭載しています。

最初のスイッチは、チャンネルからバスへ送るポイントを PFL/AFL で選択します。ディスプレイ上では選択した pfl または afl ラベルが緑色に変わり、コンソール上のスイッチは afl を選択した場合に緑色のリングで囲まれます。

2 番目のスイッチは、2 種類のソロ・スイッチ・モードを multi/ single で切り替えます。multi は、同時に複数のチャンネルをソロバスに送ることが可能です。

single は、1 チャンネルのみソロバスに送ることができます。single モードではソロバス送りを実行中、別のチャンネルの solo スイッチを押すと最初に選択していたチャンネルが解除されます。ディスプレイ上では選択した multi または single が赤色に変わり、コンソール上のスイッチは single を選択した場合に赤色のリングで囲まれます。

ソロバスに送っている信号は clear スイッチを押してクリアできます。ソロバスへの送りがいすれかで実行されている場合は Clear スイッチが青色のリングで囲まれます。

ソロバスのレベルは、ディスプレイのトリム・ポットまたはコンソール上のトリム・エンコーダーで調整します。ディスプレイのトリム・ポットは、常時トリム・エンコーダーに割り当てられており、エンコーダーの周囲が緑色のリングで囲まれます。信号は $\pm 18\text{dB}$ の範囲で調整でき、トリム値は、ディスプレイのトリム・ポットの右側に表示されます。

(P3-31)

Solo 1 または Solo 2 ディスプレイの中央には auto solo エリアがあり、自動ソロ機能に選択されている全てのチャンネルがリスト表示されます。自動ソロ機能は、別のチャンネルがソロバスに割り当てられると、自動的に選択されたチャンネルをこのソロバスにルーティングします。選択するチャンネルはリストの右側のスクロールバーで必要に応じてスクロールできます。自動ソロ・チャンネルは、Channel Setup ディスプレイで選択します。自動ソロ機能の ON/OFF を切り替えるには、auto solo エリア下、左側の青いスイッチ (enable/disable) にタッチしてください。

このスイッチのテキストは、自動ソロ機能の ON/OFF 状態を表示します。自動ソロリストのチャンネルは、全て自動ソロリストの下にある clear all スイッチを押して削除できます。

※エフェクト・リターンを使用している場合、自動ソロを選択するとソロにしているトラックをエフェクト・リターンで検聴できます。

ソロバス信号には、自動ソロエリア右側のディレイ・ポットでディレイをかけることができます。ポットの下にある on スイッチでディレイの ON/OFF を設定します。ポットの調整はポットをタッチし、Touch-Turn エンコーダーに割り当てて行います。ディレイの調整範囲は 0 ～ 2.7 秒で、設定値はディレイ・ポットの右上に表示されます。

auto solo エリア左にある mono および stereo スイッチは、バス構成をモノラルかステレオで選択します。各スイッチは選択すると赤色に、選択していないと灰色に変わります。選択した構成は各ディスプレイの左上のメーターにも適用されます。

3.8.2 No Solo Setup ディスプレイ

mono および stereo スイッチの下にある no solo スイッチは、no channel solo が有効の場合に（該当する）どの信号がバスに存在するのかが設定します。デフォルトでは no channel solo 有効時、バスへ送る信号はありません。スイッチを押すと、No Solo Setup ディスプレイを表示します。



No Solo Setup ディスプレイ上部にはソロバスの名称を変更するためのテキストボックスがあります。ボックスもしくはキーボードアイコンにタッチして、ディスプレイまたは外部キーボードで新しい名称を入力し、OK を押してください。テキストボックスのすぐ右にある下向きの矢印にタッチすると、Channel Name ディスプレイを呼び出すことも可能です。設定したソロバス名はソロ・ディスプレイの上側、および割り当てられたマスターフェーダーに表示されます（詳細は次頁参照）。

テキストボックス下部には、グループおよび AUX チャンネルから no solo 機能の音声ソースを選択するための 2 列のスイッチがあります。左側の列では、各 AUX、グループチャンネルのモノラルまたはステレオを選択します。選択するとスイッチが点灯し、右側の列にチャンネルリストを表示します。項目がウィンドウに入りきらない場合は、スクロールバーがディスプレイの右側に表示されます。希望のチャンネルにタッチすることで no solo 機能の割り当てを行い、no solo スイッチの下に選択した信号名が記載されます。ステレオ信号を選択した場合は、左側の信号のみが表示されます。選択を解除する場合は、チャンネルを再度タッチします。no solo 機能に信号を選択していない場合は、スイッチ下に none と記載されます。

No Solo Setup ディスプレイを終了する場合は、右上の CLOSE スイッチを押してください。

自動ソロエリア下のセクションでは、ソロバス出力の設定を行います。エリア中央には、出力レベルポットがあり、ポットにタッチすることで Touch-Turn エンコーダーに割り当てが可能です。バス出力トリムの調整範囲は OFF ～ +10dB で、ポットの右側に表示されます。

(P3-32)

3.8.3 ソロバスをコンソール上の操作に割り当てる

ソロバス 1 の出力レベル調整は常に、ワークサーフェスコントロールに割り当てられており、ソロバス 2 の出力レベルは Master level/Solo Level2 と記載されたつまみに割り当てられます。この調整はスクリーン上の Assign To Master Level スイッチを押し、ワークサーフェスコントロール隣の LED が緑になると実行できます。通常この調整はマスターバスレベルになっており、LED は赤く点灯しています。

3.8.4 ソロ出力のルーティング

各ソロバスはインサートセンド/リターン、ダイレクト出力を含んでおり、いずれも Solo Outputs ディスプレイからルーティングを設定できます。Solo Outputs ディスプレイは、no solo スイッチの下に insert スイッチ、またはソロバス出力エリアの左上にある direct outs スイッチにタッチして呼び出します。

インサート・ポイントは、ヘッドホン出力ではなく、ソロバスのダイレクト出力のみに適用されます。

Solo Outputs ディスプレイの上側にも、前述のバス・ネーミング機能があります。ディスプレイの下側に output、insert A スイッチがあり、スイッチのいずれかを選択すると、センド（またはセンドとリターン）を上にある信号ルーティング・エリアに割り当てます。

SD11 Operation Manual

インサートを割り当てると、ins A send routing スイッチが左側の列に、ins A return routing スイッチが右側の列に表示されます。出力を割り当てると、左側の列に outputs routing スイッチが表示され、右側の列はブランクになります。任意のルーティング・スイッチを押すと、ルーティング・ディスプレイが表示され、インサートおよび出力のルーティングを行います。

Insert Send Route ディスプレイ・スイッチのポート・リスト上部に send+return と記載された追加スイッチがあります。このスイッチを起動すると、センドとリターンのルーティングが内部ポート内の全ての信号にリンクされます。例えば、Graphic 1 入力をインサートセンドに割り当てた場合、Graphic 1 の出力が自動的にインサートリターンに割り当てられます。同様に、手動でリターンに割り当てた場合、センドが自動的にその割り当てをコピーします。

send+return スイッチは、有効の場合は茶色に、無効の場合は灰色に点灯します。

インサートセンドとリターン信号を選択すると、トリムレベル・ポットが、Solo Outputs ディスプレイの下半分に表示されます。各ポットの左側にはメーター（ステレオチャンネルの場合はメーター2 系統）、右側にはデジベル単位でトリムレベルを表示します。センドトリムレベル下部にはセンドの ON/OFF を切り替えるスイッチ、リターントリムレベル下部には、リターン信号の位相を反転する reverse phase スイッチがあります。いずれのスイッチも、有効の場合は赤いリングで囲まれます。

インサートまたはダイレクト出力をルーティングすると、Solo 1 または Solo 2 ディスプレイのスイッチの下にルートが表示されます。

mono>mono mono>stereo スイッチは mono バスのルーティングを stereoFX へ構成します。詳しくは Getting Started chapter で説明されています。

3.8.5 ヘッドホン出力

ディスプレイ左下のコーナーにある headphone スイッチにタッチすると、ソロバス信号をアームレスト下、コンソールの側面にある、ヘッドホン端子にルーティングします。起動時にこのスイッチは、青色に変わります。

ヘッドホン出力はソロバス信号を受信します。どちらのバスからも信号をルーティングしていない場合、no solo 信号が割り当てられていない限りヘッドホン出力は無音になります。

ヘッドホンレベルは、出力エリアの出力レベルポット、右セクションにあるヘッドホンレベル・エンコーダーで調整します。ヘッドホン信号をミュートする場合は、コンソール上のヘッドホンレベル・エンコーダー隣の mute スイッチを押してください。mute スイッチを有効にすると、スイッチが赤いリングで囲まれます。

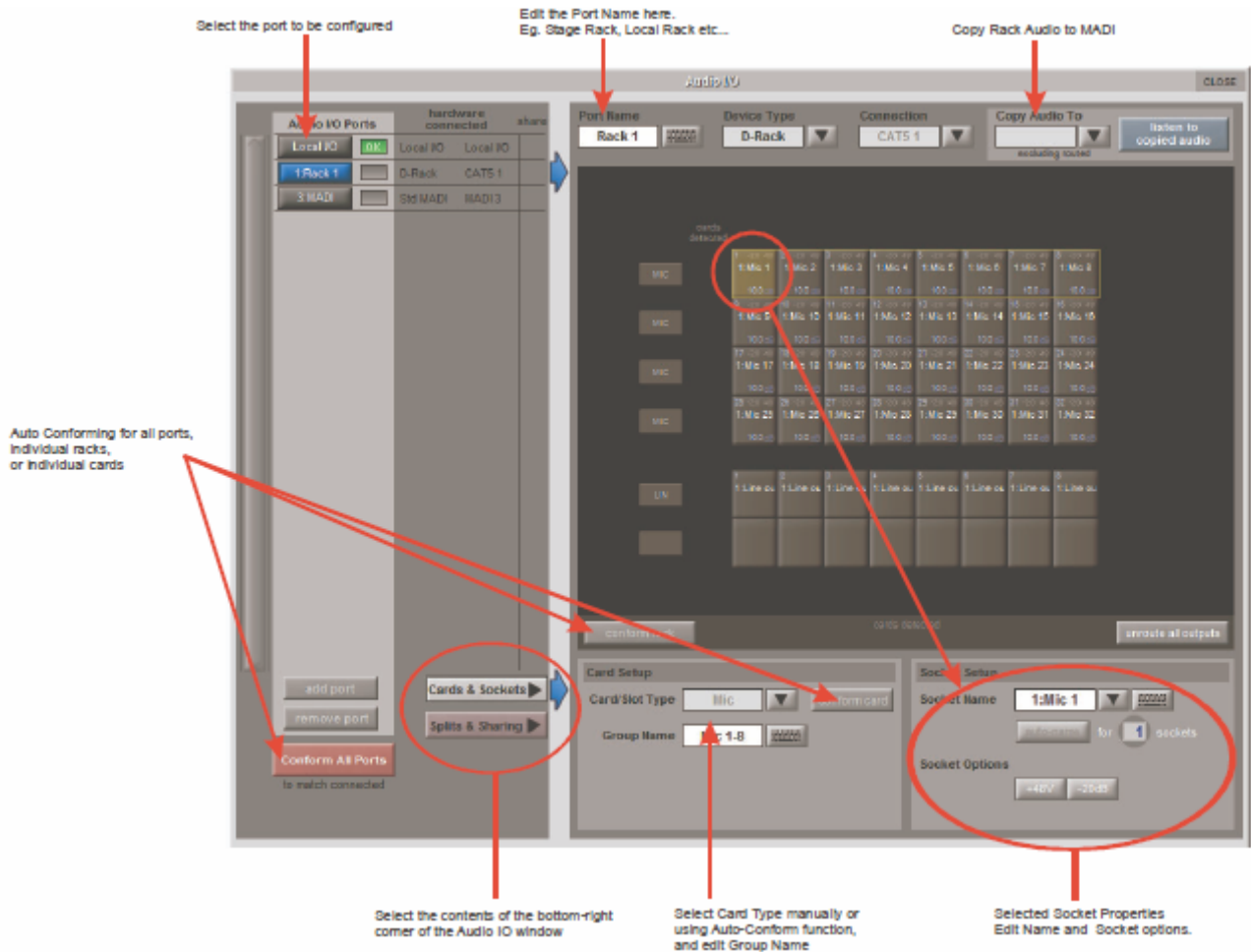


(P3-33)

3.9 Setup メニュー

3.9.1 Audio I/O

Setup メニューから Audio I/O を押すと Audio I/O ディスプレイを呼び出します。Audio I/O ディスプレイでは、ラックに実装したオプションカードの端子の特定や名称変更、バッドやファンタム電源の設定などの SD11 に接続されている物理的な I/O の設定を行います。



3.9.2 ポートの選択

ディスプレイ左上の ports スイッチはディスプレイの残りの部分で、どのポートを構成するかを選択します。各ポートは物理的な音声接続のセットに対応しています。

Local I/O コンソールの背面に実装された I/O カード

Rack CAT5e で接続されたリモート I/O

MADI MADI で接続されたリモート I/O

ポートを選択したら、選択したポートの接続は、残りの Audio IO ディスプレイの大半を構成している端子構成図に表示されます。

各 ports スイッチの右にあるボックスは、接続の現在の状態を表示します。

音声をコピーし、コピーした音声を聴く (MADI レコーダー設定)

D ラックからの入力信号をポート 3 の MADI 出力にコピーする場合は、Ports リストの入力ポートを選択し、ドロップダウンメニューの Copy Audio To を使用します。例えば Rack 1 の音声入力を Port 1 に接続されている MADI を備えたレコーダーにコピーする場合、ports リストから Port 1 を、Copy Audio To のドロップダウンメニューから MADI を選択し、その後、Ports リストから Port 1 を、Copy Audio To のドロップダウンメニューから MADI を選択します。コンソールはラック 1 からの 32 チャンネルを MADI 出力に送り、必要に応じて録音できます。

さらに、レコーダーの MADI 出力をコンソールの MADI 入力に接続することで、元のソース素材と同じチャンネルで再生をモニターできます。Listen To Copied Audio スイッチを押して再生をモニターし、再度押すとラックからのライブ音源のモニターに戻ります。

(P3-34)

3.9.3 ポート・ハードウェア構成

ポートは ports 選択エリアの右に表示されるように、接続の種類に従って自動的に名称が付きま。この名称は Port Name ボックス、または右側のキーボードアイコンにタッチし、ディスプレイ上のキーボードで新しい名称を入力することで編集が可能です。ポートに接続しているデバイスの種類は、Port Name ボックスの下にある Device Type ボックスの隣にある下向きの矢印にタッチし、表示されるドロップダウン・リストから該当するデバイスを選択して変更できます。

※Port1 はいくつかの DiGiCo ラック、追加の Little Red Box、Little Blue Box へ接続することのみができます。しかし MADI ポー

SD11 Operation Manual

トは DiGiCo ラックが標準 MADI 接続になります。

※ Local I/O ポートの構成は固定のため、ハードウェアの変更はできません。しかし Port Name、(各物理的なカードの名称に関係する) Group Name および (カード上の物理的なコネクタそれぞれの名称である) Socket Name の変更は可能です。

3.9.4 ポートのコントロール

ports 選択エリア真下、ディスプレイ左下のスイッチは、コンソールおよび I/O ラック間のコントロールのレベルを設定します。通常、入力ゲイン、ファンタム電源、および各 MaDiRack 入力のパッドはコンソールからリモートコントロールされますが、MaDiRack を MADI で接続し、2 台の DiGiCo コンソールで共有されるようなマルチ・コンソール・システムの場合、コンソール 1 台だけが、ラック設定をリモートコントロールできます。そのため、各コンソールに与えられるコントロールのレベルを定義する必要があります。



コントロールには isolate (独立)、receive only (受信のみ) または full control (フルコントロール) の 3 種類があります。

isolate: SD11 はラックとコントロール・データを送受信しません。つまりコンソールはラック設定の調整も、戻りのコントロール・データによるコンソール自体の調整も行いません。

receive only: SD11 はラックからの設定を受信しますが、コントロール・データの送信は行いません。つまりコンソールからラック設定の調整は行えませんが、戻りのコントロール・データで、コンソール自体の設定は調整できます。

full control: SD11 はラックからの設定を受信し、コントロール・データも送信します。つまりコンソールはコンソール自体の設定もラックの設定も行えます。

該当するポートを選択し、shared スイッチを押します。ラックが共有に定義されている場合、パネル左下にある global コントロール・スイッチを使用して、共有されている全てのラックに対するコントロールのレベルを設定できるほか、個別のラックを shared スイッチ下にある isolate、receive only および full control スイッチを使用してコントロールできます。これらのスイッチは選択したポートに対してのみ影響を与えます。

3.9.5 Socket ディスプレイ

ports リストからポートを選択すると、ポートの個別の接続が、Audio I/O ディスプレイの端子構成図に表示されます。Rack または Console ポートの構成図の各列は I/O カードを表しており、I/O カードのタイプは各列の一番下に表示されます。Local I/O ポートの構成図では各行が、I/O 端子のタイプを表しています。

個々の端子では現在の端子名が中央に、カード内の端子番号は左上のコーナーに表示されます。

アナログ入力端子では、現在のゲインが下側に、ファンタム電源が ON の場合、赤色の 48 マークが右上に表示されます。

Local I/O と D-Rack アナログ入力端子では、現在のゲインが下側に、ファンタム電源が ON の場合、赤色の 48 マークが右上に表示されます。48 のインジケータの横は -20 インジケータがあり端子の -20dB パッドが有効かどうかを表します。

アナログ・ラック出力端子では 10dB パッドが ON の場合は右上に黄色で、OFF の場合は白色で -10 マークが表示されます。

※Local I/O と D-Rack 出力用に利用可能な -10dB パッドはありません。

デジタル入力では Sample Rate Conversion の ON/OFF 状況が表示されます。
構成図内の端子にタッチすると、端子およびカードを構成図下部のエリアに割り当てます。

(P3-35)

3.9.6 端子の一致

ラックを使用する場合、ラックのディスプレイ上の内容と接続されているラックに物理的に実装されたカードの内容を一致させる必要があります。一致方法は以下の 2 通りの手順があります。

手動による一致

各カード（列）を選択し、手動で該当するカードをウィンドウの下側の部分にある Card/Slot Type ドロップダウンメニューから選択します。正しいカードタイプを選択すると、下側のカードタイプ名が緑色に変わり、カードのタイプがラックに実装したカードと一致したことを表します。一致しない場合、カードタイプ名が赤くなります。正しいカードタイプを再度選択してください。

自動による一致

ラック表示セクション真下の Conform All Ports スイッチを使用します。このスイッチを押すと、接続したラックの各スロットに対して正しいカードを自動的に選択します。完了すると、スロットの下側のカードタイプ名が全て緑色に変わります。カードごとに自動確認することも可能です。（カードに対する任意の端子をタッチして）1 枚のカードを選択し、端子構成図下にある conform rack スイッチを押します。

3.9.7 グループおよび端子名

カードと端子にはデバイスの種類、カード/ スロットの種類、それにポートの位置に応じて名称が自動的に付けられます。これらの名称は、端子構成図の下にある Group Name および Socket Name ボックスにタッチするか、右にあるキーボードアイコンにタッチして編集が可能です。



ディスプレイ上のキーボードに新しい名称を入力し、OK を押してください。Socket Name ボックスとキーボードアイコンの間にある下向きの矢印にタッチすると、Channel Name ディスプレイが表示されます。Channel Name ディスプレイではキーボードを使用せずに、一般的に使用される単語を挿入できます。

Socket Name ボックスの下にある auto-name 機能を使用して、一定の範囲の端子に対して、同じ名称と増分する番号で名称を付けることも可能です。自動的に名称を付ける端子の数を定義する場合は、数値ディスプレイにタッチし、スクリーンの右側にある Touch-Turn エンコーダーを使用して、キーボードアイコンの下の数値ディスプレイが、正しい数字を設定してください。数値ディスプレイにタッチし、ディスプレイに表示されるキーボードを使用して端子の数を入力することもできます。端子の数を設定したら、auto name スイッチが有効になります。auto name スイッチを押すと、割り当てた端子の名称を、選択した全ての端子に対して繰り返します。割り当てた端子の名称が数字で終わらない場合は末尾に「1」が追加され、残りの端子で増分した数字が追加されます。割り当てた端子の名称の番号が既に使用されている場合、残りの端子に対して、この番号が増分します。

3.9.8 ソケットオプション

端子の種類により、ソケットオプションが端子名エリアの下に表示されます。

(P3-36)

3.9.9 Audio Sync

Setup メニューから Audio Sync を選択すると、Audio Sync ディスプレイが開きます。Audio Sync ディスプレイでは音声のサンプリングレートとクロック・マスターを設定します。



通常の設定では、SD11 がクロック・マスターとなり、MASTER スイッチが選択されますが、SD11 を外部クロックに同期する必要がある場合、選択可能な外部クロックのソース (Word Clock もしくは MADI3) がディスプレイの残りの部分に表示されます。正しいクロックを外部同期入力で検知すると、クロック・ソースとしてその入力を選択していない場合でも、右側に緑色の OK マークが表示されます。外部ソースを選択する場合は、緑色の OK マークが表示されているボックスから該当するものを選択してください。

3.9.10 Timecode & Transport

このセクションは現在のバージョンでは使用できません。

3.9.11 Macros

Setup メニューから Macros を押すと、Macros ディスプレイを開きます。



Macros ディスプレイは、コンソール上の macros エリアの assign スイッチを押して呼び出すことも可能です。マクロを選択すると、Macros ディスプレイはスイッチの割り当てを含む作成したマクロ・コマンド全てのリストを備えています。リストは右にあるスクロールバーでスクロール可能です。



※トリガーがない作成済みのマクロもリストに含まれています。

(P3-37)

空きのマクロを作成する場合は、ディスプレイ右上の new スイッチにタッチしてください。既存のマクロに基づいたマクロを作成する場合は、new スイッチ下の duplicate スイッチを押し、次にコピーするマクロを押します。マクロはデフォルトで macro n という名

称で新規に作成されます。n は、自動的に増分する番号で、Macro Editor ディスプレイ（「3.9.12 Macro Editor」を参照）を開きます。複製したマクロは、名称以外、コピー元のマクロ設定を全て含みます。

マクロを編集するには duplicate スイッチの下にある editor スイッチ、編集するマクロの順にタッチしてください。Macro Editor ディスプレイ（「3.9.12 Macro Editor」を参照）が開きます。

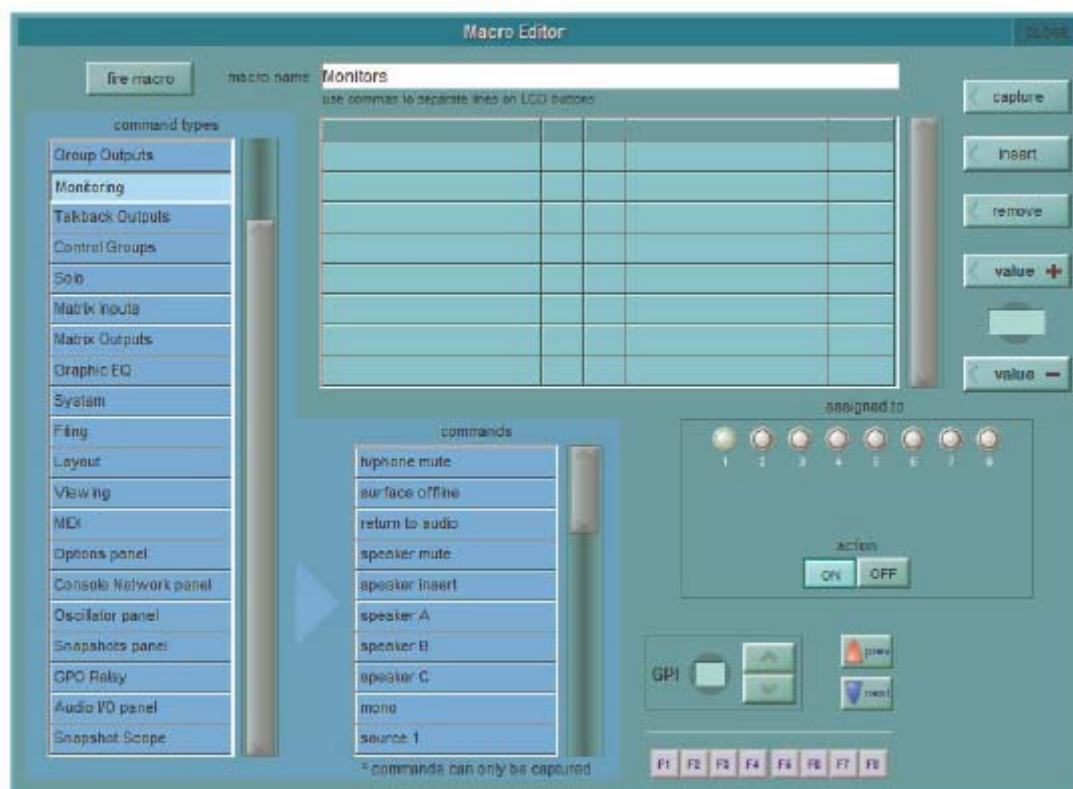
マクロは macros ディスプレイから、editor スイッチの下にある assign スイッチ、割り当てるマクロの順にタッチし、最後にマクロを割り当てるスイッチを押して割り当てることも可能です。

マクロを削除する場合は、delete にタッチしてください。リストにあるマクロを全て削除する場合は、select all、confirm の順にタッチします。マクロを 1 つ、または選択範囲のマクロを削除するには、削除するマクロ、confirm の順にタッチします。連続した範囲のマクロを削除する場合は、select range にタッチし、最初と最後のマクロにタッチしてから、confirm にタッチして削除を実行します。

3.9.12 Macro Editor

Macro Editor ディスプレイでマクロを定義します。マクロにはコマンドとトリガーに使用するスイッチも含まれます。マスターディスプレイを開くため、チャンネル内の信号処理まで、コンソールのほぼ全てのコマンドをマクロに割り当てできます。

※ fx パラメーターは fx ユニットをセッションで設定した後にコマンドとして含まれるようになります。



編集を行うマクロ名はディスプレイの一番上に表示しています。別のマクロに切り替える場合は、Macro ディスプレイの new macro にタッチしてください（リストにアクセスするために、ディスプレイを動かす必要がある場合があります）。マクロの名称を変更するには、macro name テキストボックスにタッチし、ディスプレイまたは外部キーボードで新しい名称を入力し、OK をタッチしてください。名称は Macros ディスプレイに表示されます。

macro name テキストボックス下のリストは、マクロに現在含まれているコマンドのリストを表示します。含まれているコマンドのリストに複数のコマンドがある場合、リストの順番にトリガーされます。新しいコマンドはリスト内の選択した行に追加され、その行にあったコマンドに上書きされます。隣接するコマンドの間に新しいコマンド行を挿入する場合は、コマンドを挿入したい行の上にタッチし、含まれたコマンドリストの右にある insert スイッチにタッチしてください。

(P3-38)

コマンドリストにコマンドを追加する方法は 2 通りあります。

①コマンドを表示するリストの行を選択し、ディスプレイ右上の capture スイッチにタッチします。スイッチがピンクに変わり、コンソールで行ったコマンドがコマンドリストに追加されるようになります。必要なコマンドを全て実行したら、capture スイッチの選択を解除してください。

②コマンドを表示するリストの行を選択し、ディスプレイ左のコマンドタイプ・リストでコマンドタイプのいずれかにタッチします。デ

ディスプレイの下半分の中央にコマンドリストを表示します。必要なコマンドにタッチしてコマンドのリストに追加します。

コンソールでの制御（コマンドタイプ・リストの System の上にある全てのコマンドタイプ）に関連づけられたコマンドについては、コマンドリストが（チャンネルタイプ列に）コマンドタイプ、（from および to 列に）該当する場合、コマンドに含まれるチャンネルのスコープ、（controller に）コマンド名、それにコマンドに関連づけられた値をリスト表示します。（System から下の）マスターパネルに関連づけられたコマンドタイプについては、コマンドリストが関連づけられているファイル名または値と共に、コマンドを表示します。このリストは、右にあるスクロールバーを使用して、必要に応じてスクロールできます。

from、to、value 列の値は、Touch-Turn エンコーダーおよびコマンドリストの右側にある+ および-値のスイッチを使用して調整できます。調整するボックスにタッチして、エンコーダーやスイッチに割り当てます。現在の値は、スイッチの+ / -スイッチ間にあるディスプレイに表示されます。列に数値以外が表示される場合、Touch-Turn エンコーダーと、+/- スwitchを使用して、オプションを順番に切り替えることができます（ON/OFF、toggle の間での切り替えなど）。

+ / - ボックスにタッチし、外部キーボードまたはディスプレイを使用して新しい値を入力し、OK を押してパラメーターの設定も可能です。

リストからコマンドを削除する場合は、削除するコマンドをタッチし、次にコマンドリストの右にある remove スwitchを押します。

Macro Editor の右下のエリアでは、マクロをトリガーする項目を定義します。action スwitchを押すとマクロの ON/OFF コマンドをトリガーするかどうかを定義します。これは 1 つのマクロスwithで ON/OFF の切り替えによって 2 つの異なるマクロをトリガーできることを意味します。2 つのマクロをトリガーしない場合は OFF に設定してください。

定義済みの GPI の選択は GPI 番号ボックスにタッチし、Touch-Turn エンコーダーを使用するか、GPI 番号の右にある矢印スwithで行います。

外部キーボード上にある機能キーに割り当てる場合は、ディスプレイの下側にある F1 から F8 のスwithにタッチします。

マクロをテストする場合は、ディスプレイ左上の fire macro スwithを押します。マクロを完全に構成したら Macro Editor ディスプレイを終了してください。

(P3-39)

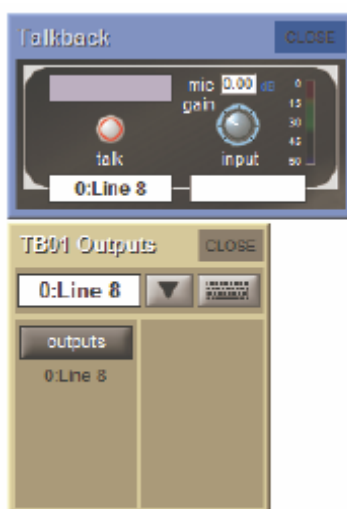
3.9.13 トークバック

コンソール上のトークバック・セクションは、右セクションの右上にあります。トークバック・セクションはゲイン・エンコーダーおよび talk スwithで構成しています。

talk スwithを押すと、トークバック・マイクをトーク・バス出力にルーティングします。



スwithを長押しするとラッチ動作（長押ししている間のみ ON）になり、素早く押した場合はモメンタリー動作（瞬間的に押すことで ON/OFF 切り替え）となります。トークバックセクションのスwithはトークバック出力のみに機能します。



※トークバック・マイクに使用する入力信号は Talkback パネルでローカル I/O もしくはラック入力の 1 つとして設定してください。Setup メニューから Talkback を選択してトークバック・ディスプレイを呼び出し、トークバックのルーティングを設定します。Talkback ディスプレイ右側に、コンソール上のトークバック・セクション、ゲイン・エンコーダーに常時割り当てられたマイク入力ゲイン・ポットがあります。

ポットのゲイン値はポット上側にデシベル単位で表示され、信号レベルは右側のメーターに表示されます。ゲイン・ポットの下にある白いボックスにタッチすると、input route スイッチで構成される Talkback Input ディスプレイを開きます。現在のルーティングは、スイッチの下に表示されます。このスイッチを押すと、通常の形で動作する TB Input Route ディスプレイを表示します。

ディスプレイの入力セクション左には Talk スイッチがあり、下にテキストボックスがあります。このスイッチにタッチすると、コンソール上の talkback スイッチの ON/OFF を切り替えます。各スイッチの周囲が赤いリングで囲まれて、そのバスが有効となっていることを示します。スイッチの下にあるテキストボックスにタッチすると、TB Outputs ディスプレイを表示します。TB Outputs ディスプレイは、名称変更エリアと、outputs スイッチで構成しています。現在選択されている最初の出力が、スイッチの下に表示されます。

スイッチを押すと、通常の形で機能する TB Output Routes ディスプレイを開きます。最初に選択したルーティングが、talk スイッチの下に表示されます。

※複数の出力を、トーク・バスからルーティング可能です。

(P3-40)

3.9.14 AUX バスへのトークバック出力

AUX バスへのトークバック出力を行います。AUX 出力上に割り当て可能な列を用意し、個別に、もしくはトークバックパネル上の Talk to AUX Setup ウィンドウのリストを使って制御できます。これは 1 系統のエンジンプロセッシングチャンネルとして使用されるトークバック入力を AUX 出力として使用します。

トークバック入力は初期セッション、コンソール左の最後のバンクに表示されています。



AUX 出力チャンネル上の Quick Select Aux とスクリーン下側のアサインابلコントロール列を押すと Talk To Aux の ON/OFF を切り替え、トークバック出力レベルと ON 時の Dim レベルを設定します。Dim レベルの設定は 2nd Function 機能に割り当てられており、2nd Function スイッチを押し、スクリーン下のつまみで調整できます。

サーフェス上の Talk スイッチも 1 ユーザーもしくは複数のユーザーがチャンネルを定義したトーク機能の ON/OFF をプログラムできます。Setup/Talkback パネルを開き、Talk スイッチの上にあるラベルにタッチし、モノ/ステレオ AUX の組み合わせをスイッチで有効にしてください。

DiGiCo SD11 操作マニュアル

第 4 章： ネットワーク/ ミラーリング

(P4-2)

4.1 ネットワークとミラーリング

4.1.1 ネットワーク構成

SD11 はネットワークカードを搭載し、標準的な PC を使用したリモートコントロールが行えます。ネットワークを確立するためにはコンソールのネットワーク機能が機能しているかを確認し、2 台の機器間でセッションを同期する必要があります。

PC 上の SD11 ソフトウェアは、コンソール・ソフトウェアと同一で、コンソールと一緒に提供される USB キー内の SD11_Oxx.exe というファイルをインストールして使用します。

ソフトウェアは DiGiCo サポートページからもダウンロード可能です。

ZIP ファイルの自己解凍を実行し、インストール・パスを D: ¥SD11 から C: ¥SD11 に変更してください。SD11 フォルダとその内容を C: ¥SD11 にコピーします。

次に、セッションの保存・ロードを行う C: ¥Projects という新規フォルダを作成します。最後に、PC 上の C: ¥SD11 フォルダを開き、SD11.exe プログラムをダブルクリックして、アプリケーションを実行します。

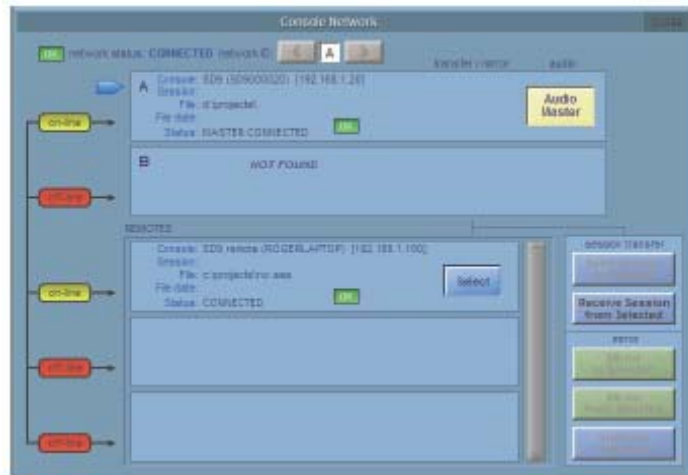
※重要！ コンソールを PC にミラーリングする場合、コンソール自体と同じサブネットである、IP アドレスを PC に設定する必要があります。コンソールのサブネット・マスクは、255.255.0.0 で、その IP アドレスは Network パネルのエントリーの隣にあります。上の写真では、エンジン A に対して 192.168.1.100 となっています。PC の IP アドレスは、192.168.xxx.xxx で始まる必要があり、コンソールの IP アドレスと異なる必要があります。PC 上のネットワーク・アドレスの設定は、オペレーティングシステムごとに異なる場合があるので、確証がない場合は、先に進む前に、PC のオペレーティングシステムのドキュメンテーションを参照してください。

例) Windows XP では、IP アドレスとサブネット・マスクは以下の手順で変更します。

- ①コントロールパネル>ネットワーク接続を開きます。
- ②ローカル エリア接続を右クリックして、プロパティを選びます。
- ③リストからインターネット プロトコル (TCP/IP) をダブルクリックして、そのプロパティを表示します。
- ④次の IP アドレスを使うようにラジオボタンを設定します。
- ⑤上記の IP アドレスおよびサブネット・マスクを入力します。
- ⑥変更を確認し、コンピューターを再起動します。

コンソールと PC をミラーリングする前に、標準のクロスオーバー・ネットワーク（イーサネット）ケーブルで 2 台のエンジンを接続していることを確認してください。この接続により、2 台のエンジン間で情報の送受信を行います。

マスターディスプレイの一番上にある Network スイッチにタッチして Network ウィンドウを呼び出します。



SD11 ソフトウェアを PC 上で実行する場合、ソフトウェアは、複数の「フローティング」ウィンドウとして表示され、それぞれがコンソールのセクションを表しています。コンソール上でのスクリーンタッチは、マウスの右クリックで同じ動作を行います。コンソール・セクション間の切り替えには、Master¥Channels¥Overview と記された画面上にある小さなツールバー・スイッチを使用します。

4.1.2 ミラーリングを初めて行う場合

コンソールが接続されていてもネットワークリスト内の機器名の隣に赤いオフラインインジケータが付いている場合、ネットワークングを有効にする必要があります。

ネットワークを有効にするためには OPTIONS/SESSION タブ内の ENABLE CONSOLE NETWORK (YES/NO) を YES に設定します。必ず両方の機器で YES を設定してください。設定後、両方の機器を再起動し、セッションがロードされたら、NETWORK ウィンドウで Engine A とリモートコントロール機器の両方で黄色のオンライン・ライトが点灯していることを確認してください。この設定はネットワークが 2 台のエンジンを接続しており、ミラーリングは行っていないことを示しています。

2 台の機器をミラーリングする場合は、同じセッションを実行する必要があります。まずセッションをコンソールに読み込み、以下の手順で Network ウィンドウを使用して、リモート PC に転送してください。

SD11 Operation Manual

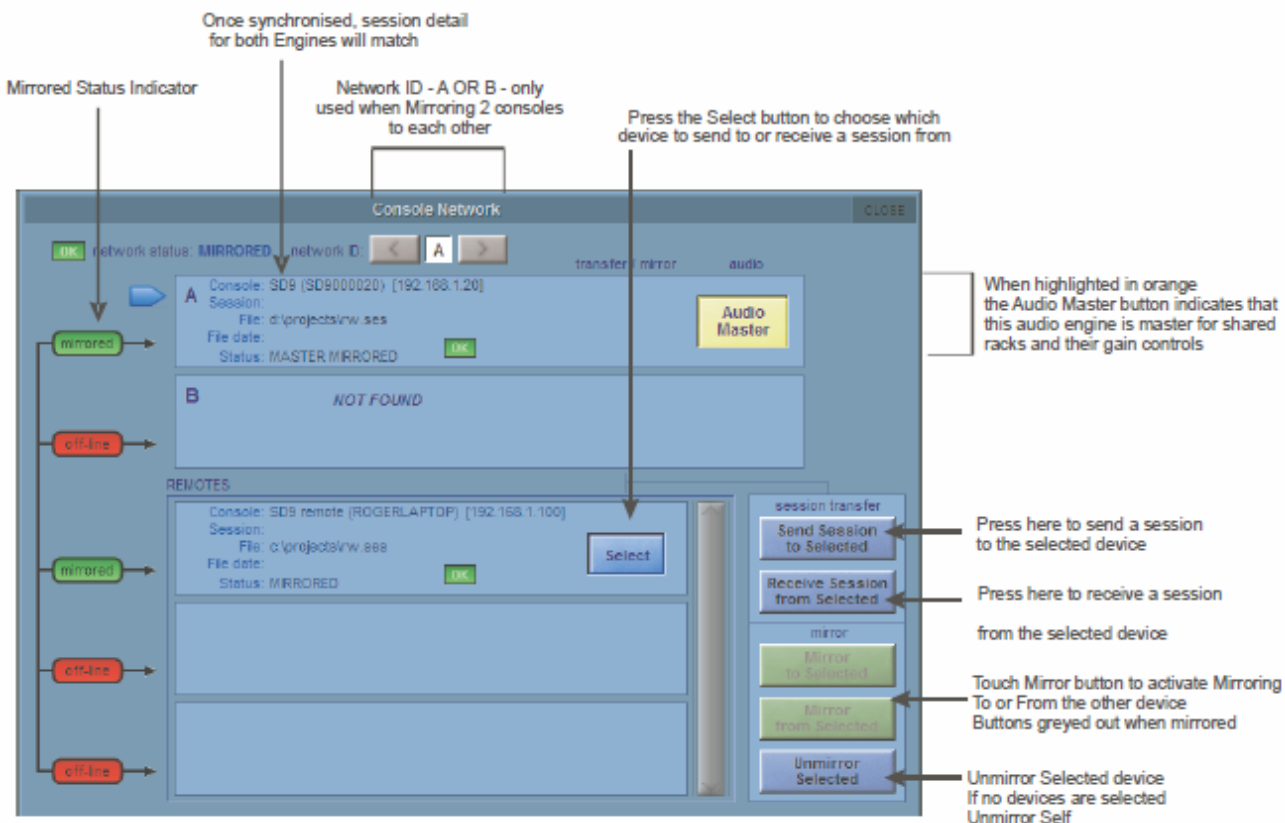
- ①コンソールにセッションを読み込みます。
- ② Network ウィンドウを開きます。
- ③リモート PC の Select スイッチを押し、次に Send Session To Selected スイッチを押します。

(P4-3)

現在のコンソールのセッションをコピーし、リモート PC に読み込み、リモート PC の詳細のセクションが新しくロードしたセッションを反映するために変更されます。また、プロセスが完了したかを確認するため、リモート PC 側で処理の進行状況を示すプログレスバーが完全に終了するまでお待ちください。

Mirror To Selectors スイッチもしくは Mirror From Selected スイッチを押します。Mirror スイッチが緑色に点灯し、ミラーリングが完了します。

※コンソールからリモート PC にミラーリングする場合は必ず現在のコンソールの状態をリモート PC に転送してください。



※ミラーリングの詳細は Option パネル/ セッションタブの設定で決定します。以下を参照してください。

ミラーリングモード

この設定はネットワーク経由で他のコンソールやオフライン PC とミラーリングを行っている際、コンソールをどのように動作させるかを設定します。この設定はコンソール本体に保存されます。セッションごとには保存できません。モードは以下の 4 つから選択します。Full Mirror 全機能をミラーリングします。

Expander SD7 コンソールや EX007 エキスパンダーユニットを使用している場合のモードです。1 番目の機器から大半の機能が 2 番目の機器にミラーリングされますが、バンクを別々に選択できます。

Remote PC をリモートコントロール用に使用している場合のモードです。バンクおよび設定を別々に選択できます。

One Way DiGiCo がサポートを認める機器を使用して例外的な環境で使用するためのみの動作モードです。機能は 1 番目から 2 番目の機器にミラーリングされますが、2 番目の機器からのミラーリングは行えません。

4.2 マルチコンソール設定

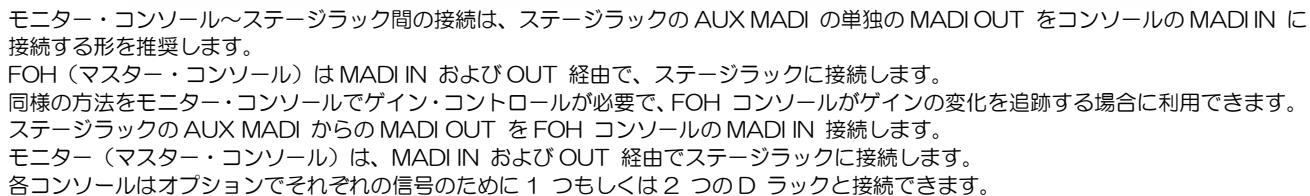
4.2.1 FOH コンソールとモニターコンソールでステージラックを共有する (MADI)

2 台の SD11 コンソールが、ラックの 2 ペアの MADI ポートを使用して、リモート DiGiRack からの入力を共有できます。

この場合、SD11 の共有ラックは必ず BNC MADI ケーブルを使用してコンソールのポート 3 に接続してください。

この設定は片方のコンソールだけがマイクプリアンプのアナログゲインやファンタム電源の ON/OFF などのラック機能を制御できます。

同じラックを共有している 2 台の SD11 コンソールの設定例は以下の通りです。



※ゲインを制御するコンソールを Setup / Audio Sync = Master に設定し、追跡するコンソールを Setup / Audio Sync = MADI に設定してください。

- 
95

- ② 片方のコンソールを、Setup > Audio I/O パネルの共有ラックに対する full control スイッチを使用して、ラックに接続します。コンソール上の Network/ Audio Master スイッチを押すと (オレンジに点灯)、Full Control が設定されます。
- ③ オペレーターは必要な用途に対して十分なヘッドルームがあるアナログゲインのレベルを設定する必要があります。
- ④ 2 台目のコンソールを receive only モードの共有ラックに接続します。Network/ Audio Master スイッチを OFF にする (グレーに消灯) と、Receive Only が設定されます。
- ⑤ 有する全てのチャンネルで receive only モードになっているコンソールに対して、ゲイン・トラッキング (入力チャンネル・スクリーンの上側にある Track スイッチ) をオンにする必要があります。
- ⑥ アナログゲイン・コントロールを「マスター」コンソールで変更すると、「スレーブ」コンソールのアナログゲインが変更を反映し、デジタルトリム・コントロールが反対方向に同じ量だけ動いて、変更に対する補償を行います。

DiGiCo SD11 操作マニュアル

第 5 章: トラブルシューティング

(P5-2)

5.1 トラブルシューティング

5.1.1 コンソールを立ち上げる

コンソールを立ち上げる際に問題が発生した場合、電源を切ってから再度電源を入れ、コンソールの起動時にキーボードの SHIFT キーを押し続けてください。

この動作を行うことで、スクリーンに表示される Revert To Defaults オプションを選択できるようになり、コンソールが空のセッションで起動し、以前の起動または自動回復セッションを無視します。

5.1.2 音声が通らないチャンネルがある

入力から出力、あるいはモニタリング・システムを信号が通らなくなる場合、音声処理パスに原因がある可能性があります。以下の確認を行ってください。

- ・入力チャンネルが ALT 入力を使用するように設定されている: ALT IN と名称の付けられたディスプレイ上のチャンネル上にある小さな赤いスイッチを探してください。スクリーンにタッチし、チャンネル上部の Channel Setup パネルを開き、パネル上部にある MAIN Input スwitchを押します。

- ・入力チャンネル上のインサート・イン: チャンネル・インサート A または B が有効になっていますが、センド&リターンのルーティングが設定されていません。

- ・チャンネルまたはグループ・フェーダーが下がっている: 信号パスの全てのフェーダーが上がっていることを確認してください。

- ・出力ルーティングがない: 入力チャンネル・スクリーンの下側にタッチして Output ビューを開き、チャンネルが正しいパスまたはダイレクト出力にルーティングされていることを確認してください。

- ・グループチャンネルのインサート: チャンネルがルーティングされているパスでインサート A または B が有効となっていながら、センド&リターンのルーティングが設定されていません。

- ・ソロが有効になっている: チャンネルのいずれかでソロが有効になっています。マスターセクションの上にある Solo Clear を押してください。

- ・入力チャンネルまたはグループにハードまたはソフト・ミュートがかかっている: 入力または出力チャンネルでミュートが有効になっている可能性があります。ハード・ミュートは 2nd Function スwitchを押し、通常のチャンネル・ミュート・switchを押して解除できます。

- ・コントロールグループのフェーダーが下がっているもしくはミュートされている: 問題のチャンネルが、ミュートがかかっている、あるいは下がっているコントロールグループのメンバーとなっている可能性があります。

- ・入力チャンネルまたはグループのゲート: 入力または出力チャンネルで、開いていないゲートが ON になっています。

5.1.3 希望のスナップショットが呼び出せない

スナップショットの保存には、コンソール設定が全て含まれますが、実行する場合は Global & Individual Recall スコープ（緑のチェックマーク）に含まれる設定のみが呼び出されます。

大部分のチャンネル設定は、ディスプレイ上のチャンネルの上側にタッチして Channel Settings エリアのswitchを使用して、全てのスナップショット呼び出しから SAFE にできます。

5.1.4 スナップショットが希望通りにインサートされない

Insert New または Duplicate Selected switchを使用してスナップショットをリストにインサートすると、新しいスナップショットが CURRENT スナップショット（リストで強調表示されているもの）ではなく、SELECTED スナップショット（緑でマークされているもの）の下に置かれます。

5.1.5 コンソール上の制御を割り当てる

バンクをスクリーンに割り当てて特定のパラメーターを調整しようとした時に、別のパラメーターが変更されてしまう場合、コンソールの 2nd Function switchが有効になっている場合があります。

2nd Function switchが押されている場合、以下のswitchの機能が変わります

Channel Mute switch → Hard Mute switch

Aux ON/OFF switch → Aux Pre/Post switch

ステレオ AUX センド → ステレオ AUX バン

出力チャンネルのディレイ調整（粗調整）→出力チャンネルのディレイ調整（微調整）

調整中のチャンネルが、意図しているチャンネルでない場合があります。ディスプレイ上のチャンネル上側にある小さなチャンネル番号をチェックして、スクリーンに正しいチャンネルが割り当てられていることを確認してください。

5.1.6 コンソールにチャンネルが表示されない

コンソールからチャンネルにアクセスできなくなった場合、Clear Bank LCD 機能を使用してチャンネルのバンクを消去した可能性があります。チャンネルをサーフェスに戻す場合は、マスターディスプレイ上の Layout > Channel List パネルと連動して COPY FROM 機能を使用します。詳しくは、「1.5.2 フェーダーをコンソールに割り当てる」の章を参照してください。

5.1.7 ソロバスから信号がこない

ソロバスに音声通っていない場合、マスターディスプレイの Solos パネルを開いて、パネルの下側にある Solo レベル・コントロールが上がっていることを確認してください。Solo レベルはコンソールの Solo トリムとは別のコントロールです。タッチして Touch-Turn エンコーダーに割り当てる、もしくは Solo2 の場合は SoLo パネルからサーフェス上の Master Level つまみを割り当ててください。

(P5-3)

5.1.8 ソロに設定していないのにソロバスから信号が出力される

何もソロに設定していない場合でも、信号をソロバスから取ることができます。マスターディスプレイの Solos パネルの No Solo 機能が、グループまたは AUX バスをモニターするように設定されているためです。デフォルトの設定により、マスターバスのモニターが可能です。No Solo スイッチにタッチして、Stereo Groups のセクションからマスターバス選択を削除することで中止できます。

5.1.9 外部キーボード

機能を適切に動作させるために、電源投入前に外部キーボードを接続してください。外部キーボードを使用しなくても、コンソールの機能を全て使用できますが、外部キーボードは名称変更やテキストの入力などに便利です。コンソール起動後に外部キーボードを接続しても動作しないため、使用する場合は接続後にコンソールの再起動を行ってください。

5.1.10 コンソールをリセットする

コンソールのリセットは以下の 2 種類の方法があります。通常の操作ではこの機能を使用する必要はありませんが、コンピューターや音声の問題を解決する方法が他にない場合はリセットを行ってください。

・マスターディスプレイの System > Reset Engine (キーボードでは F11 に相当) でリセット
Reset Engine スイッチは音声エンジンをリセットしますが、コントロール PC はリセットしません。音声为数秒中断し、ポップノイズなどの音声に関する思わぬ結果が発生する場合がありますので、機能の使用には注意を払ってください。

・コンソールの背面パネル (MADI 接続の隣にある小さな四角く赤いスイッチ) の Restart スイッチでリセット
Restart スイッチはコントロール PC を再起動しますが、オーディオ・エンジンに影響を与えないため音声が中断することはありません。コンソールが再起動するまで音声設定をコントロールできなくなるので、通常の状況ではこの機能を試すことは推奨しません。

5.1.11 トークバック

SD11 のトークバックシステムはトークバックマイクロホンの信号をコンソールの Local I/O もしくは MaDiRack にルーティングします。トークバック入力端子のルーティングはマスターディスプレイの Setup>Talkback パネルで設定を行います。その後、Local I/O もしくは MaDiRack 上の希望の出力にトークバック信号を挿入します。コンソール上にはトークバック信号を有効にし、選択した出力にルーティングするスイッチがあります。トークバック出力レベルは右セクションのつまみで調整します。

5.1.12 メーター

コンソールのメーターが動作しない場合、マスターディスプレイの Meter タブにある Options メニューを確認してください。選択することができる複数のメーター構成があり、適切に設定を行ってください。

5.1.13 コンソールのライティング調整

ライティングの調整は 2 つの項目があります。コンソール中央セクション上部にはタッチスクリーンの輝度およびバックパネルの照明用端子の明るさを調整するロータリーつまみがあります。

また、マスターディスプレイの Brightness タブではメーターLED、LCD ディスプレイ、コンソール上の LED の輝度の調整が行えます。

5.1.14 診断(Diagnostics)

ハードウェアに関する問題が発生している場合、System > Diagnostics パネルでチェックを行ってください。

System > Diagnostics にタッチして Diagnostics パネルを呼び出します。

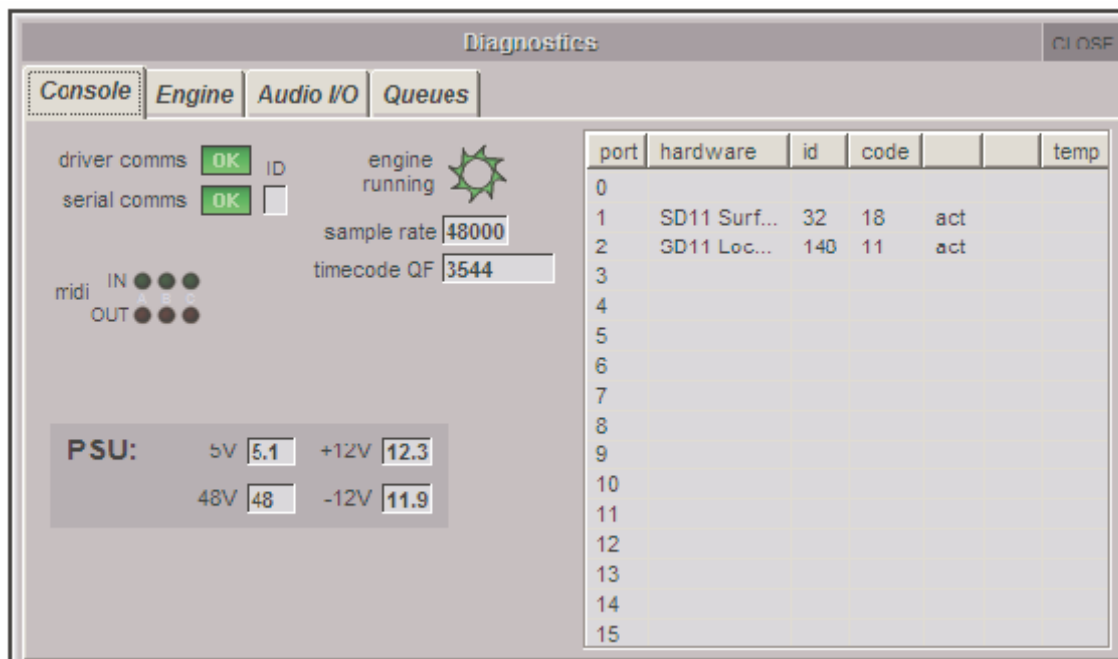
パネルには、Console、Engine、Audio I/O、Queues の 4 つのタブがあります。

SD11 Operation Manual

(P5-4)

Console

Console タブでは電源、コンソール、ローカル I/O 接続などの物理的なインターフェースを含む、コンソールのハードウェアの状態に関する情報を確認できます。



Console タブの重要なパラメーターは以下の通りです。

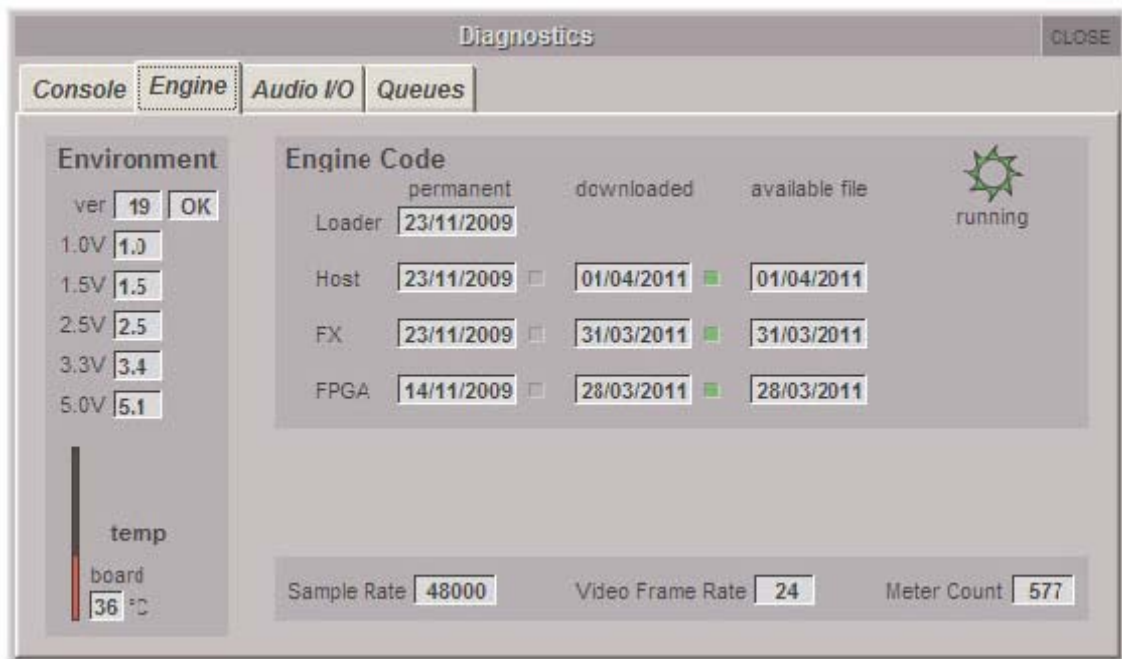
Engine Running Pin Wheel エンジンの動作時に、緑色の車輪が継続して回転します。エンジンが停止すると、車輪が赤に変わり、回転しなくなります。

MIDI In/Out LED で物理ポート上の MIDI の動作を示します。コンソール内の MIDI 機能が正しく動作していないように思われる場合、MIDI の動作をこのページでモニタリングしてください。

PSU ここで表示される Power Supply Voltages はローカル I/O ボードで測定され、電源の問題を診断する場合に役立ちます。

Console タブの右側はコンソールのシリアル・デバイス、つまり 2 コンソールとローカル I/O を表示します。各ポートまたはデバイスのハードウェア ID、ファームウェア・コード・バージョンおよび温度をリスト表示しています。

2 台のシリアル・デバイスのいずれかがリストにない場合、または正常に動作していない場合、ハードウェアに問題が生じています。購入された販売店までご連絡ください。

(P5-5)
Engine

Engine タブは Environment および Engine Code の 2 つのセクションに分かれています。

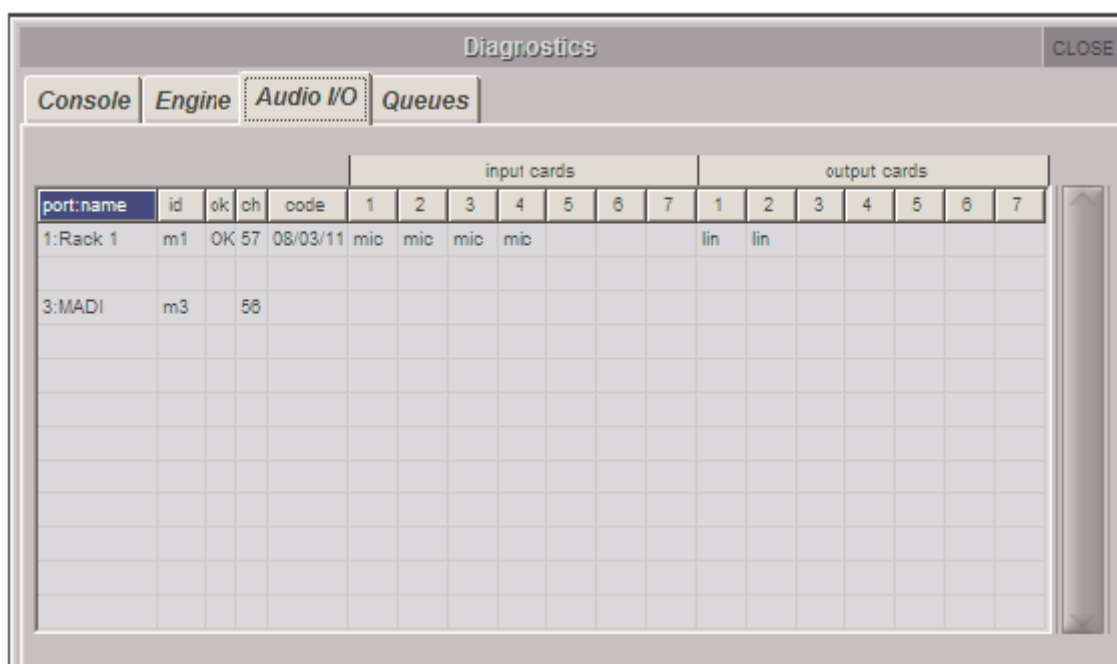
Environment セクションは、エンジン・ボードの Engine Supervisor Code のバージョンおよびエンジン・ボードの電源測定値を表示します。Engine Supervisor Code は、ユーザーによる更新は行えません。エンジン・ボードの電源測定値は数値で表示します。電源が故障している場合、またはエンジン・ボードに故障がある場合、LO と表示されます。表示された場合は購入された販売店までご連絡ください。

Engine Code セクションは、エンジンの Host Code、FX Code、および FPGA Code のリリース日を表示します。これらのコードは、ハードウェアに書き込まれており、ユーザーによる更新は行えません。

downloaded の列は、コンソールが実際に実行したコードの日付が示されています。ソフトウェアの更新を行った場合は available file の日付が downloaded の日付より新しくなることがあります。その場合はコンソールの更新を行ってください。

Engine タブエリアの下側は、Sample Rate、Video Frame Rate、Meter Count が表示されます。この値は、DigiCo が特定の故障を見つけるためのものでユーザーが使用できる用途はありません。

(P5-5)
Audio I/O



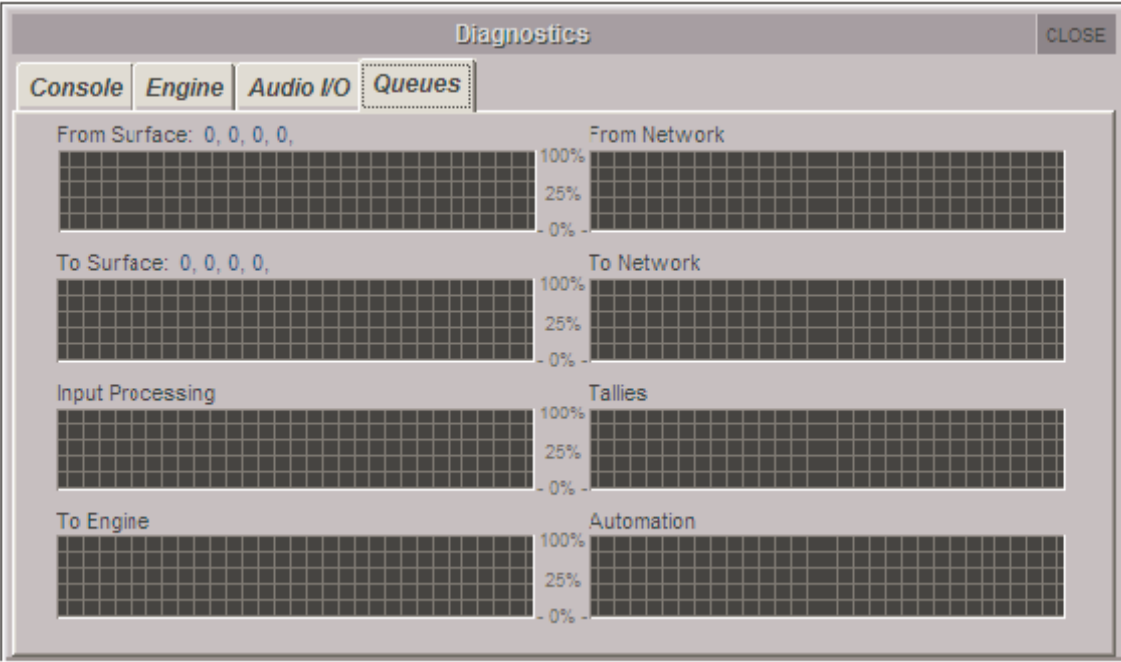
Audio I/O タブではコンソールに接続されている DiGiCo ラックの詳細を確認できます。

SD11 には、2 個の CAT5 D ラックポートおよび 1 つの MADI ポートがあり、各ポートに接続されたラック構成に関する詳細な情報が得られます。これは、ハードウェアの問題や構成の問題を調べるために便利です。

上の図では、Rack として定義された Port 1 が、32 マイク入力（4 枚の 8 入力カード）、ラックの出力スロットの最初にある 1 枚のライン出力カード、1 枚の AES 出力カードで構成されたラックに接続されています。また、ラックの Firmware Code が 11 年 3 月 8 日の日付であることも表示します。

接続したラックの特定のカードや端子について問題がある場合、あるいは Audio I/O パネルがラックの正しい内容を反映していないように思われる場合、Audio I/O タブでカードが実装されているラックのステータス、および接続したラックに対するファームウェア・コード・バージョンを確認できます。

(P5-7)
Queues



通常の動作では Queues タブを使用することはありません。